

目 次

| | |
|----------------------------------|-----|
| 共通教養科目 | 1 |
| 生涯スポーツ | 51 |
| 英 語 医療薬学科・創薬科学科 平成 27 年度以降入学生 | 63 |
| 英 語 医療薬学科 平成 26 年度以前入学生 | 73 |
| 英 語 創薬科学科 平成 26 年度以前入学生 | 89 |
| 英 語 | 99 |
| 第二外国語 | 155 |

共通教養科目

近畿大学の教養教育の目的と目標

前文

近畿大学の建学の精神は、「実学教育」と「人格の陶冶」にあり、教育の理念である「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」を育成することを教育の目的としている。この建学の精神に基づき、社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するために、教育の中核に教養教育と専門教育を据え、それを通して総合的な教育を行うところに、本学の教育の特色がある。

さらに、近畿大学は、「世の中にないものを創り、生み出す」ことを社会的使命と任じ、新たな地平の開拓へ果敢に挑戦する人材を育成する。このような観点に立脚し、近畿大学の教養教育の目的を次のように謳うものである。

目的

「近畿大学の教養教育は、幅広い知識と深い洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を確立することを目的とする」

この目的の達成のために以下の目標をおく。

1. 個人の自由と平等を尊重し、社会において担うべき責任を理解し、公正に判断する能力を養う。
2. 日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う。
3. 課題設定と問題解決の能力を高め、課題に積極的に挑戦する意欲を養う。
4. 健康な精神と肉体を培うとともに、趣味の涵養を通して豊かな人間性を養う。
5. 国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養う。
6. 総合的な視野から専門分野を理解し、その研究に必要な基礎知識を養う。

科目群は、上記目標に対応させて以下のとおりとする。

- ① 人間性・社会性科目群（個人の尊重・社会的責任の認識）
- ② 地域性・国際性科目群（国際的感覚の育成）
- ③ 課題設定・問題解決科目群（課題設定・解決能力の育成）
- ④ スポーツ・表現活動科目群（スポーツ・表現活動を通じた人間性の育成）
- ⑤ 外国語科目群（外国語によるコミュニケーション能力の育成）
- ⑥ 専門基礎科目群

| | | | |
|--------------------------------------|-------|---------|---------|
| 科目名： 人権と社会1 | | | |
| 英文名： Human Rights and Society 1 | | | |
| 担当者： <small>クマモト リサ</small> 熊本 理抄 | | | |
| 単 位： | 開講年次： | 開講期： 前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

現代社会における人権課題を、自己理解、他者受容、社会構造の視点から学修します。「生存権」「労働権」「教育を受ける権利」の保障について、その実態を考察していきます。「自尊心」「多様性」「差別・偏見」「平等」「特権」「貧困」「性」などの概念や実体を歴史的視点と現代的視点から学修します。マイノリティたちによる人権獲得に向けたとりくみについて学修します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、現代社会における人権課題についての知識を得るとともに、自己および他者の人権ならびにそれらと関連する社会構造に対する理解力、思考力、分析力を深め、人間らしく生きること（自立）や他者とつながりあうこと（共生）を日常生活や他者との関係性において実践する力を身につけることを目標とします。この科目の習得は、本学の定めるディプロマポリシー 3 の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に模範レポートを紹介し、要点を解説します。

■教科書

適宜プリントを配布します。

■参考文献

適宜授業中に紹介します。

■関連科目

人権と社会2

■成績評価方法および基準

授業中課題（小レポート）90%
レポート 10%

■授業評価アンケート実施方法

各学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

研究室（本館5階・507号室）
E-mailアドレス（kumamoto@kindai.ac.jp）

■オフィスアワー

火曜日2限と金曜日3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション：授業概要について

第2回 自己理解①自尊心

第3回 自己理解②エンパワメント

第4回 他者受容①多様性

第5回 他者受容②差別・偏見

第6回 平等①「形式的平等」と「実質的平等」

第7回 平等②「特権」を考える

第8回 生存権と貧困

第9回 教育を受ける権利

第10回 労働権①「働く」ことについて考える

第11回 労働権②ジェンダー平等

第12回 性①sexとgender

第13回 性②性の多様性

第14回 人権のまちづくり

第15回 春期人権講演会

| | | | |
|---------------------------------------|-------|---------|---------|
| 科目名： 人権と社会1 | | | |
| 英文名： Human Rights and Society 1 | | | |
| 担当者： <small>フジモト ノブキ</small> 藤本 伸樹 | | | |
| 単 位： | 開講年次： | 開講期： 後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

私たちが暮らす身近な地域社会、そして日本において、さらに他のアジア諸国・地域における人権状況を認識するとともに、人権の保護と推進に向けた課題は何なのかについて考えていきます。同時に、人権保障をめざして、政府や地方自治体、市民社会（人権団体をはじめとするNGO、NPOなど）、さらには国連をはじめとする国際機関がどのような取り組みを行っているのかについて検証していきます。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、多様なルーツや属性を持つ人々、「社会的弱者」などが差別・排除されることなく、人権が保障され、各人が平等に参画できるような社会の実現に向けた道筋を考えるための知識と人権感覚を学習します。この科目の習得は、本学の定めるディプロマポリシー3の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時に振り返りの論評を行います。授業時の小レポート（課題）に絶対的な「正解」はないものの、優れた視点のレポート（回答）を紹介すると同時に、講義内容を誤解していると思われる点があれば質していきます。

■教科書

教科書は使用しません。プリントを授業ごとに配布します。また、ビデオ、DVDなどを使用してビジュアルな授業を行います。

■参考文献

- [ISBN]9784759267211 『世界人権宣言の実現にむけて－日本の人権課題から』（部落解放・人権研究所,解放出版社）[入手可、中央図書館所蔵]
 [ISBN]9784759282795 『知っていますか? 部落問題 一問一答 第3版』（奥田 均,解放出版社）[入手可、中央図書館所蔵]
 [ISBN]9784759210262 『見なされる差別－なぜ、部落を避けるのか』（奥田 均,解放出版社）[入手可、中央図書館所蔵]
 [ISBN]9784759282689 『知っていますか? ジェンダーと人権 一問一答（第2版）』（船橋邦子,解放出版社）[入手可、中央図書館所蔵]
 [ISBN]9784000092661 『在日コリアン権利宣言』（田中 宏,岩波書店）[入手可、中央図書館所蔵]
 [ISBN]9784759282849 『知っていますか? 在日コリアン 一問一答』（川瀬 俊治,解放出版社）
 [ISBN]9784004314608 『ヘイト・スピーチとは何か』（師岡 康子,岩波書店）[入手可、中央図書館所蔵]
 [ISBN]9784750329482 『外国人研修生 時給300円の労働者2』（外国人研修生権利ネットワーク,明石書店）[入手可、中央図書館所蔵]
 [ISBN]9784759261189 『障害者の権利条約でこう変わる Q&A』（東 俊裕,解放出版社）[入手可、中央図書館所蔵]
 [ISBN]9784166608874 『ブラック企業 - 日本を食いつぶす妖怪』（今野 晴貴,文藝春秋）[入手可、中央図書館所蔵]

■関連科目

人権と社会2

■成績評価方法および基準

レポート試験 50%
 授業時の小レポート（5回ていど）の合計点 50%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

E-mailアドレス：nfuji@hurights.or.jp
 授業日以外の平日の連絡先：TEL：06-6543-7003
 一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）
 〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7
 CE西本町ビル8F

■オフィスアワー

質問や相談は、毎回の授業前、あるいは終了後に教室で受け付けます。もしくは、E-mail(アドレス: nfuji@hurights.or.jp) にて連絡してください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

現代社会における人権や社会問題に焦点をあてて授業を進めることから、日ごろからテレビや新聞、インターネットなどによ

るニュース報道に「アンテナ」を張っておくこと。例えば、第5回から8回目の講義に関わる在日外国人の人権状況、および外国人労働者への処遇や受け入れをめぐる課題に関して、近年しきりに報道されたり、議論が活発化しています。そうしたなか、とりわけネット情報にふれる場合、それらが本当に正しい情報・解説なのかどうかを読み解こうとする姿勢および読み解く力（メディア・リタラシー）を培っていくことが大切です。

第1回 オリエンテーション（授業内容と目的の説明）

授業の内容や進め方について

第2回 人権とはなにかー日本と世界の人権課題

人権(human rights)とはなにかを理解したうえで、グローバル化のなかの日本の人権状況と、国際社会における人権の課題や国際人権基準の概要を知る

第3回 被差別部落出身者の人権

部落差別の現状と、差別撤廃のための課題

第4回 女性の人権

就職や職場における課題を中心に、女性の人権を考える
「男女共同参画社会」とは？

第5回 在日コリアンの人権

在日コリアンに対する差別の歴史と現状、人権保障の課題を考える

第6回 在日外国人の直面する人権問題

日本における人種差別の現状と、多民族・多文化共生社会への挑戦

第7回 日本における外国人女性の人身売買

外国人女性が直面する日本での人身売買の実態と、解決への道

第8回 日本への外国人労働者受け入れの課題

日本における外国人労働者・移民の受け入れをめぐる課題を考える

第9回 子どもの人権

子どもが直面している人権課題と、子どもの権利を考える

第10回 障害者の人権

障害者が直面する課題を人権の視点から考える

第11回 貧富の格差と児童労働の現状

途上国の貧困問題や、国内外の貧富の格差を考える

第12回 日本の国際開発協力

日本の政府開発援助（ODA）の課題

第13回 企業の社会的責任（CSR）と人権

国内外で活動する企業の社会的責任をめぐる国際基準を知る

第14回 「ブラック企業」の問題

若者を使い潰す「ブラック企業」の問題を考える

第15回 総括 - 人権保障とは

各回の授業を振り返りながら、本当の人権とは何か、いかに保障するかについてあらためて考える

試験は、授業時に課す小レポートおよびレポート試験

授業で取りあげるさまざまな人権課題に関して、学習したことに基づき自分の考えを述べること

| | | | |
|--------------------------------------|-------|---------|---------|
| 科目名： 人権と社会2 | | | |
| 英文名： Human Rights and Society 2 | | | |
| 担当者： <small>クマモト リサ</small> 熊本 理抄 | | | |
| 単 位： | 開講年次： | 開講期： 後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

国際人権保障システムがどのように発展してきたか、その歴史をたどるとともに、それが現代社会において果たしている役割と課題について考察を深めます。
 国際的な人権保障システムが日本国内における具体的な人権問題に対してどのような実効性や課題を有しているかについて学修します。
 日本の人権状況を国際人権基準に照らして検討し、課題や今後の方向性を考察します。
 国際人権基準や日本の人権水準の向上のための国際社会や日本社会の努力を学修します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者がこの授業を履修することによって、
 1) グローバルかつローカルな視点から、自らの歴史的・社会的立場を理解・認識するとともに、社会を論理的に分析する力を身につける
 2) 人権の視点をもちながら現代社会をどのように生きるか、どのような社会をめざすかを思考する力を身につけることを目標とします。
 この科目の習得は、本学の定めるディプロマポリシー3の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に模範レポートを紹介し、要点を解説します。

■教科書

適宜プリントを配布します。

■参考文献

適宜授業中に紹介します。

■関連科目

人権と社会 1

■成績評価方法および基準

授業中課題（小レポート）90%
 レポート 10%

■授業評価アンケート実施方法

各学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

研究室（本館5階・507号室）
 E-mailアドレス（kumamoto@kindai.ac.jp）

■オフィスアワー

火曜日 2限と金曜日 3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション：授業概要について

第2回 世界人権宣言：市民的政治的権利・経済的社会的権利

第3回 日本国憲法が保障している人権の体系

第4回 国際的な人権保障システムの歴史的発展と国際人権法の国内的実施

第5回 人種差別撤廃条約①表現の自由

第6回 人種差別撤廃条約②ヘイトスピーチ

第7回 子どもの権利条約①外国にルーツをもつ子どもたち

第8回 子どもの権利条約②権利の主体

第9回 女性差別撤廃条約①女性に対する暴力

第10回 女性差別撤廃条約②結婚・家族

第11回 障害者権利条約①社会モデル

第12回 障害者権利条約②合理的配慮

第13回 NPO / NGO活動

第14回 秋期人権講演会

第15回 人権週間人権講演会

| | | | |
|---------------------------------------|----------|--------|-------------|
| 科目名：暮らしのなかの憲法 | | | |
| 英文名：The Constitution in Everyday Life | | | |
| 担当者： <small>リョウ シュウガ</small> 廖 修雅 | | | |
| 単 位：2単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別：選択科目 |

■授業概要・方法等

憲法の意義、歴史について概観した後、憲法が保障する基本的人権をめぐる解釈上の諸問題について講義する。また、憲法は権力分立制を採用し、立法・行政・司法の各作用を国会・内閣・裁判所に分担させるとともに、財政や地方自治についても規定をおいている。これらの統治機構をめぐる解釈上の諸問題についても具体的に検討する。

■学習・教育目標および到達目標

- (1) 基本的人権の機能及び概念を学習し、憲法解釈の基礎を身につけること。
- (2) 憲法が定める統治機構の基本構造を理解し、具体的な解釈上の問題について説得的に論じることができるようになること。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

最終週に解説します。

■教科書

[ISBN]9784762024740『よくわかる法学要説（改訂版）』（本沢 一善,学文社）

■参考文献

なし

■関連科目

民法、刑法、労働法

■成績評価方法および基準

小テスト 40%

中テスト 60%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

■オフィスアワー

授業終了直後

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス

第2回 憲法と立憲主義

第3回 国民主権の原理

第4回 平和主義の原理

第5回 基本的人権の原理、限界

第6回 包括的基本権と法の下での平等

第7回 精神的自由権

第8回 経済的自由権

第9回 人身の自由

第10回 国務請求権と参政権

第11回 社会権

第12回 国会

第13回 内閣

第14回 裁判所

第15回 まとめ

憲法の全体像

中間試験

| | | | |
|-------------------------------|-------|------|---------|
| 科目名：現代社会と倫理 | | | |
| 英文名：Modern Society and Ethics | | | |
| 担当者： ^{モリモト サトシ} 森本 聡 | | | |
| 単 位： | 開講年次： | 開講期： | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

今日は、この科目を担当しています森本です。倫理学（りんりがく）とは、かんたんに言えば、我々の行動ないし行為の善悪について考える学問です。倫理学の講義では、様々な哲学者の倫理に関する考え方を古いものから順番に紹介していくという講義スタイルが普通のようなのですが、この講義はそのようなやり方をなるべくやらないで、現代社会のさまざまな問題を通じて倫理的な考え方を身につけることをめざしています。そもそも倫理学という学問も現実の社会を理解し、その問題点を解決するための学問のはずです。ですから、この講義では過去の学説（がくせつ）の紹介は必要最小限にとどめて、現実の様々な問題に直接、斬（き）りこんでいくことを優先（ゆうせん）したい思います。なお、今年度の講義テーマのほとんどは、いわゆる生命（医療（いりょう））倫理の分野に属しています。生命（医療）倫理とはなにかということも講義中に説明します。それでは新学期にお会いしましょう。

☆昨年度の受講生の感想例（原則として原文のまま。ただし、複数の学部を受講生の感想が混じっています。）

○この講義を通して、普段の生活では知れなかったことや、深く考えるべきことを知れたと思います。いつか自分の身に起こるかもしれないことを、早くに考える機会を得ましたし、今の社会の成り立ちも少し理解できたように思います。私にとっては様々なことが知れる楽しい講義でした。

○医療に携わる者として、“倫理”は欠くことの出来ない大切な要素だと思っていた。しかし、この講義を通して人として不可欠な知識を得ることが出来た。今までこれほど考えさせられる授業は受けたことがなかった。とても充実した1時間半を過ごせていたと思う。ありがとうございました。

○私は、医療関係の知識が少なかったのですが、この講義を履修して、現代にある医療関係の問題を知ることができました。この講義の魅力は、プリントやスライドによる説明だけでなく、映像を見て学べるところだと思います。映像を見たことで、よりたくさんさんの情報を得ることができました。印象に残りました。ありがとうございました。

○最初は倫理なんてと思っていたが、この講義ですべて興味湧いて面白かった。今の社会にはこれだけ倫理的問題があることも知れたし、自分の身にもなる授業だった。ありがとうございました。

■学習・教育目標および到達目標

この講義では、受講生諸君は、

- (1)自分自身の倫理的感覚を養うこと、
 - (2)ドイツの哲学者・カントの倫理的立場や功利（こうり）主義など、倫理学の基本的立場を理解できるようになること、
 - (3)現代倫理学（特に生命（医療）倫理）に関してしっかりした知識を身につけること、
 - (4)将来、自分が社会人となった時に、現実の社会やこれからの人生、さらには医療現場などで直面（ちよくめん）する可能性のある様々な倫理的問題に自分なりのしっかりした考え方でもって対処（たいしょ）できるようになること
- などを学習・教育目標および到達目標とすることになります。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

特定の教科書は使用しません。そのつどプリントを配り、それを用いて講義をします。そのため、ある程度プリントの枚数が多くなること避けられません。そのことに関する苦情はお断りします。

■参考文献

ここでは、下の予習内容と復習内容に含まれている書籍（しょせき）のみ紹介します。（なお、以下の「入手可」とは、アマゾンなどにて古本で入手可であるものも含みます。）他の参考書は多すぎてここに書けませんので、講義中に紹介します。

[ISBN]4790708381 新田孝彦（たかひこ）著『入門講義 倫理学の視座』（世界思想社）【入手可 中央図書館所蔵】

[ISBN]4623041417 小坂国継（くにつぐ）/岡部英男編著『倫理学概説』（ミネルヴァ書房）【入手可 中央図書館所蔵】

[ISBN]4062581698 粟谷剛（あわやつよし）『人体部品ビジネス「臓器」商品化時代の現実』（講談社メチエ）【入手可 中央図書館所蔵】

[ISBN]4130060953 宮川俊行（としゆき）著『安楽死の論理と倫理』（東大出版会）【入手可 中央図書館所蔵】

[ISBN]9784480066718 児玉聡著『功利主義入門ー初めての倫理学』（ちくま新書）【入手可 中央図書館所蔵】

[ISBN]4140840455 アルフォンス・デーケン著『死とどう向き合うか』（NHK出版）【入手可 中央図書館所蔵】

[ISBN]9784140815007 アルフォンス・デーケン著『新版 死とどう向き合うか』（NHK出版）【入手可 中央図書館不所蔵】

[ISBN]4334031803 粥川準二（かゆかわじゅんじ）著『クローン人間』（光文社新書）【入手可 中央図書館所蔵】

[ISBN]4796655336 門倉貴史（かどくらたかし）著『ワーキングプア いくら働いても報われない時代が来る』（宝島新書）【入手可 中央図書館所蔵】

■関連科目

「哲学と人間・社会」など

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

satoshim@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

金曜日の4限目が空いておりますが、質問などの内容によってはあらかじめ資料などを用意しなければならない場合がありますので、要予約とさせていただきます。また、場所などもその時にお知らせいたします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

以下の講義計画はあくまで予定であって、変更の可能性があります。また一つのテーマが一回の講義で終わるとは限りません。また、講義のたびごとに質問カードを配布しますので、もし分からないことがあれば、そのカードを用いて必ず質問し、疑問点は後に残さないようにして下さい。(重要な質問には次回の講義でお答えします。)

第1回 倫理学とは何かということおよび講義に関する諸注意など

倫理学とはそもそも何を学ぶ学問かという質問をよく受けますので、そのことについてまずお答えします。また、この講義を受講する上での諸注意などを行います。

第2回 インフォームド・コンセントについて――医療関係者のさりげない一言が患者を傷つける!?(1)

今回の講義では、病院などで医療行為を受ける場合でも、また、医療関係者が医療行為をおこなう場合でも大切なインフォームド・コンセントという概念（がいねん）が成立した過程（かてい）について学びます。

第3回 インフォームド・コンセントについて――医療関係者のさりげない一言が患者を傷つける!?(2)

今回の講義は、主としてインフォームド・コンセントの正式な手続きについてお話しいたします。

第4回 遺伝子診断（いでんししんだん）――もしあなたの遺伝子診断の結果が悪かったら、あなたはどうする？(1)

今回の講義は、主としてめざましく進歩している遺伝子診断の現状（げんじょう）について講義します。

第5回 遺伝子診断――もしあなたの遺伝子診断の結果が悪かったら、あなたはどうする？(2)

今回の講義は、主として遺伝子診断の倫理的な問題点について勉強します。

第6回 人体の商品化と臓器売買（ばいばい）の問題――あなたの死後、あなたの臓器や組織が「商品」として売られても、あなたは平気？

今回の講義は、先進国における人体の商品化と発展途上国における臓器売買の問題について考えます。

第7回 偉大な哲学者・カントの倫理的立場

今回の講義は、生命倫理を支える重要な柱であるカントの倫理的立場について学びます。

第8回 安楽死（あんらくし）――「植物状態」になった時、あなたは延命（えんめい）を拒否（きょひ）しますか？

今回の講義は、安楽死のはらむ問題性について講義します。一口に安楽死と言っても、消極（的）安楽死や積極（的）安楽死、そして尊厳（そんげん）死は違います。

第9回 功利（こうり）主義について

今回の講義は、生命倫理を支えるもう一つの柱である功利主義についてお話しします。

第10回 ホスピスと末期（まつき）医療――死は怖いだけのものか？

今回の講義は、生命倫理と関係するホスピスと末期医療の現状と問題点について勉強します。

第11回 生命倫理学についての時事（じじ）ネタコーナー(1)

今回の講義は、生命倫理学の分野およびそれと関連する分野で今現在問題になっているいわば時事ネタを取り上げます。内容はその時のお楽しみですが、過去にはクローン技術についてお話をしたことがあります。

第12回 生命倫理学についての時事ネタコーナー(2)

今回の講義も、生命倫理学の分野およびそれと関連する分野で今現在問題になっているいわば時事ネタを取り上げます。内

容はその時のお楽しみですが、過去にはクローン技術についてお話をしたことがあります。

第13回 非配偶（ひはいぐう）者からの精子提供による人工授精（じゅせい）の問題と卵子の値段――あなたは札束（さつたば）をつまれば卵子を売りますか？

非配偶者からの精子提供による人工授精の問題では、これまでその技術によって生まれてくる人の立場に立って考えるという視点がありませんでした。また一方では、人間の卵子の売買もアメリカなどを中心に広がってきています。今回の講義は、これら問題について考えます。

第14回 （社会倫理に関する特別番外編）ワーキングプアと格差（かくさ）社会の問題――あなたも私も将来は公園で空き缶ひろい？

働いているのに年収が二百万円に満たない人をワーキングプアと言います。日本の労働者の三人に一人はすでにワーキングプアであると言われていました。今回の講義は、現在の日本の社会に深刻（しんこく）な影響（えいきょう）を与えつつあるワーキングプアと格差の問題について考察します。

第15回 講義のまとめと試験対策

今回は、今までの講義のまとめをすると同時に、試験対策をおこないます。

定期試験

定期試験期間中に定期テストを行います。

| | | | |
|-----------------------------------|-------|---------|--------------|
| 科目名： 心理と行動 | | | |
| 英文名： Psychology and Action | | | |
| 担当者： <small>ナカミチ キヨ</small> 中道 希容 | | | |
| 単 位： 2単位 | 開講年次： | 開講期： 後期 | 必修選択の別： 選択科目 |

■授業概要・方法等

心理学全般について、行動の観察、行動を指標として実施された調査や実験等から得られた“こころ”のはたらきの基本法則を身近な日常例を題材にして学びます。また、その基本法則を理解するために、教室内で簡単な実験、調査を実施し、その結果を分析します。また、日常生活におけるさまざまな現象を科学的に分析する方法を学ぶ補助資料として、視聴覚教材も使います。講義は受講生が各テーマごとに内容をまとめた講義ノートに重要事項や実験・調査分析結果等を書き込む形で進めます。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、以下のことが習得できます。

- (1)心理学全般にわたる人間のこころの働きについての基本法則、現象、それらを説明する専門用語についての知識を得て、深く人間を理解することができるようになる。
- (2)講義で得られた知識や経験した科学的アプローチを用いて、目に見えないものを数値化したり、多量のデータや情報を論理的に精査して、必要なものを取捨選択したり、非科学的な概念や情報を排除したりすることができるようになる。
- (3)また、自分や周りの人々の行動、自分を取り巻く環境について客観的な基準や概念に基づいて洞察し、科学的、批判的に考察できるようになる。

また、この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業内に出した課題に関しては、翌回の授業時間に解説します。

定期試験に関しては、試験の要点をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

【留意事項】 授業内容に即したプリント（講義ノート）を適宜配布します。

■参考文献

[ISBN]9784563056704 『心理学の基礎』（今田寛, 培風館）

[ISBN]9784762820328 『不思議現象 なぜ信じるのか—こころの科学入門』（菊池 聡, 北大路書房）

【留意事項】

心理学の様々な分野についての基礎知識を得るためには、培風館から発刊されている今田寛・八木昭弘監修の現代心理学シリーズ全16巻を推薦します。

■関連科目

特になし

■成績評価方法および基準

定期試験 65%

授業時間内に出す課題と小実験、調査の分析 35%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

nakamichi@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

出講曜日：前期後期ともに金曜日

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 心理学とは？

一般社会における心理学という学問に対する誤解を示し、心理学とはいかなる学問かを説明する。また、講義目的、到達目標について説明する。簡単な心理学の知識についてのテストを実施し、どれだけ心理学を知っているかを測る。

第2回 心理学の歴史、方法論について

心理学が今までどのように歩んできたかを「研究対象」の歴史を追うことで説明する。

第3回 パーソナリティ①

性格とは何か、また、性格はどのようにして形成されるのかについて講義する。

第4回 パーソナリティ②

性格の測定方法について解説する。

第5回 パーソナリティ③

性格検査を実施して“自分”を測定し、性格検査についての理解を深める。

第6回 学習の理論①（古典的条件づけ）

学びの法則に基づき、自分の行動や他人の行動をコントロールする方法について考える（その1）。古典的に条件づけられた反応（あるいは行動）について学ぶ。

第7回 学習の理論②（オペラント条件づけ）

学びの法則に基づき、自分の行動や他人の行動をコントロールする方法について考える（その2）。オペラント条件づけの強化の原理について学ぶ。

第8回 学習の理論③（条件づけ理論の応用）

日常に起こるさまざまな行動の問題を学習理論（特に条件づけ理論）を用いて解決する方法を探る。

第9回 記憶①

簡単な記憶力テストの実施。自分の記憶力を測ってみよう。

第10回 記憶②

記憶の過程とそれぞれの過程に関わるさまざまな要因について考えよう。記憶の法則を駆使して、記憶力向上法を見つけよう。

第11回 人を愛する心

「恋愛」を科学的に考える。恋ごころの発達について学ぶ。また、恋愛の類型テストを用いて自分の恋愛のタイプを知る。

第12回 適応の心理①（動機）

行動を分析する上で重要な概念である『動機』について解説する。

第13回 適応の心理②（欲求不満、ストレス）

欲求不満に対する反応の種類について説明する。普段自分がよく使用する反応について考えてみよう。ストレスとその対処法について説明する。効果的なストレス対処法とは？何かを模索する。

第14回 「ニセ科学」を心理学的に考える

『血液型と性格』を題材にして、どうして人間がニセ科学を信じるのかを考える。

第15回 改めて、心理学とは？（全講義内容のまとめ）

各テーマごとに講義してきた心理学的アプローチについて復習する。定期試験前に復習しておくべきポイントを説明する。

定期試験

記号選択問題、内容記述問題、穴埋め問題、用語解説問題とさまざまな問題形式から出題します。

| | | | |
|----------------------------------|------------|--------|-------------|
| 科目名：現代経済の課題 | | | |
| 英文名：Problems of Modern Economics | | | |
| 担当者：ナカイ ショウ 仲井 翔 | | | |
| 単 位：2単位 | 開講年次：1～4年次 | 開講期：半期 | 必修選択の別：選択科目 |

■授業概要・方法等

ミクロ経済学の基本的な内容を講義します。私たちの身の回りにある財・サービスの価格や販売されている量は日々変化していますが、なぜそのような現象が起こるのかを、需要曲線や供給曲線を用いて考え、自身の言葉で説明できるようになることを目標に講義を進めていきます。また、需要曲線や供給曲線がどのような意味を持っているのか、そして、需要曲線と供給曲線の交点で与えられる価格は経済においてどのような意味があるのかを詳しく解説します。若干の数式を用いますが、基礎から丁寧に解説します。

■学習・教育目標および到達目標

この講義の到達目標は次の5つです。

- (1)トレード・オフや機会費用、コストとベネフィットなどの経済学独自の考え方を修得する。
- (2)需要曲線と供給曲線を用いて、現実経済に生じている価格の変化、財の需要量と供給量の変化を説明することができる。
- (3)財・サービスを購入するという消費者の行動が、どのように需要曲線に表されているのかを理解する。
- (4)財・サービスを生産し販売するという企業の行動が、どのように供給曲線に表されているのかを理解する。
- (5)消費者や企業が自由に財・サービスを取引することで、何をどれだけ生産し、消費するのかが決定されるという経済の仕組みの性能を理解する。

この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー 1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

UNIVERSAL PASSPORTに要点をフィードバックします。

■教科書

[ISBN]9784535552616『ミクロ経済学』(伊藤 元重, 日本評論社:2003) 価格: 本体3,000円+税

■参考文献

[ISBN]9784492314371『マンキュー経済学 I ミクロ編 (第3版)』(N.グレゴリー マンキュー, 東洋経済新報社:2013)

[ISBN]9784535553910『ミクロ経済学パーフェクトマスター』(伊藤 元重, 日本評論社:2007)

■関連科目

特になし

■成績評価方法および基準

確認演習 35%

定期試験 50%

宿題とレポート 15%

■授業評価アンケート実施方法

各学部の実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

非常勤控室

■オフィスアワー

講義前、講義後の時間に質問を受け付けます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ミクロ経済学とは

・ミクロ経済学の全体像を概説する。特に、ミクロ経済学の重要点である「経済主体は費用と便益を比較し行動すること」や「希少性」、「機会費用」、「トレードオフ」の概念について学ぶ。

第2回 需要

・「需要曲線と何か」、そして「需要曲線のシフト」について説明する。

第3回 供給

・「供給曲線とは何か」、そして「供給曲線のシフト」について説明する。

第4回 需要・供給分析

・「需要・供給分析」のとは、どのような分析なのかを学ぶ。需要曲線と供給曲線の交点で与えられる価格において市場価格が、なぜ決定されるのかを学ぶ。

第5回 需要・供給分析の応用—3段階アプローチ—(1)

・「3段階アプローチ」を用いて、様々な財の価格や取引量がどのように変化するのかを考える。

第6回 需要・供給分析の応用—3段階アプローチ—(2)

・街に新たな駅が開設されたとき、その地域の住宅市場（住宅価格、住宅の供給量・需要量）に対して、どのような影響を与えるのかを学ぶ。
・消費税は誰がどれだけ負担しているのかを考える。

第7回 需要の価格弾力性(1)

・需要の価格弾力性の計算方法とその意味を学ぶ。
・需要の価格弾力性の概念を用いて、なぜ白菜の価格は大きく変動するのかその原因を明らかにする。
・需要の価格弾力性と企業の売上げ収入がどのような関係にあるのかを学ぶ。

第8回 確認演習

・確認演習：第1回から第7回の講義で学んだ範囲で出題

第9回 需要の価格弾力性(2)

・過去に生じた石油危機や、現実的に生じている企業による価格差別などの経済現象は、なぜ生じるのか。その原因を需要の価格弾力性を用いて考える。

第10回 需要曲線と消費者余剰

・消費者余剰は何を表した概念なのかを学ぶ。
・消費者は消費者余剰を最大にするように財の購入量を決定することを学ぶ。

第11回 費用の構造

・企業は利潤最大化を目的として、財の生産を行うことを学ぶ。
・企業が財を生産するときに伴う費用について学ぶ。

第12回 企業の利潤最大化と生産者余剰

・企業の利潤最大化行動を数値例を用いて学ぶ。
・企業がどのようにして、財の供給量を決定しているのかを学ぶ。
・生産者余剰とはどのような概念なのかを考える。

第13回 市場取引と資源配分(1)

・需要曲線と供給曲線が交わる均衡点で与えられる需要量、供給量は経済学的に効率的であることを学ぶ。

第14回 市場取引と資源配分(2)

・課税や貿易規制は資源配分の効率性を歪ませ、消費者の満足度や企業の利潤を低下させる可能性があることを学ぶ。

第15回 市場の失敗

・外部効果が存在すると市場の失敗が生じることを学ぶ。
・公共財、費用逓減産業などが存在すると市場の失敗が生じることを学び、市場の失敗の解決策を考える。

定期試験

| | | | |
|--|-----------|------------|--------------|
| 科目名： 自校学習 | | | |
| 英文名： Studies of Kindai University | | | |
| 担当者： <small>ナカムラ タケオ</small> 中村 武夫・ <small>マツノ スミオ</small> 松野 純男・ <small>オオウチ ヒデカズ</small> 大内 秀一・ <small>ワダ テツユキ</small> 和田 哲幸・ <small>タガ アツシ</small> 多賀 淳 | | | |
| 単 位： 2単位 | 開講年次： 1年次 | 開講期： 通年・集中 | 必修選択の別： 選択科目 |

■授業概要・方法等

「実学教育」、「人格の陶冶」を重視する建学精神と「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成すること」を教育目的とする近畿大学は創設以来、実社会に役立つ人材を育成する「実学」を中心とした実践的な教育と研究を行ってきた。様々な問題を抱える現代社会にあって、「未来志向の実学精神」が求められている。共通教養科目は、その根幹となる重要な科目群であり、今後、社会人として必要な幅広い見識を形成するためのものである。本授業では、近畿大学の学生として、本学の教育理念、教育目標・目的を理解し、自ら学ぶ意欲と習慣を身につけ、今後の学園生活を有意義に送ることができる、その動機づけを目指す。

実施の順序、内容については、変更になることもある。

■学習・教育目標および到達目標

近畿大学の歴史と伝統および今後の展望を知り、大学の一員としての自覚と誇りを持つことができるよう、総合大学としての近畿大学の概要、また近畿大学薬学部ならではの教育・研究内容を知る。さらに自ら学ぶ意欲と習慣を身につけ、社会の要請に応えられるべく人材となるために必要とされる社会人基礎力や人間力修得への動機づけを到達目標とする。この科目の修得は、医療薬学科の定めるディプロマポリシー DP1-1、1-2および創薬科学科の定めるディプロマポリシー DP1-2、2-2の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

課題に対する要点と解説を最終講義回時に配布します。

■教科書

適宜、プリント等を配布する。

■参考文献

[ISBN]9784903966052 『なせば成る!—スタートアップセミナー学習マニュアル』(山形大学出版会：2010)

■関連科目

基礎ゼミ、薬学概論等の主として1年次開講科目

■成績評価方法および基準

課題レポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

(中村) 教育専門部門naktak@phar.kindai.ac.jp
(松野) 教育専門部門smatzno@phar.kindai.ac.jp
(大内) 教育専門部門ouchi@phar.kindai.ac.jp
(和田) 教育専門部門tetsu@phar.kindai.ac.jp
(多賀) 病態分子解析学研究室punk@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

随時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 自校学習について

自校学習とは何か、なぜ自校学習を学ぶ必要があるのかについて説明する。

第2回 近畿大学の理念、教育目標

近畿大学がどのような理念、教育目標をもって、優れた人材を社会に輩出しようとしているかについて説明する。

第3回 近畿大学の建学の精神と教育の目的

「近畿大学の過去・現在・未来」について、DVDを視聴しながら説明する。

第4回 大学での学び

これまでの受身的また暗記タイプの学習ではなく、大学で学ぶに際しての統合型教育（学習）の重要性について述べ、また学習方法の例を紹介する。

第5回 マイキャンパスプランの作成

自己発見レポートの診断結果を参考にしながら、近畿大学での学生生活について、自分で目標・計画を立てる。また、マイキャンパスプラン（学生生活の目標・実行計画）を作成する。

第6回 目的と目標

学生生活における適用を指向して、目的と目標の違いについて説明する。

第7回 戦略と戦術

学生生活における適用を指向して、戦略と戦術の違いについて説明する。

第8回 OB、OGの話を聞こう

近畿大学の卒業生である(株)中村ブレイス 中村俊郎氏からの近畿大学でこれから学ぼうとする人たちへのメッセージをDVDを通して視聴し、有意義な学生生活への心構えについて各自が考究する。

第9回 社会人基礎力と人間力

社会に出るまでに獲得すべき職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力である社会人基礎力および社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力である人間力について説明する。

第10回 時間力と発見力

各人に平等に与えられている時間内で発揮される自分のアウトプットの質と量をコントロールする力である時間力の学生生活への適用について説明する。

第11回 実学と虚学

近畿大学の建学の精神の1つである実学教育に関連して、実学と虚学について説明し、大学での学びを実学とするための示唆を与える。

第12回 近畿大学を体験する（1）

近畿大学の創設者である初代総長 世耕弘一の教育に懸ける熱い思いを、不倒館を見学することを通して体験する。

第13回 近畿大学を体験する（2）

近畿大学の特徴的な施設である英語村でのアクティビティへの参加や国内有数の教育用原子炉を見学することを通して、ユニークな近畿大学施設を体験する。

第14回 近畿大学を体験する（3）

人権講演会への参加を通して、人権を重んじる近畿大学の特色を体験する。

第15回 総括

近畿大学とはどのような目的で建てられた大学か、また建学の精神に基づく人材育成に必要な力（能力）について概説する。

| | | | |
|--|-------------|---------|--------------|
| 科目名： 住みよい社会と福祉 | | | |
| 英文名： Welfare and Society Better to Live In | | | |
| 担当者： ^{クボカツミ} 久保 克己 | | | |
| 単 位： 2単位 | 開講年次： 1～4年次 | 開講期： 半期 | 必修選択の別： 選択科目 |

■授業概要・方法等

金融経済のグローバル化が進み、地球上の富は益々一局集中化し、富者とその他大勢との離断が進行しています。富者には優雅な生活がもたらされ、その他大勢には、住居、就労、健康維持、知識や情報活用などにおいて、さまざまな制限や困難性が拡がりつつあります。

社会福祉政策は、特定の人達（貧困、高齢、障害等）を分類し、特化した方法で各種の生活問題を解決しようとしてきましたが、今やそのようなパッチワーク的な対応では生活困難自体も軽減できない状況です。exclusiveな要因（搾り取られること）が増え続け、inclusiveな側面（全ての人に社会的・文化的共通資本などが行き渡る事）は逆に増えない状況にあります。今こそ、生きることを支える生活基盤自体を全体的に底上げするべき時機ではないでしょうか。

生活を守る事、働く事を守る事、学ぶことや知る事を保障すること、健康を維持すること、そこが安定していけば、国民1人ひとりに安心と余裕をもたらす、その後の活躍につながります。生活困難事象や障害事象を減らしていけば、それぞれの潜在的可能性も相対的に豊かになります。できないことや困難事象を軽減するためにはどうしたらよいか、何が必要なのか。他方、できることを豊かにするには何が必要なのか。講義を通して、我が国の現行法制度の限界を知り、今後の福祉施策を共に考えましょう。

■学習・教育目標および到達目標

個人の能力、頭脳の限界を超えるためには、集合的な頭脳を活用していけば可能です。過去の発明、先人の知恵、多数の人達がお互いの特技等を交換相互活用していくことが新たな集合的能力を生みます。連帯による新たな努力、共同性を広げること、関係性を豊かにすること、分かち合うことなど、ヒトの人間的な特性やヒト本来の姿を探っていきます。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

講義開始時に前回の講義内容をまとめ、講義の継続性を図る。コミュニケーションカードを活用し、学生の理解度を把握しながら、講義内容の統合性を図る。

■教科書

特に指定しない

講義用参考資料（毎回資料を配布する）

■参考文献

「国家はなぜ衰退するのか」：権力・繁栄・貧困の起原（D.アセモグル&ジェームズ.A.ロビンソン）,ハヤカワNF文庫を是非読んでもらいたい

■関連科目

社会保障論、憲法、科学全般

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

本科目に対する積極性・能動性 出席カードの提出 40%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

なし

■オフィスアワー

授業時間の前後

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 生活の社会化、共用化にともなう利点と課題

- ①社会福祉的機能について
- ②welfareとwell-being
- ②講義の流れについて

第2回 現代社会の状況について

- ①一人一人が個人として尊重されていない
- ②個人と社会との関係について
- ③高い自死率
- ④正規雇用が減少し非正規雇用が増加
- ⑤犯罪の増加

第3回 生きること 生き続けること

- ①さかなの中のヒト ヒトの中のさかな
- ②自己組織化を続けること
- ③乱雑化 組織崩壊と個 種として世代に託す

第4回 ヒトの生物学的特徴について探る

- ①他の動物（犬や猫や象など）との違い
- ②そもそもは狩猟・採集を主な生活手段としていた中で生まれてきた人間性というもの
- ②関係力、社会力、コミュニケーション
- ③道具の使用と随意運動
- ④コトバ、記号化と記憶容量の拡大、意識の生成
- ⑤個別化と社会化（利己的・利他的）
- ⑥ヒトには文化的な進歩発展的な側面がある

第5回 働くことについて：傍（ハタ）を楽（ラク）にするということ

- ①働くことがヒトと他の動物との違いを生み出してきた
- ②働くことを介して他者との関係性が豊かになる
- ③貨幣の出現が働く目的、働き方を変えてしまった

第6回 働くことが尊重されていない現代社会

- ①労働者派遣法とワーキングプア現象
- ②安い賃金、厳しい労働条件、ブラック企業化現象
- ③消費活動と自己表現
- ④地域間による求人需要の格差
- ⑤decent workについて

第7回 格差と貧困 相対的貧困

- ①全世界の労働者28億人の内半数14億人は1日2ドル以下の収入
- ②ジニ係数（経済格差の指標）が増加しつつある
- ③富める者には機会が多く、貧しき者には選択肢が少ない
- ④お金がないとできないことが増えていく

第8回 生活困難状況と障害事象

- ①障害の普遍的な定義 ICF
- ②障害は特定の人の特典の問題ではない
- ③誰にもありうる事象

第9回 障害があっても活躍している人達

- ①ケーパビリティ（capability）について
- ②障害と文化的補償
- ③ZPD（発達の最近接領域理論）について
- ④制度や環境を改良すればできることが増える

第10回 障害者雇用率制度と優先座席

- ①積極的差別是正制度の意義
- ②接点が増えれば改良箇所が多く顕在化していく
- ③諸外国の状況
- ④この人達の感性を労働環境に活かせば、働きやすくなる

第11回 障害者雇用企業の紹介

- ①昭和35年にはじめて知的障害者を採用した企業から見えてくること

第12回 shopping for a better world

①大阪府ハートフル顕彰制度について

第13回 良い環境・悪い環境

- ①かつての公害・産業汚染
- ②個人の努力では解決できない課題
- ③原発と廃棄物処理
- ④国家規制というものの必要性
- ⑤農耕が主流となって定住化が進む
- ⑥定住に伴う各種問題
- ⑦人生の2分の1、1日の半分位を過ごす空間と場をどう考える
- ⑧居住環境と健康問題 狭小住宅と寝たきり老人

第14回 制度や法律が活動を制限する事例

- ①らい予防法
- ②精神衛生法
- ③労働者派遣法

第15回 まとめ

これまでの講義内容に関連した課題を与え、各自の考え、提案等をお互いに討議する

定期試験

これまでの講義内容から課題を集約し、小論文を作成していただく

| | | | |
|------------------------------------|----------|--------|-------------|
| 科目名：生活環境科学 | | | |
| 英文名：Living Environmental Science | | | |
| 担当者： <small>ナカムラ タケオ</small> 中村 武夫 | | | |
| 単 位：2単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別：選択科目 |

■授業概要・方法等

人は、その取り巻く種々の環境の中で生活し、生存しています。地球環境のみならず、地域社会環境、家庭環境、教育環境、医療環境、経済環境など、さまざまな環境が人を取り巻いており、その環境の変化は、人の健康状態、生活の質に影響を及ぼします。また日本国憲法第25条において「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と記されています。本授業では、適宜、配布プリントを使用しながら、健康で文化的な生活を営むことについて科学的視点から考究していきます。

■学習・教育目標および到達目標

生活環境の中で起こっているさまざまな事象について、科学的な視点から考え、関連する知識を習得することのみならず、健康で文化的な生活を営むための知恵に関心を持ち、能動的学習態度を修得することを教育目標とします。この科目の修得は、医療薬学科の定めるディプロマポリシー DP2-1、4-1、創薬科学科の定めるディプロマポリシー DP1-2、2-2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験期間終了後に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。

■教科書

適宜、プリントを配布します。

■関連科目

環境衛生学、保健衛生学、生命倫理、医療・薬事関係法規1

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教育専門部門 naktak@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

随時

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 イン트로ダクション

生活とは何かについて共に考え、さらに生活環境の具体例を挙げながら、その中での問題点、社会的課題をピックアップしながら若干の概説を行う。

第2回 健康で文化的な生活

日本国憲法第25条に謳われている健康で文化的な最低限度の生活とはいかなるものかについて、ナショナルミニマムやベヴァリッジ報告等の内容から概説する。

第3回 健康な生活（1）

健康の定義における身体的、精神的また社会的側面について説明し、健康な生活とはいかなるものかについて考える。

第4回 健康な生活（2）

健康な生活に関して、特に精神的な側面よりメンタルヘルスケアについて説明し、生活における休養の重要性について考える。

第5回 文化的な生活

「文化（的）」の定義について概説し、文化的な生活とはいかなるものかについて考える。

第6回 幸福な生活の条件

日本国憲法第13条にある幸福追求における国民の権利、幸福感（観）について概説し、幸福な生活とはいかなるものかについて考える。

第7回 生活基盤としての家庭・家族（1）

家族を中心とした個人の生活空間である家庭は、生活の拠りどころ、拠点である。ヒトが健康で幸福な生活を営む場である家庭、また家庭を構成する家族のあるべき姿について概説し、家庭での虐待という問題点について考える。

第8回 生活基盤としての家庭・家族（2）

生活基盤である家庭・家族における諸問題（赤ちゃんポスト、養子縁組）について概説し、「家庭とは、家族とは」について考える。

第9回 生活環境からの廃棄物（1）

人が生活を営んでいる中で、種々の廃棄物が発生する。食品廃棄物を中心に、排出の現状や行政による取組みを紹介し、食品廃棄物の有効利用について考える。

第10回 生活環境からの廃棄物（2）

「廃棄物」を「有用副産物」として認識し、その資源化有効利用について、「バイオマスニッポン総合戦略」と関連付けながら説明する。

第11回 生活環境における有害物質

生命維持に必須である「水」、また生活を営む上で欠くことのできない水、特に飲料水の安全性について概説する。

第12回 生活の基本的要件

生活の確固とした安全保障は災害発生によって覆されてしまう。災害時におけるライフラインの重要性を再認識し、生活の基本的要件から防災計画について考える。

第13回 生活環境の中で出会う「生」

生活の開始は生命の誕生であり、生活環境の中で出会う「生」は大きな喜びの1つである。生命の誕生は家族にとって歓迎されるべきものであるが、出生前診断や望まない妊娠等によって中絶が選択されることがある。生活基盤となる家族・家庭における生命の誕生について考える。

第14回 生活環境の中で出会う「死」（1）

生活環境の中で出会うさまざまな「死」は大きな悲しみの1つである。自ら生命を断つ自殺は、本人のみならず家族をはじめ多くの人々に影響を及ぼす。自殺の実情や予防対策等について考える。

第15回 生活環境の中で出会う「死」（2）

生活の最終到着点は「死」であり、どのように「死」を迎えるか、安楽死や尊厳死、死生観等の視点から考える。

定期試験

授業中の課題を中心とした記述形式の試験を行う。

| | | | |
|--|-------|---------|--------------|
| 科目名： 国際化と異文化理解 | | | |
| 英文名： International and Crosscultural Understanding | | | |
| 担当者： ^{マサゴ カノル} 眞砂 薫・フィゴーニ ウィリアム | | | |
| 単 位： 2単位 | 開講年次： | 開講期： 後期 | 必修選択の別： 選択科目 |

■授業概要・方法等

薬学部の共通教養科目で、地域性と国際化分野科目の一つです。大学生に必要な「自主的にノートを取り考える力」も養います。国際化社会をどうとらえるかについての基本講義と演習を7回の授業を、日本人教員によって日本語で行い、異文化理解とコミュニケーションについて7回の演習を、ネイティブ教員によって英語で行います。最後に総括、またはプレゼンテーションを行います。Figoni's part is a course in cross cultural communication. Students will learn how some essential ideas and theories that form the study of culture. The students will conduct a survey on "context and culture." The students will do a short research project on another culture and present their findings in class.

■学習・教育目標および到達目標

国際化する世界の問題は、何であるかを指摘でき、その背景や解決方法を簡潔に、英語または日本語で述べることができる。異文化理解をするうえで、英語を中心とした外国語でのコミュニケーション上の問題を体験し、考え、対応できるようになる。大学生に必要な留学しても困らない「学習スキル」を習得する。The students can explain how cultural communication patterns influence how people express themselves.

この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP 2-1,2-2,3-1,3-3,4-2の達成に関連しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説を、学期中の場合は授業中に説明し、学期末にはUNIVERSAL PASPORTに掲載する。

■教科書

適宜、プリントを配布する。ただし各自積極的にノートテイキングすること。

■参考文献

適宜、授業中に指示、紹介する。

■関連科目

英語演習1・2。オーラルイングリッシュ1・2。

■成績評価方法および基準

日本語講義部分定期試験 50%

英語講義部分定期試験 50%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

39号館4階、眞砂研究室、フィゴーニ研究室。masagok@kindai.ac.jp billfigoni@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

眞砂薫：水曜日2時間目、月・水・木・土の12:10～13:10

ウィリアム・フィゴーニ：水曜日1時間目、水曜日12:10～13:10

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Orientation 概論と授業方法

授業内容の概要を紹介し、成績評価の方法や授業方法を紹介し確認する。日本語講義部分の資料配布、また次回のための準備課題を課す。

第2回 Recognition of History and Globalization 国際化時代の歴史認識

社会科の年表的な歴史認識の必要性と、哲学的問題点を考え、討議する。

第3回 Internet and Globalization 国際化時代のインターネットの功罪

国際化社会におけるインターネットが果たす役割を考え、討議する。インターネットの利点のみならず、問題点にも十分踏み込んで議論する。

第4回 Religion and Globalization 国際化時代の宗教

国際化時代の、宗教哲学に関する知識を確認し、また新しい国際化時代の宗教の在り方も含めて討論し、考える。

第5回 Economy and Globalization 国際化時代の経済

国際化時代のグローバル経済とは何か、また経済が国際社会に及ぼした影響について討議し、考える。

第6回 Culture, Identity and Globalization 国際化時代の自国文化と異文化

国際化時代に、自国文化をどのように理解し、異文化をどのように理解するか、自分のアイデンティティーのなかの自国文化とはなにかを考え討議する。

第7回 English as an International Language and Globalization 国際化時代の共通語としての英語

国際化時代の共通語としての英語と、英米人の母語としての英語の違いは何かを考え、英語が母語ではない世界の人々が英語でコミュニケーションをする方法と問題点を考える。

第8回 Introduction

- a) "What is Culture?"
- b) Edward T. Hall-Surface culture v. Deep culture
- c) Discussion

第9回 Context - High vs. Low

- a) Context - High vs. Low
- b) Class survey + discussion
- c) Homework assignment 1

第10回 Report and presentation on "Context"

- a) report and presentation on "Context"
- b) Culture - Surface v. Deep culture
- c) Begin research project

第11回 Verbal vs. Nonverbal communication

- a) Verbal and Nonverbal communication
- b) Video - "Politeness"
- c) Research project
- d) Quiz #1

第12回 Culture shock

- a) Culture shock
- b) Discuss and present research findings

第13回 Stereotyping part1

- a) Stereotyping part1
- b) What's lies beneath the "statement," Reactions and group discussion

第14回 "Images"

- a) Images
- b) Q & A session

第15回 "Keeping a conversation going" - strategies and techniques

- a) "Keeping a conversation going"
- b) Review

定期試験または最終レポート提出とする。

講義内容から出題する筆記試験または最終レポートとする。英語による解答を求める問題もある。

| | | | |
|--|----------|--------|-------------|
| 科目名：基礎ゼミ | | | |
| 英文名：Foundation Seminar | | | |
| 担当者：中村 武夫・岩城 正宏・杉浦 麗子・西田 升三・川畑 篤史・松田 秀秋・鈴木 茂生・高田 充隆・眞砂 薫・仲西 功・伊藤 栄次・川崎 直人・松野 純男・小竹 武・中山 隆志・大内 秀一・角谷 晃司・益子 高・森川 敏生・藤原 俊伸・田邊 元三・和田 哲幸・関口 富美子・北小路 学・三田村 邦子・細見 光一・森山 博由・大鳥 徹・石渡 俊二・多賀 淳・前川 智弘・木下 充弘・村田 和也・二宮 清文・長井 紀章・川瀬 篤史・西脇 敬二・井上 知美・船上 仁範・椿 正寛・緒方 文彦・中村 恭子・田中 博晃・松尾 一彦・藤本 麻依・高崎 輝恒・石川 文洋・坪田 真帆・中村 真也・山本 哲志・山本 佐知雄・八軒 浩子・中村 光・佐藤 亮介・深尾 亜喜良・島田 紘明・大竹 裕子・原 雄大・高倉 知里・武田 朋也・中村 武浩 | | | |
| 単 位：2単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別：必修科目 |

■授業概要・方法等

医療の高度化、薬学の進歩、また医療現場においては患者さんを中心とするチーム医療や医薬分業の推進により、薬剤師には高い能力が求められている。また、科学の進歩や変化に対応して年々新しい知識が加わるため、薬学の勉強量は膨大なものとなっている。したがって、社会のニーズに応える薬剤師、創薬研究者となるためには、自ら問題を見つけ、情報を検索・収集し、得た知識を持って自ら問題を解決する能力が必要となる。そのため薬学生には、これまでの“知識偏重型”の受動的な勉強スタイルから脱却し、自らが課題を見出す「問題発見型」の能動的な勉強スタイルでの学習態度を身につける必要がある。

そこで基礎ゼミでは、提起された課題について少人数のグループでの討論を通じて論理的思考力、表現力、判断力を養成し、またグループの意見を整理して発表することによって、社会に通用するプレゼンテーション能力を獲得することを目指している。

討論する課題は、各グループ内で協議して決定する。そのために、基礎ゼミ開講までに、参考書に指定された図書あるいは薬学に関する任意の図書を読んでおき、その中から討議したいテーマ(課題)を各自提案する。提案された複数のテーマの中から、一つの課題に絞り込む。

毎回の授業は、提起された課題について各自が調査してきた内容を発表し、進行係のリードのもと討論を行う。したがって、図書館やインターネットあるいはフィールドワークなどを駆使して授業時間外に調査・学習することが必須となる。約10回のゼミで議論した内容は、最終的に1枚のポスターにまとめ、ポスター発表形式で成果を発表し、グループ間による討議を実施する。

以上のような内容に重点を置く一方で、この授業は教員と学生間あるいは学生同士のコミュニケーションを促し、大学生活が円滑に送れるようにするための第一歩と位置づけている。

■学習・教育目標および到達目標

基礎ゼミでは、卒業まで目的意識を持って計画的に勉強に取り組めるようになるために学部教育に関するガイダンスを行う。また将来、薬剤師あるいは創薬研究者といった医療に関わる専門家となるために、特定の課題について科学的な視点から「調べる」、「発表する」、「討議する」そして「書く」という基本的なコミュニケーションやプレゼンテーション能力を習得する。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

<一般目標>薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
4. 質問に対する的確な応答ができる。
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

この科目の修得は、医療薬学科の定めるディプロマポリシー DP2-2、3-3、創薬科学科の定めるディプロマポリシー DP1-2、2-1、3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

総合討論時に各アドバイザー教員より、各課題に対する要点の解説を行います。また総括時に全体的な要点について解説します。

■教科書

適宜、アドバイザー教員から助言等を与える。

■参考文献

入学時に配布した推薦図書リストにある書籍

■関連科目

総合薬学研究1、2、3

■成績評価方法および基準

レポート 55%

課題調査・発言内容・議事進行・議事録作成などの授業への取り組み姿勢 45%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

連絡は各アドバイザー教員、あるいは総括担当：中村武夫（教育専門部門）naktak@phar.kindai.ac.jpまで。

■オフィスアワー

各アドバイザー教員のオフィスアワーは、授業時に確認してください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基礎ゼミおよび薬学部履修要項について

基礎ゼミについて（趣旨、進めかた、参加の心構え、スケジュール、成績評価法など）の内容について説明する。そして今後の各回における議事進行係、議事録作成係を決める。また、薬学部履修要項（履修登録、試験、成績評価、進級基準など）や履修確認表による単位認定確認についても説明するので、入学時に配布した薬学部履修要項冊子を忘れずに持参すること。

<到達目標>

- 1) 基礎ゼミの趣旨を理解し、毎回の授業で何をなすべきかを説明できる。
- 2) 薬学部の履修要項を理解し、試験システムや進級基準を説明できる。

第2回 テーマ（課題）設定1

各グループの討論テーマについて話し合う。各自が基礎ゼミ開講までに読んだ図書の概要、感想、疑問点、基礎ゼミで取り上げたいテーマなどを発表し、グループ全員で協議する。できるだけ全員の意見を聞きながらテーマを絞る。議事進行係は、グループのメンバー全員の発言を引き出すように工夫をし、グループの意見をまとめるように努めること。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第3回 テーマ（課題）設定2

第2回目で絞ったテーマについて再度協議し、メンバー全員が納得した討論テーマを決める。少数意見をも無視することなく、メンバーが積極的に意見が出せるよう議事進行係が配慮・工夫しながら自分たちの取り上げるテーマを決定する。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。

6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
 7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。
- (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第4回 グループ討論1

第3回で設定したテーマに関し、各自が調査した内容を発表し、討論を行う。発表をうまく行うためには、調査した内容について資料をもとにあらかじめまとめておく必要がある。各回提出するレポートの別項として、発表内容のポイントを整理して記入しておくこと。グループによる討論は第9回まで続くので、議事進行係は結論を出し急ぐことなく、多くの意見を引き出すように工夫すること。

＜一般目標＞ A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
 7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。
- (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第5回 グループ討論2

設定したテーマに関し、第4回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。他者の意見はよく聞き、よい点は認めつつ、問題点を指摘（批判）するように心がけること。また、批判に対しては感情的にならず、論理的に考えを整理しながら議論すること。対立意見が出ることもあるが、安易に妥協することなく納得できるまで十分な議論を行うこと。議事進行係は活発な議論となるように工夫すること。

＜一般目標＞ A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
 7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。
- (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第6回 グループ討論3

設定したテーマに関し、第5回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。討論にも慣れてくると多くの意見が出てくるが、その中には少数意見も少なからずある。少数意見の中には、多くの人が気づいていない重要な点が含まれていることもあるので、議事進行係は少数意見も大切にしつつ討論を進めるように工夫すること。

＜一般目標＞ A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
 7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。
- (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第7回 グループ討論4

設定したテーマに関し、第6回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。討論も回を重ねると、これまでに出た意見や議論の方向性を再確認する必要も出てくる。その際に重要になるのが議事録である。したがって、各回でどのような意見が出たのか、どのような議論の経緯であったのかをしっかりと記録しておく必要がある。議事録作成担当者は、そのようなことを踏まえて議事録を作成し、内容に関しグループメンバー全員の確認を取っておくようにすること。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第8回 グループ討論5

設定したテーマに関し、第7回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。これまでの討論内容の総括を行いつつ、調査や議論不足のないよう、議事進行係がグループをまとめるとともにメンバー全員が課題解決に向けて、積極的に討論、総括に参加する。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第9回 グループ討論6

設定したテーマに関し、第8回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。次回はこれまでの討論の総括と発表用のポスターの作成に取り掛かるため、議事進行係は今回で討論を終了し、6回の討論内容をまとめられるようにすること。調査や議論不足の点が出てきた場合には、授業時間以外にも時間を作ってメンバーが集まり、問題点を解決しておくこと。

<一般目標> A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

第10回 総括とポスター作成

これまでの議論を総括し、ポスター発表会で説明する事柄の整理を行う。聞き手がわかりやすい発表内容の構成を考え、ポスターの作成に着手する。ポスターに貼付する写真・グラフなどが必要となった場合は、その貼付スペースを空けておき、次回までに準備することを忘れないように。また、次の発表練習で、全体を通して一人で発表できるように準備しておくこと。発表用の原稿を作成しておくのも一つの方法である。

＜一般目標＞ A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

＜一般目標＞薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
4. 質問に対して的確な応答ができる。
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

第11回 ポスター作成と発表練習

ポスター発表会用のポスターを完成する。作製したポスターをもとにグループのメンバーを聞き手として発表する練習を行う。ポスターに書いてある内容を指し示しながら、要領よく説明できるように工夫する。うまく説明できなかった部分については、発表会までに十分に練習をしておくこと。また、想定される質問事項に対する回答、資料なども準備しておくこと。

＜一般目標＞ A 基本事項

(3) 信頼関係の構築

【①コミュニケーション】

5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。

＜一般目標＞薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
4. 質問に対して的確な応答ができる。
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

第12回 ポスター発表会1

第12回と第13回の2回で各グループの発表を行う。発表を行う人と、発表を聞く人に分かれて実施する。2回の発表会の間にすべての発表を一通り聞くように努めること。その際、ただ聞くだけではなく、疑問点やわからない点は発表者に質問をし、また、異なる意見を持っている時にはその場で議論をするように心がけること。

＜一般目標＞薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
4. 質問に対して的確な応答ができる。
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

第13回 ポスター発表会2

第12回に続きポスター発表を実施する。次回に、2回の発表会で議論した内容についてグループ討議を行うので、発表会終了後にレポート（A4用紙1枚程度）を作成しておくこと。議論した内容は、自分たちのグループの発表と他グループの発表とに分けて記入しておくこと。

<一般目標>薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
4. 質問に対して的確な応答ができる。
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

第14回 総合討論

自分たちのグループの発表内容をうまく説明できたか、質問に適切に回答できたかなどを振り返り、よいプレゼンテーションをするにはどうすればよいかについて考える。また、他のグループの発表を聞いて議論した内容などをグループメンバーに紹介し、発表会で得た知識を確かなものにするとともに、他のメンバーの報告を聞いて興味を持った点について討論する。

<一般目標>薬学準備教育ガイドライン

(9) プレゼンテーション

【①プレゼンテーションの基本】

2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。
4. 質問に対して的確な応答ができる。
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。

第15回 総括

グループ討論、発表会をふりかえり、基礎ゼミに対する自分の参加態度はどうであったか、「問題発見型」の能動的な学習に対する意識付けができたかなどを総括する。

| | | | |
|-------------------------------------|-------|------|--------------|
| 科目名：基礎数学 | | | |
| 英文名：Fundamental mathematics | | | |
| 担当者： <small>オオクボノリヒコ</small> 大久保 範彦 | | | |
| 単 位：2単位 | 開講年次： | 開講期： | 必修選択の別： 選択科目 |

■授業概要・方法等

三角関数・指数関数・対数関数・合成関数などの導関数、不定積分、定積分の求め方、および、その応用を学習する。また、変数分離形の微分方程式の解法を学習する。授業中に、実際に自分で問題を解くことによって定理などの内容を理解する。

■学習・教育目標および到達目標

1. 様々な関数の導関数が求められるようになる。
2. 微分法を応用して、様々な関数のグラフが描けるようになる。
3. 様々な関数の不定積分、定積分が求められるようになる。
4. 定積分を応用して、面積が求められるようになる。
5. 変数分離形の微分方程式を解くことができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。

■教科書

適時プリント配付

■参考文献

[ISBN]9784563085520『微分積分(薬学生のための基礎シリーズ 2)』(高遠節夫, 培風館)

■関連科目

物理学概論

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

日常の演習または小テストまたはレポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階・講師控室

メールアドレス：非掲載

■オフィスアワー

火曜,金曜の4,5限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 三角関数

弧度法の定義と三角関数の定義をする。三角関数の性質を学ぶ。

第2回 指数関数と対数関数、片対数グラフ

指数関数の定義と性質を学ぶ。対数関数の定義と性質を学ぶ。片対数グラフの描き方を学ぶ。

第3回 逆関数、関数の極限

逆関数の求め方を学ぶ。関数の極限の計算方法を学ぶ。

第4回 微分係数、導関数

微分係数の定義をする。接線の方程式の求め方を学ぶ。導関数の定義をする。

第5回 導関数の性質

積と商の導関数の計算方法を学ぶ。合成関数の導関数の計算方法を学ぶ。

第6回 逆三角関数と導関数、曲線の媒介変数表示

逆三角関数の定義をする。逆三角関数の導関数を求める。媒介変数表示された曲線の接線の求め方を学ぶ。

第7回 高次導関数、ロピタルの定理、極大・極小

高次導関数の定義をする。ロピタルの定理を用いて関数の極限を計算する。関数の極大値と極小値の求め方を学ぶ。

第8回 関数の展開

マクローリン展開の定義をする。マクローリン展開の応用として、関数の1次近似式と関数の2次近似式を求める。

第9回 確認演習

第1回から第8回までの授業内容に関する演習を行う。

第10回 不定積分、置換積分

不定積分の定義をする。基本的な関数の不定積分を求める。置換積分法を学ぶ。

第11回 部分積分、分数関数の不定積分

部分積分法を学ぶ。分数関数の不定積分の求め方を学ぶ。

第12回 定積分、定積分の置換積分

定積分の定義をする。基本的な関数の定積分の値を求める。置換積分法により定積分の値を求める。

第13回 定積分の部分積分、面積、広義積分

部分積分法により定積分の値を求める。面積を求める公式を学ぶ。広義積分の定義をしてその値を求める。

第14回 微分方程式

変数分離形の微分方程式の解法を学ぶ。

第15回 今までの復習

第10回から第14回までの授業内容に関する復習を行う。

定期試験

第10回から第15回までの授業内容に関する試験を行う。

| | | | |
|---|-----------|---------|--------------|
| 科目名： 情報科学入門 | | | |
| 英文名： Introduction to Science Information | | | |
| 担当者： <small>キノシタ ミツヒロ ハチケン ヒロコ</small> 木下 充弘・八軒 浩子 | | | |
| 単 位： 2単位 | 開講年次： 1年次 | 開講期： 前期 | 必修選択の別： 選択科目 |

■授業概要・方法等

現在はICTの時代といわれ、コンピュータの進歩・インターネット環境や通信技術の発展は非常に目覚しく、多くの企業・職業分野だけではなく、一般家庭においても利用することが当たり前となっている。このような状況の中で、ICTを活用する能力を習得することの重要性は年々高くなっており、大学での学びの基礎としてはもちろんのこと、社会に出る前に習得していることが望ましい。このため本学では、情報リテラシー教育において、コンピュータの基礎知識や情報倫理、アプリケーションやインターネットの操作方法、またそれらを安全かつ有効に利用する方法や知識を早期に習得し、情報化社会に対応できる能力を養う。

■学習・教育目標および到達目標

1. Microsoft Officeアプリケーション(Word/Excel/Power Point)の基本的な操作方法を身に付ける。(ビジネス文章の作成、関数やグラフを使った表作成、スライドによる資料作成レベル)
2. コンピュータの構成などIT基礎知識の習得と、インターネット/SNSのメリットデメリットを理解し、適切な利用方法を身に付ける。
3. 情報セキュリティの重要性を理解し、さらには個人情報の取り扱いや著作権等の基本的なルールを身に付ける。
4. KudosKnowledge(eラーニング)を活用し、自らアプリケーション操作に関するスキルアップを図る。

<到達目標>

A基本事項 (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)
6. データベースの違いが情報検索の結果に与える影響を説明できる。
7. 情報セキュリティに配慮したメールでの情報交換ができる。(知識・態度・技能)
8. コンピュータを用いた情報検索の欠点を指摘し、その解決法を提案できる。(知識・態度・技能)
9. 情報の信頼性、妥当性などを客観的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。
10. ネットによる情報共有の利便性と危険性を説明できる。
11. コンピュータを活用した知識発見の技法を列挙できる。

E3 薬物治療に役立つ情報 (2) 医薬品情報

【②情報源】

7. 情報源として代表的な一次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。
8. 三次資料中の情報に基づいて関連する一次資料を検索できる。(知識・技能)

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

1. コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)
4. インターネットの仕組みを概説できる。
6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度)
7. インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能)
8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

1. ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)
2. ワードプロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

【③セキュリティーと情報倫理】

1. ネットワークセキュリティーについて概説できる。
2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度)
3. データやメディアを適切に管理できる。(態度)
4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。
5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度)

この科目の修得は本学科の定めるディプロマポリシー DP3-3、DP4-1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

「KUDOS KNOWLEDGE」に「試験の要点と解説」を掲載します。

■教科書

[ISBN]978-4-86510-194-2 『情報リテラシー Windows7/Office2013対応版』(富士通FOM株式会社)

■関連科目

基礎ゼミ、情報科学実習1、情報科学実習2

■成績評価方法および基準

中間試験 20%
定期試験 20%
e-ラーニング 60%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

薬品分析学研究室

木下充弘：m-kino@phar.kindai.ac.jp

教育専門部門

八軒浩子：hhachi@phar.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

平日10時～18時、上記研究室で受け付けます。

特にメールでの質問を歓迎します。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション・Windows①

オリエンテーション：授業概要・教育系ユーザーID・パスワードの管理

学内インフラ・サービス：Kindai Mail・施設・設備・Microsoft Officeについて

Kudos Knowledge：本科目の宿題について

UNIVERSAL PASSPORT：履修登録の手順・メール転送設定

Windows①：マウス操作・キーボード操作（入力テクニックとタッチタイピング）

<到達目標>

A基本事項（5）自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5.インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。

6.マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。（技能・態度）

【②ソフトウェアの利用】

1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。（態度）

【③セキュリティと情報倫理】

1.ネットワークセキュリティについて概説できる。

2.アカウントとパスワードを適切に管理できる。（技能・態度）

5.ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。（態度）

第2回 Windows②・情報倫理①

Windows②：パソコンの構成・ウィンドウ操作・ファイル管理・共有ディレクトリ・個人ディレクトリ・KUDOS BASKET

ICTにおける情報倫理：情報セキュリティの必要性・防御知識の習得

著作権：引用と違法ダウンロード刑事罰化

情報化社会の現状と対策：人的脅威と情報の価値

<到達目標>

A基本事項（5）自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5.インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。

3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。（技能）

4.インターネットの仕組みを概説できる。

6.マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。（技能・態度）

7.インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。（技能）

8.検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。（技能）

【③セキュリティと情報倫理】

1.ネットワークセキュリティについて概説できる。

2.アカウントとパスワードを適切に管理できる。（技能・態度）

- 3.データやメディアを適切に管理できる。(態度)
- 4.著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。
- 5.ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度)

第3回 情報倫理②・インターネットの仕組み

情報化社会の現状と対策：技術的脅威の被害と対策
セキュリティ対策：マルウェア・不正アクセス・標的型攻撃と拡張子
インターネットの仕組み
スマートフォンのセキュリティ対策
情報セキュリティの今後

<到達目標>

A基本事項 (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5.インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)
薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)
- 4.インターネットの仕組みを概説できる。
- 6.マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度)
- 7.インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能)
- 8.検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。(技能)

【③セキュリティーと情報倫理】

- 1.ネットワークセキュリティーについて概説できる。
- 2.アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度)
- 3.データやメディアを適切に管理できる。(態度)
- 4.著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。
- 5.ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度)

第4回 SNS

グループワーク：就職活動とSNS
SNSの特性：伝播範囲と速度・炎上と影響範囲・情報拡散の基準

A基本事項 (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5.インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)
薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)
- 4.インターネットの仕組みを概説できる。
- 6.マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度)
- 7.インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能)

【③セキュリティーと情報倫理】

- 1.ネットワークセキュリティーについて概説できる。
- 2.アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度)
- 3.データやメディアを適切に管理できる。(態度)
- 4.著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。
- 5.ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度)

第5回 メール

Kindai Mail：初期設定 (アカウント・メールエイリアス・署名)
メール：メールマナー・送受信・添付

<到達目標>

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

- 1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)

第6回 PowerPoint①

PowerPointの概要・画面構成
基本操作：文字入力・編集・テーマ
スライドショーの実行
スライドの印刷

<到達目標>

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)

2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第7回 PowerPoint②

オブジェクトの挿入と編集：画像・図形・ワードアート・SmartArt・表・グラフ
アニメーション効果：画面切り替え・アニメーション

<到達目標>

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)

2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第8回 PowerPoint③・PowerPoint課題

共通デザインの利用：スライドマスター・ヘッダーとフッター
プレゼンテーション作成手順とプレゼンターの留意事項について
PowerPoint課題：授業内課題（テキストのみ参照可）

<到達目標>

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)

2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第9回 総合演習（演習試験・タイピングテスト）

第1回～第5回を範囲とする択一式の試験を行う。
文章入力のテストを行う。※目標:300字/5分（正確性と打鍵数を評価する）

<到達目標>

A基本事項（5）自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

5.インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

6.データベースの違いが情報検索の結果に与える影響を説明できる。

7.情報セキュリティに配慮したメールでの情報交換ができる。(知識・態度・技能)

8.コンピュータを用いた情報検索の欠点を指摘し、その解決法を提案できる。(知識・態度・技能)

9.情報の信頼性、妥当性などを客観的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。

10.ネットによる情報共有の利便性と危険性を説明できる。

11.コンピュータを活用した知識発見の技法を列挙できる。

【②情報源】

7. 情報源として代表的な一次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。

8. 三次資料中の情報に基づいて関連する一次資料を検索できる。(知識・技能)

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。

3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

4.インターネットの仕組みを概説できる。

- 6.マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度)
- 7.インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能)
- 8.検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

- 1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)
- 2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

【③セキュリティーと情報倫理】

- 1.ネットワークセキュリティーについて概説できる。
- 2.アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度)
- 3.データやメディアを適切に管理できる。(態度)
- 4.著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。
- 5.ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。(態度)

第10回 Word①

Wordの概要・画面構成・文書作成手順・印刷

基本操作：ページ設定・フォント書式・均等割り付け

段落書式：段落番号・箇条書き・インデント・タブとリーダー

<到達目標>

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【③セキュリティーと情報倫理】

- 2.アカウントとパスワードを適切に管理できる。(技能・態度)
- 3.データやメディアを適切に管理できる。(態度)

第11回 Word②

段落書式：間隔

オブジェクトの挿入と編集：画像・表

ページ修飾：ページ罫線

WordとExcelの連携

<到達目標>

A基本事項 (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

- 5.インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)
- 4.インターネットの仕組みを概説できる。
- 6.マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度)
- 7.インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能)

【③セキュリティーと情報倫理】

- 4.著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。

第12回 Word③・Word課題

ページ番号・ヘッダーとフッター・脚注・改ページ

Word課題：授業内課題（テキストのみ参照可）

<到達目標>

A基本事項 (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

【①学習の在り方】

- 5.インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)
- 4.インターネットの仕組みを概説できる。
- 6.マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。(技能・態度)
- 7.インターネットに接続し、Webサイトを閲覧できる。(技能)

【③セキュリティーと情報倫理】

4.著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。

第13回 Excel①

Excelの概要・画面構成

基本操作：データ入力と編集・連続データ作成・セルの書式設定

数式：四則演算・セル参照

関数（基礎編）：SUM・AVERAGE

<到達目標>薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

- 1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)
- 2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第14回 Excel②

相対参照と絶対参照

関数（基礎編）：COUNT・COUNTA・COUNTIF・IF

<到達目標>薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

- 1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)
- 2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

第15回 Excel③

関数（活用編）：VLOOKUP

グラフ：比較・推移・構成比・散布図

<到達目標>薬学準備教育ガイドライン(8)情報リテラシー

【①基本操作】

- 1.コンピュータを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
- 3.電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。(技能)

【②ソフトウェアの利用】

- 1.ソフトウェアの使用上のルール、マナーを守る。(態度)
- 2.ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)

定期試験・タイピングテスト

第13回～第15回を範囲とする実技形式の試験を行う。

文章入力のテストを行う。※目標:300字/5分（正確性と打鍵数を評価する）

- ・Kudos Knowledge「第13回～第15回」を見直しておくこと。※解説を含む
- ・実習ファイル「◆レクシブック>Excel」の「Lesson」と「練習問題」を解答すること。
- ・タイピング練習を行うこと。

| | | | |
|--------------------------------|----------|--------|-------------|
| 科目名：物理学概論 | | | |
| 英文名：Introduction to Physics | | | |
| 担当者： ^{ホリグチ テツオ} 堀口 哲男 | | | |
| 単 位：2単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別：選択科目 |

■授業概要・方法等

物理学は薬学専門教育に不可欠な科目であるが、薬学部に入学者の中には、高等学校で物理学を学んでいないものが多く含まれているのが現状である。本講義の目的は、このような学生に物理学の基礎的事項を理解させ、大学における今後の学習・研究を行う上での下地を作ることである。

■学習・教育目標および到達目標

薬学専門教育を受けるために必要な物理学の基礎的事項を理解することを到達目標とする。また、放射線・放射能に関連した知識と考え方を習得することを目的とする。

この科目の修得は本学科の定めるディプロマポリシー DP3-3、DP4-1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

確認演習の翌週の講義中に、確認演習の正解を板書にて説明する。

■教科書

[ISBN]9784780600728『薬学の基礎としての物理—薬学準備教育ガイドライン準拠』（大林 康二,学術図書出版社）

■参考文献

[ISBN]9784320034617『薬学生のための物理入門—薬学準備教育ガイドライン準拠—』（廣岡 秀明, 共立出版）

[ISBN]9784062576055『マンガ 物理に強くなる—力学は野球よりやさしい（ブルーボックス）』（関口 知彦（原作）, 講談社）

[ISBN]9784879623621『RIの逆襲—アイソトープを活用した簡単・安全バイオ実験（細胞工学別冊 実験プロトコルシリーズ）』（岡田誠治, 秀潤社）

■関連科目

応用物理学

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

確認演習 40%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2 2号館4 階 原子力研究所第2 研究室

thori@msa.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日 4 限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 インTRODクション・基本概念（1）

- ・物理量
- ・スカラー量とベクトル量

<到達目標>物理量にはすべて単位があり、基本単位を組みあわせることにより表わされることを理解させる。また、スカラー量とベクトル量の概念を説明できる。

第2回 インTRODクション・基本概念（2）

- ・不確かさと有効数字

<到達目標>今後の実験に必要な有効数字、測定誤差について説明できる。

第3回 運動の法則（1）

- ・力のつり合いの概念
- ・斜面における力のつり合い

・静止流体の性質

<到達目標>力のつり合いの概念を理解させ、斜面における力のつり合いの問題を通して摩擦力を理解する。また、演習問題をとおして、静止流体の圧力、浮力の概念を理解する。

第4回 運動の法則（2）

・速さと速度

・ニュートンの運動の法則

・力のつり合い

<到達目標>位置、速度、加速度の概念を理解させ、ニュートンの運動の法則より、物体の運動について説明できる。

第5回 運動の法則（3）

・落体の運動（自由落下、放物運動）

<到達目標>ニュートンの運動の法則より、自由落下、放物運動の問題を解くことができる。また、空気抵抗のある場合の落下運動についても説明できる。

第6回 運動の法則（4）

・等速円運動

・単振動

<到達目標>等速円運動における加速度、周期を理解させる。また、ばねにより物体にはたらく力より単振動について説明できる。

第7回 運動の法則（5）

・運動量と衝突問題

<到達目標>2つの物体の衝突問題より、運動量と力積の概念を説明できる。

第8回 確認演習および解説

第7回までの学習内容のまとめの演習を行い、その解説を行う。

第9回 エネルギー（1）

・仕事

・いろいろなエネルギー

<到達目標>仕事の概念とエネルギー、エネルギー保存の法則を説明できる。

第10回 エネルギー（2）

・エネルギー保存の法則

<到達目標>ばね問題、衝突問題を通して、具体的にエネルギー保存の法則を説明できる。

第11回 エネルギー（3）

・気体の法則

・気体分子の運動1

<到達目標>気体分子の運動の観点から気体の圧力を説明できる。

第12回 エネルギー（4）

・気体の法則

・気体分子の運動1

<到達目標>気体分子の運動より、気体の圧力、内部エネルギー及び熱力学第1の法則を説明できる。

第13回 波動（1）

・波の表わし方

・波の基本的な性質

<到達目標>波を記述する量として周期、振幅等を理解させ、波の基本的な性質である重ね合せ、反射等を説明できる。

第14回 波動（2）

・音波

・光波

<到達目標>波の応用として、音波、特にドップラー効果、光波、特に光の干渉について説明できる

第15回 講義のまとめ

- ・原子核の構造
- ・放射線とその性質
- ・放射線測定器
- ・講義全体のまとめ
- ・授業評価

<到達目標>実際に医療分野で使用されている放射性物質や放射線測定器を紹介し、その原理や測定方法を説明できる。

期末試験

講義全体の内容理解度を確かめるテスト

| | | | |
|--|-----------|---------|--------------|
| 科目名： キャリアデザイン I | | | |
| 英文名： Career Design I | | | |
| 担当者： ヤギ アキラ ナカムラ タケオ ナカニシ イサオ マエガワ トモヒロ キノシタ ミツヒロ ムラタ カズヤ 八木 章・中村 武夫・仲西 功・前川 智弘・木下 充弘・村田 和也 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 1年次 | 開講期： 前期 | 必修選択の別： 必修科目 |

■授業概要・方法等

現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にある。同時に企業組織、従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」でなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくことが必要になっている。

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性をもったキャリア開発を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送り、卒業後も社会人としてその知恵を活かすことを一人ひとりが自覚・認識することを「キャリアデザイン I」の狙いとする。

授業の中に企業人、OB OG、先輩学生からも事例の提示を受け、討議する形式も取り入れる。

■学習・教育目標および到達目標

自分の思いと、性格・行動特性などの自己分析結果をすり合わせ、将来の目標を考えることができる。またキャリアデザインの重要性を他人に説明できるようになると共に自分のキャンパスプランに反映させることができる。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー DP1-2、2-2および3-3の達成に關与します。

■教科書

[ISBN]9784502399800 『キャリア・マネジメント—企業・大学・公的機関の取り組み』（八木 章, 中央経済社：2008）

■参考文献

[ISBN]9784822295738 『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第2版』（大宮 登, 日経BP社：2014）

■関連科目

薬学概論 他

■成績評価方法および基準

毎回の授業での小テスト・レポート 30%

授業への積極的参画、質問・発表 20%

筆記試験（論述式）50%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

授業終了時に対応する。

■オフィスアワー

授業終了時に対応する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス

科目の全体の流れ、個々の回のトピックスを紹介し、レポート課題など授業の進め方など履修上の留意点を説明する。

第2回 雇用・就労環境の変化

個人の選択肢が多様化してきており、漫然と生きていると「流される」危険性が強くなっている。非正規雇用の拡大、ニート・フリーターの抱える課題など。

第3回 企業・公務員就職に関するガイダンス

企業就職における意識や業界研究の仕方を、業種を紹介しながら行う。就職内定者による体験談も行う。また、公務員就職については試験の概要やその準備について、職域等についても概説する。

第4回 企業の人的資源管理の変化とキャリアデザインの必要性・重要性

いわゆる日本の経営の三種の神器の後退→個人の自立と自律の必要性。エンプロイアビリティなど。「キャリア」の概念を理解し、自らのキャリアデザインを描くことの必要性・重要性を認識する。

第5回 自己理解

肯定的な自己概念等。パーソナリティ分析や、キャリア・アンカーなどからみた自分自身を考察する。

第6回 企業就職環境の変化とその対応課題

就職関連企業による就職環境の状況、及び準備、学修上の心構えなど実践的レクチャーをもとに、学生同士の討議、講師との質疑を行う。

第7回 キャリア形成と目標管理

目標設定と行動計画をもつことの重要性。P D C Aサイクルなど。

第8回 メンタルヘルスとワーク・ライフバランス

ストレス管理、メンタル不全に陥らない対応など。ワークキャリアとライフキャリア（狭義と広義のキャリア）の関連。バランスのとれたキャリアデザイン、自分らしく生きることなど。

第9回 進路設定、実践活動の具体的な事例研究

O B ・ O G による成功・失敗事例の発表と討議、質疑応答を通じて考察を深める。

第10回 働くことの意味、目的

職業観の変化、職業の意義とその要素など。

第11回 モチベーション

自らのキャリアデザインに向かったの主体性・自律性をもつことの重要性。組織のモラルとの関連。

第12回 企業が求める人材像、スキル

企業人による具体的な採用方針、選考方法、育成制度などの実践的な内容のレクチャーと学生からの質疑応答を通じ個人毎の対応を考察する。

第13回 本大学のキャリア・サポートシステム

課外講座、インターンシップ、就職支援体制など。

第14回 計画された偶発性（クランボルツ）

学習・経験を積むことの意義。偶発性を自らのキャリアデザインの好機にしていくこと。

第15回 自らの学生生活における目標設定と行動計画

自分自身のキャリアデザインをイメージし、そのための有意義な学生生活となるように目標と計画を考察する。

| | | | |
|----------------------------------|-------|------|--------------|
| 科目名： 日本語の技法 | | | |
| 英文名： Skills of Japanese Language | | | |
| 担当者： <small>ヨシダ ユイ</small> 吉田 唯 | | | |
| 単 位： 2単位 | 開講年次： | 開講期： | 必修選択の別： 選択科目 |

■授業概要・方法等

この授業では、レポート・論文の作成方法を中心に、日本語の表現方法を学ぶことを目標とする。実際に課題や文章を書くことにより習得してもらう。

■学習・教育目標および到達目標

自らの考えを、口頭もしくは文章にて表現できるようになるための能力を習得する
この科目の習得は、近畿大学の教養教育の目的3の達成に参与しています。

また、各学科（コース・専攻）ディプロマポリシーとの対応については、学科（コース・専攻）カリキュラムマップに準じるものとする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業内の課題については、翌週以降に返却します。

期末レポートについては、事前に評価基準を説明します。

■教科書

授業中にプリントを配布する

■参考文献

授業中に随時紹介していくが、主に使用するのは福嶋健伸・橋本修・安部朋世『大学生のための日本語表現トレーニング』（三省堂）である。

■関連科目

なし

■成績評価方法および基準

論述式の定期試験 50%

授業内課題 50%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（21号館2階）

yuixiuy@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

授業終了後

■授業計画の項目・内容及び到達目標

本授業は、日本語の表現方法を学ぶことが主眼です。その際に重要なことは、自分の考えていることを相手に伝えることが出来るかどうかです。さらにレポート等を作成する際には、文章力のみならず、論理的思考力も必要となります。それらを培うためにも、自分が何を勉強すべきなのは、自分で考えてください。

第1回 ガイダンスと日本語表現について

第2回 日本語表現のルールについて

第3回 文章作成のための基礎知識

第4回 敬語1

第5回 敬語2

第6回 メールの書き方について

第7回 メモの取り方について

第8回 説明の仕方について

第9回 資料の調べ方について

第10回 レポートの書き方について

第11回 資料（グラフ・図）の説明の仕方について

第12回 口頭発表の仕方について

第13回 口頭発表（実践）

第14回 口頭発表（実践）

第15回 総復習

生涯スポーツ

近畿大学の健康スポーツ教育について

I. 大学における健康スポーツ教育の目的

大学における健康スポーツ教育の目的は、「自己のライフステージや心身の状態に適した身体運動やスポーツを生活の中に積極的に取り入れ、人々との交流を通じて、豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につけること」です。

具体的には、一つは健康・体力の回復・維持・増進という「健康への配慮」、一つは余暇の増大、生活の質の向上、生活意識の変化にともなう文化的な欲求としての「豊かな生きがいの創造」です。

すなわち、生涯にわたる身体運動・スポーツ活動を通じてすべての人々が豊かに生き生きと生きることと、自己を表現できることを目的としたものであり、各自がライフステージに対応した自己開発や自己表現がなされること、そして身体運動・スポーツ活動をすることが自己目的化されることを教育の目的としています。

そのために、健康スポーツ教育の目標を以下のように焦点づけています。

1. 生涯にわたる健康管理や、健康・体力の回復・維持・増進を図るための素養を高める。
2. 身体運動・スポーツ活動の中で、「新しい動きの体験」を享受することにより、運動する喜びとともに共生する喜びを体得する。
3. 身体運動・スポーツ活動に関する科学的「知」を動くことによって実感し、探求する。
4. 身体運動・スポーツ活動をすることによって得られる集約的な身体の「知」を体得し、生涯スポーツ活動の素養を養う。

II. 授業について

本学がおこなう健康スポーツ教育の授業は以下の通りです。

1. 健康とスポーツの科学（講義 2単位）半期開講 ※一部の学部のみ開講
2. 心と体の健康（講義 2単位）半期開講 ※一部の学部のみ開講
3. 生涯スポーツ1（実技・実習 1単位）前期開講
4. 生涯スポーツ2（実技・実習 1単位）後期開講

*教職課程を履修する場合、生涯スポーツ1および生涯スポーツ2は必修科目です。

*健康運動実践指導者の称号資格を希望する場合（経営学科スポーツマネジメントコース）、生涯スポーツ1および生涯スポーツ2は必修科目です。

1) 健康とスポーツの科学（講義）

開講学部：理工学部・経営学部・短期大学部・総合社会学部・建築学部・国際学部

今日の学生が持つ多様なニーズに応えるための試みとして、「生涯学習」の視点から「健康とスポーツの科学」についてさまざまな角度から講義をします。

- (1) スポーツ科学の基礎知識
- (2) 健康科学の基礎から応用
- (3) 健康の自己管理論

※詳細は各学部シラバスを参照

2) 心と体の健康 (講義)

開講学部：経済学部・文芸学部

現代人が抱えるさまざまな心身の健康問題を「心」から「体」、「体」から「心」へ、そして「心身一如」といった視座から心身の密接で統合的な関係に気づき、総合的な人間の見方について、実践より見出されたスポーツ科学の視点から講義をします。

- (1) 健康という心身のあり方の理解
- (2) 自己理解・他者理解
- (3) コミュニケーションの理解
- (4) 社会のなかで生きているという自分の理解

3) 生涯スポーツ 1・2 (実技・実習) ※開講 (1～4年)

生涯スポーツ 1・2 は、体育・スポーツに関する専門的知識と基礎から応用まで運動技術・技能の習得を目指すものです。具体的には、

- (1) プレイ・レジャー・コミュニケーションとしてのスポーツ
- (2) 健康づくりとしてのスポーツ
- (3) 身体能力開発としてのスポーツ

と、3つの視点からスポーツのあり方を理解し、実技・実習を行います。尚、生涯スポーツ 1 は「基礎的」、生涯スポーツ 2 は「応用的」な視点で実施し、以下の授業目的、内容をもって実施します。

授業目的： 生涯スポーツ 1 および生涯スポーツ 2 の授業は、実技を中心とした実習科目です。健康やスポーツに関する専門的知識の獲得のための講義や VTR などの視聴覚教材を利用して授業を行う以外は、グラウンドや体育館で実施します。両科目ともスポーツ・運動教材を用い、体力・運動能力の向上あるいはその方法、健康の意義とその保持・増進の方法などを習得することを目標としています。

ただし、生涯スポーツ 2 は、生涯スポーツ 1 と比較して、より専門的な知識の獲得や幅広い体力・運動能力の習得を目指しています。

また、生涯スポーツ 1・2 とも、授業時に 2 回あるいは 3 回にわたってフィットネスチェックを実施します。フィットネスチェックとは、各自の健康状態に関わる心身状態（日常生活における心身の健康に関わるチェック、形態・体格）、体力・運動能力の測定です。フィットネスチェックでの測定結果は、受講生の学習に役立つ

つよう統計処理を行います。

授業内容： 生涯スポーツ 1 および生涯スポーツ 2 の授業は、一つの時限に複数の担当者が、それぞれ異なった運動教材で、それぞれが異なった授業展開をします。
スポーツ種目は、配布プリントもしくは近畿大学ホームページを参照してください。
<http://www.kindai.ac.jp/campus-life/lesson/lifelong-sport/index.html>

授業時間外に必要な学修： 授業で与えた健康問題・課題を日常生活の中で取り組み、実践し、その理解を深めること。

Ⅲ. 成績評価について

成績評価は、以下の2つの課題の達成度によって行われます。

身体的課題の達成度 (50点)

身体活動量の確保、技術・技能の獲得、戦術戦略の理解

心理・社会的課題の達成度 (50点)

努力・意欲の度合、コミュニケーションの度合、マナー・礼節の実践

Ⅳ. 履修登録についての注意

1. クラス分け (第1回目授業にて)

- 1) 受講生の各種目によるクラス分けは、記念会館において、「生涯スポーツ 1」は4月の第1回目の授業、「生涯スポーツ 2」は9月の第1回目の授業で行います。
- 2) 受講希望者は記念会館に集合すること。配布資料を参考に各担当教員の説明を聞き、第1希望から第3希望まで希望するクラスを選択しておきます。
- 3) 各クラスには、円滑な授業運営および安全確保のために定員 (20～40名) を設けています。
- 4) 各クラスにおいて希望者が多数の場合は各担当教員が抽選を行います。

2. 受講許可証の発行

- 1) 受講クラス決定後、受講許可証を発行します。
- 2) 受講許可証は大切に保管してください。
- 3) 受講許可証をもとに各自で履修登録 (web 登録) を行います。曜日・時限・担当教員名を確認し、登録ミスがないよう細心の注意を払ってください。
- 4) **受講の許可なく履修登録をした学生の受講は認められません。**

3. クラス分けを欠席した場合

- 1) 諸事情で第1回目授業を欠席した学生は、履修相談窓口にて受け付けます。受講

クラスは、定員に達していないクラスでの選択になります。

2) 履修相談窓口は、以下の日程で行います。

◎東大阪キャンパス

(生涯スポーツ1)

期日：4月7日(金)～4月13日(木)ただし、土日祝は除く。

時間：午前11時～午後1時・午後1時～3時・午後4時～6時

場所：11号館1階 生涯スポーツ担当教員控室

(生涯スポーツ2)

期日：ユニバーサルパスポートに掲示します。

時間：午前11時～午後1時・午後1時～3時・午後4時～6時

場所：ユニバーサルパスポートに掲示します。

※履修相談窓口にて、受講クラスを決定し、受講許可証受領後、各自で履修登録(web登録)を行うこと。

3) 履修登録を間違えた場合、履修登録期間内に各自、修正してください。

4) 決定した受講クラスの変更は、特別な理由がない限り認められません。

5) **上記1)～4)の手続きを怠ると、各自がweb登録を行っても「受講許可証」は発行されないで、受講は認められません。**

V. 実技・実習の履修上の注意

1. 実技・実習は、巻末の地図に示されたスポーツ施設において実施します。
2. 授業場所は「生涯スポーツ時間割ホームページ」に記載しています。雨天など天候変化、グラウンド状態不良等の理由により、授業場所を変更する場合があります。授業場所変更については、授業前に、生涯スポーツ担当教員控室(11号館1階)、記念会館ロビーの掲示板に掲示されますので、事前に確認をしてください。
3. 実技・実習等の服装はトレーニングウェア及び運動靴を使用すること。眼鏡、時計、指輪、携帯電話など、破損しやすい物は、危険防止の見地からも、授業中できるだけ携帯しないでください。万一破損があっても保障することはできません。外傷などの身体的事故についての注意、万一の場合の処置については「実技・実習上の安全対策」の項を熟読すること。
4. 屋内(記念会館、記念会館別館、剣道場、KEEPなど)の授業では必ず館内シューズを使用すること(KEEPで使用する館内シューズは担当教員の指示に従う)。また、グラウンドでは担当教員が認めた運動靴を使用し、テニスコートではテニスシューズを、人工芝グラウンドでは専用シューズを使用してください。
5. 各クラスの更衣場所については、担当教員の指示に従ってください。
6. 授業に関する不明な点は、生涯スポーツ担当教員控室(11号館1階)に問い合わせてください。
7. 貴重品の管理は、各担当教員の指示に従ってください。
8. 実技科目である特性上、欠席日数が4回以上もしくは、それに相応する遅刻等がある場合は不可とします。

9. 再試験は、原則、実施しない。ただし、事情等を勘案し実施する場合、対象となるのは欠席回数が4回未満の者とします。

VI. 実技・実習上の安全対策

実技・実習における安全管理は、日常生活の自己管理からです。自己管理されたリズムある日常生活は、最優先されるべき実技・実習上の安全対策です。

しかし、実技・実習中には、避けることのできない不可効力的な事故も発生します。多くのケースは、もう少し注意しておけば、あるいはもう少し準備・配慮しておけばといったことがしばしば見受けられます。不摂生な生活、睡眠不足などによる注意不足・散漫などが起因である場合が多いです。事故は、自分だけでなく他の受講生に対しても多大な迷惑をかけることとなります。

日常生活の中での自己管理も踏まえ、実技・実習の際に以下の事に注意してください。

1. 自己管理について
 - 1) 暴飲、暴食をしない
 - 2) 十分な睡眠を取る
 - 3) 朝食を摂る
 - 4) 規則正しい生活を送る
2. 服装について
 - 1) トレーニングウェアを着用すること
 - 2) 指定された靴を使用すること
 - 3) 時計、指輪等の装飾品を身に付けないこと
 - 4) 爪は切っておくこと
 - 5) 長い髪は束ねること
3. 用具について
 - 1) 使用用具の取り扱いは、担当教員の指示に従うこと
 - 2) 各種目の用具の特殊性を熟知し、慎重に取り扱うこと
4. 活動中について
 - 1) 担当教員の指導上の注意、助言を厳守すること
 - 2) 各種目のルール、マナーを厳守すること
 - 3) 感情的にならないこと
 - 4) 心身の不調をきたした場合、すぐに担当教員に申し出ること
5. 事故の処置について

実技・実習中に万一外傷、その他授業が継続できないような事故が発生した場合、以下のような要領で処置をします。

- 1) 事故発生時

担当教員に申し出て指示を受けること。原則として次のように処置をしま

す。大学保健管理センター（11月ホール3階）で処置を受ける。

2) 学外の医療機関で治療した場合

学生部学生生活課に届け出ること。その際、大学で扱う医療費給付制度などを確認すること。

参考：近畿大学学園学生健保共済会ホームページ(<http://www.kindai-wellness.jp/>)

近畿大学学園学生健保共済会発行「WELLNESSガイドブック」

| | | | |
|------------------------|----------|--------|-------------|
| 科目名：生涯スポーツ1 | | | |
| 英文名：Lifelong Sports 1 | | | |
| 担当者：詳細はホームページを参照してください | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別：選択科目 |

■授業概要・方法等

運動教材2種目を用いて授業が展開されます。

運動教材については、開講の曜日・時限により異なりますので、初回の授業時に確認してください。

第1回目の授業は記念会館へ集合し、配布する資料を参考に受講クラス(種目・担当者)を決定します。

安全な授業の展開のために、各クラスには定員があります。定員を超えて受講希望があった場合には第2、第3希望のクラスへ回ることがあります。

生涯スポーツ1の受講希望者は必ず出席し、「受講許可書」を得てから履修登録を行なってください。

*「受講許可書」がなければ履修できません。

*教職課程を履修する場合、生涯スポーツ1および生涯スポーツ2は必修科目です。

*健康運動実践指導者の称号資格を希望する場合(経営学科スポーツマネジメントコース)、生涯スポーツ1および生涯スポーツ2は必修科目です。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、

- 1) 健康の維持・増進、体力・運動能力の向上とその意義についての科学的理論を理解し、
- 2) 各種スポーツの基本的運動技術・技能・ルールを学ぶことによって、自らすすんで運動・スポーツを楽しむことのできる態度を養い、
- 3) 生涯にわたり健康的な生活を営む能力が身につく。

生涯スポーツ1の学習内容は、生涯スポーツ2と比較し、より基礎的・一般的なものを扱います。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後に設題の趣旨と評価方法について解説します。

■教科書

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

■参考文献

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

■関連科目

「健康とスポーツの科学」「心と体の健康」

■成績評価方法および基準

身体的課題の達成度(身体活動量の確保、技術・技能の習得、戦術・戦略の理解と応用)50%

心理的・社会的課題の達成度(努力・意欲の程度、コミュニケーションの度合、マナー・礼節の実践)50%

■授業評価アンケート実施方法

学部の実施規定に準拠して行ないます。

■研究室・E-mailアドレス

問い合わせは11号館1階「生涯スポーツ担当教員控室」まで。

(ihss@kindai.ac.jp)

■オフィスアワー

担当教員により異なるので、問い合わせること。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

授業計画は各担当者が作成し、「生涯スポーツ時間割・シラバス」は下記のホームページに明示しています。ただし、第2回～第4回目の授業は全クラス共通でフィットネス・チェックを実施します。測定項目は、形態測定・安静時心拍数・血圧・筋力・筋持久力・柔軟性・敏捷性・全身持久力などです。

| | | | |
|------------------------|----------|--------|-------------|
| 科目名：生涯スポーツ2 | | | |
| 英文名：Lifelong Sports 2 | | | |
| 担当者：詳細はホームページを参照してください | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別：選択科目 |

■授業概要・方法等

次に示す運動教材のうち1種目を用いて授業が展開されます。
 運動教材は、開講の曜日・時限により異なりますので、初回の授業で確認してください。
 生涯スポーツ2は9月第1回目の授業時に記念会館へ集合し、配布資料を参考に受講クラス(種目・担当者)を決定します。
 安全な授業展開のために、各クラスには定員があります。定員を超えて受講希望があった場合には第2希望、第3希望のクラスへ回ることがあります。
 生涯スポーツ2の受講希望者は必ず出席し、受講許可書を得てから履修登録を行なってください。
 *受講許可書がなければ履修不可です。
 *教職課程を履修する場合、生涯スポーツ1および生涯スポーツ2は必修科目です。
 *健康運動実践指導者の称号資格を希望する場合(経営学科スポーツマネジメントコース)、生涯スポーツ1および生涯スポーツ2は必修科目です。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、
 1) 健康の維持・増進、体力・運動能力の向上とその意義についての科学的理論をより深く理解し、
 2) 各種スポーツの専門的運動技術・技能・ルールを学ぶことによって、自らすすんで運動・スポーツを楽しむことのできる態度を養い、
 3) 生涯にわたり健康的な生活を営む能力が身につく。
 生涯スポーツ2の学習内容は、生涯スポーツ1と比較し、より専門的なものを扱います。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後に設題の趣旨と評価方法について解説します。

■教科書

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

■参考文献

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

■関連科目

「健康とスポーツの科学」「心と体の健康」

■成績評価方法および基準

身体的課題の達成度(身体活動量の確保、技術・技能の習得、戦術・戦略の理解と応用)50%
 心理的・社会的課題の達成度(努力・意欲の程度、コミュニケーションの度合、マナー・礼節の実践)50%

■授業評価アンケート実施方法

学部の実施規定に準拠して行ないます。

■研究室・E-mailアドレス

問い合わせは記念会館「生涯スポーツ担当教員控室」まで。
 (ihss@kindai.ac.jp)

■オフィスアワー

担当教員により異なるので、各教員に問い合わせること。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

授業計画は各担当者が作成し、「生涯スポーツ時間割・シラバス」は下記のホームページに明示しています。ただし、第2回目・第3回目の授業は全クラス共通でフィットネス・チェックを実施します。測定項目は、形態測定・安静時心拍数・血圧・筋力・筋持久力・柔軟性・敏捷性・全身持久力などです。

近畿大学外国語教育の目的と共通基本目標

—外国語教育マニフェスト—

前 文

近畿大学の教養教育の目的は、幅広い知識と深い洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を確立することにある。この教養教育の目的に基づいて掲げられた計6項目の目標のうち、特に外国語教育と密接に関係するものとして、2. 日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う、5. 国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養う、の2項目がある。この2項目に立脚して、近畿大学の外国語教育の目的を次のように掲げる。

目 的

近畿大学の外国語教育は、国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養うとともに、日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養うことを目的とする。

共通目標

上記の目的を達成するために英語と第二外国語それぞれの全学共通の基本目標をおく。

外国語科目

英語

医療薬学科(平成 27 年度以降入学生)

創薬科学科(平成 27 年度以降入学生)

英語履修案内

英語教育の共通基本目標

近畿大学薬学部（教養基礎教育部門）

語学教育の基礎理念

1. 薬学部の語学教育の基本的理念は、医療従事者や医薬系研究者に必要とされる外国語の能力に加え、**論理的思考や批判的思考を身に着けた国際的な教養力**をもつ人材の養成・輩出を目指します。
2. 近畿大学の建学の精神である、**実学教育**に加え、**人格の陶冶**を目指す**教養教育**を実現することを目指します。
3. **実学が薬学、医・薬学の専門教育**であるとすれば、その**教養基礎教育**は「**人格の陶冶**」の部分を、**医療人として求められる人間理解の探求**と、それに基づいた、**外国語のみならず母語にも求められるコミュニケーション能力や問題解決能力の養成**を目指します。

語学の方法と理念

学習負荷の高い医療系基礎専門並びに専門科目を学習する薬学部の初年次、2年次学生には、**医療系の専門の導入となる教材**を使い、**医療人としての自覚を高めながら専門教育の導入教育**を担い、無駄のない語学教育プログラムを実行します。

- 1-1. 自宅学習、事前準備学習を確実に実行するために、**e-learning**など**ITコンテンツ**を活用した**語学教育**を実践します。これは「**反転授業**」的方法でもあります。
- 1-2. 海外での発表・研修・在外研修の機会が特に多い医療系学部の学生(院生)に必要な**TOEFL教育**を、**語学(英語)教育の一つの軸**とします。
TOEFL (ITP, iBT test) についての知識を持ち、TOEFLスコアを取得し、またTOEFLを通じて、従来の**General English**教育ではなく、**Academic English**教育を行います。アカデミック教育が同時に国際教養教育になるように教育指導します。学生諸君は語学(英語)教育を受けながら、英語運用能力を磨き、教養力をつけると同時に大学在学中のスコア(資格)取得も目指します。
- 1-3. 医療系あるいは理系人材として必要とされる語学能力を考慮し、**4技能のうち Reading と Writing の能力の育成を最優先**とします。
Reading (読書量、読書力) は世界の大学教育の基本であり日本人大学生に欠ける部分であることから、「**正確に読む**」「**大量に読む**」を目標に、Reading能力育成が、英語で発信される最先端情報を早く正確に把握するための語学教育を目指します。あわせて**英語の多読教育**を推進し、また**図書館文献を活用した日本語文献の大量読書**も推奨します。
さらに世界に研究成果を発信し、異文化・異言語の人々と意見交換するための英語力の育成のために**Writing**が「**明瞭で正確**」にでき、また異文化・異言語環境のなかでも**臆せず「英語で考えが発信できる**」ことを目指します。したがって英語母語話者崇拜意識を捨て、見かけの流暢さ重視を否定して、**国際共通語としての英語で意見を発信**できることを目指します。
- 1-4. **チーム医療**に対応し、国際世界の現場・職場で求められるチームつまり特異な知識や能力のメンバーとなり、その中でメンバーとして活躍できるようになるため、語学教育特に英語教育クラスは習熟度別クラス編成を廃止し、プレイスメントテストに基づく、上位から下位に至る**様々な学力、能力の学生がグループを編成し、グループとして問題解決をめざし、その成果をプレゼンテーションできるアクティブラーニング型協同学習授業の実践**をします。習熟度別編成に付随する下位クラスの学習意欲の低下や成績評価の不均衡などの問題を改善した語学教育を行います。

英語科目一覧

| 科目名 | 配当 学年 | 単位 (*1) | 開講 | 備 考 | |
|---------------|----------|------------|----|-------------|------------------|
| 英語演習 1 | 1 | 2 | 前 | 日本人教員担当科目 | 基 幹 科 目 |
| 英語演習 2 | 1 | 2 | 後 | | |
| 英語演習 3 | 2 | (*2) | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| 英語演習 4 | 2 | | 後 | | |
| オーラルイングリッシュ 1 | 1 | 1 | 前 | ネイティブ教員担当科目 | |
| オーラルイングリッシュ 2 | 1 | 1 | 後 | | |
| オーラルイングリッシュ 3 | 2 | 1 | 前 | ネイティブ教員担当科目 | |
| オーラルイングリッシュ 4 | 2 | 1 | 後 | | |
| TOEIC A | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | 発 展 科 目 |
| TOEIC B | 2-4 | 1 | 後 | | |
| TOEFL A | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| TOEFL B | 2-4 | 1 | 後 | | |
| ライティング A | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| ライティング B | 2-4 | 1 | 後 | | |

(*1) : 2 単位科目は、同一教員が週 2 回担当する。1 単位科目は週 1 回の授業科目である。

(*2) : 医療薬学科は 1 単位、創薬科学科は 2 単位

英語科目

<基幹科目： 科目名・概要>

英語演習1・2（一年前期・後期科目）

医薬系学生としての英語に必要な4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング（分速100語）・読解能力の定着をはかる。比較的読み易い医薬に関連した内容の文章を正確に理解し、その内容を日本語や英語で要約し、読み取った内容を論理的に整理して、他者に正確に伝えることができる医薬系の英語基礎力を身につける。

英語演習3・4（二年前期・後期科目）

英語演習1・2で習得した英語力をさらに向上させ、英語を聞き取り、そこに含まれる情報の収集と、内容の他者への確実な伝達の手段としての英語力を、一層確実なものとするを目標とする。専門的な英語（English for Specific Purposes、ESP）の入門的な英文なら、分速150語程度のスピードで読み、要点を整理・要約する能力を身につける。専門分野に関する英語情報を収集し、収集した情報をもとに、簡単な口頭発表の原稿が書け、発表を行える英語力の養成を目指す。

オーラルイングリッシュ1・2（一年前期・後期科目）

英語母語話者の指導により、日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など）を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英語文献の多読訓練 extensive reading を行い、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を、英語を英語による授業を通じて行う。英語によるスピーチのための原稿作成などの準備を学び、行い、プレゼンテーションを経験する。

オーラルイングリッシュ3・4（二年前期・後期科目）

英語母語話者の指導により、特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを、口頭で伝達し、自分の意見や感想を加えて発表でき、特定の、与えられたトピックについてのディスカッションを行う能力や、さらに高い会話力を身につける。スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、オーラルイングリッシュ1・2より高いプレゼンテーション能力を獲得し、英語のコミュニケーション能力の向上を図るべく、英語の授業を英語により行う。

英語科目

<発展科目：科目名・概要>

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

1クラスの受講者人数の基準を40名とし、受講希望者が40名を大きく超える場合は、教育効果を考慮し、担当教員または専任教員の指示により、何らかの方法で受講者数の調整とクラス編成を行う場合がある。

●TOEIC A・B

TOEIC 500点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。問題演習だけでなく、問題を聴解し読解するための英語の文法や発音に関する基本事項を復習する。

***学内の団体受験 TOEIC テストを受けることを奨励し、学内団体受験テスト、個人受験テストの結果は、担当者の判断で、加点対象とする。**

●TOEFL A・B

TOEFL ITP（団体受験テスト）で460点以上取得するための演習を行う。TOEFLに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。また TOEFL iBT（インターネットテスト）の出題についての基本知識を学ぶ。TOEFLの問題演習だけでなく、北米の大学教育の事情やキャンパスの基礎知識を学ぶ。問題を聴解し読解するための英語の文法や発音に関する基本事項を復習する。

***学内の団体受験 TOEFL ITP テストを受けることを奨励し、学内団体受験テスト、個人受験テストの結果は担当者の判断で、加点対象とする。**

●ライティング A・B

日常生活で使う英語ライティングを基礎に、医薬系の研究や仕事をする上で必要な英文文書を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを、簡潔で正確な英語で表現する訓練を行う。また英語文書の論理的構造を理解できることを目標とする。具体的には、主題文→トピックセンテンスと具体例→結論、という英文構造を理解し、接続詞を論理的につかった医薬系英文を書くための基礎訓練をする。

＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

| | クラス | Listening | Speaking | Reading | Writing | 文法・語彙 | TOEFL ITP スコア |
|----------------------|-----|-----------------------------------|--|--|---|--|------------------|
| 1 年 次 | | ネイティブの発音による医薬系英語の内容をほぼ理解できる。 | 音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。 | 比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。 | 客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。 | 医薬系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。 | 400 460 |
| 2 年 次 | | ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。 | 特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。 | 医薬計専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。 | 医薬系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。 | 医薬系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。 | 460 500 |

発展科目：到達目標

● TOEIC A・B

TOEIC テストで 500 点以上の取得を目指す。TOEIC で出題される語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、英語長文の速読能力を身につける。

● TOEFL A・B

- ・ TOEFL 460 点(PBT・ITP)以上 (iBT は 80 点以上) を目指す。
- ・ コンピューターによるテスト (iBT) 形式に対応できる技能を身につける。
- ・ 大学・研究所などアカデミックな環境での会話内容が理解できる能力を身につける。
- ・ 主要文法項目を理解し、すばやく問題に対応できる能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別・科目別の特徴を理解し、速読・速解の能力を身につける。
- ・ 文法・読解問題で学んだ知識を、レポートなどアカデミックなライティングに応用できる能力を身につける。

● ライティング A・B

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて、複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。医薬系の英文、発表の英作文の基礎を養う。

発展科目履修のガイドライン

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また科目ごとに示す TOEIC 等のスコア程度の学力が必要である。

| 科目名 | 履修条件 | 履修に必要な学力の目安 |
|------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| TOEIC A・B | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。 | TOEIC500 以上 TOEFL ITP460 以上 |
| TOEFL A・B | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。 | TOEIC500 以上 TOEFL ITP460 以上 |
| ライティング A・B | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。 | TOEIC500 以上 TOEFL ITP460 以上 |

＜TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準＞

*平成23年度以降の入学生には

TOEIC等の得点による単位認定は行わない。

＜海外英語研修による単位認定＞

留学生センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

TOEIC、TOEFL、ライティングのいずれか履修していない英語発展科目の
A・B（計2単位）として認定する。

統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習1, 2, 3, 4の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習2の成績によって、英語演習3(2年時)のクラス編成をおこないます。
- 3) 統一英語試験は、成績評価(100点満点)の内**40%**分となります。残りの**60%**は各担当教員が授業中での小テスト、課題発表等をもとに成績評価し、100点満点として成績評価します。
- 4) 統一英語試験(定期試験)は、必ず受験しなければなりません。

| | | 前・後期統一試験 | クラス編成対象科目 |
|--------|-------|--------------|--------------|
| 1 年 | 英語演習1 | 前期定期試験期間に実施→ | クラス編成はおこなわない |
| | 英語演習2 | 後期定期試験期間に実施→ | 英語演習3 |
| 2 年 | 英語演習3 | 前期定期試験期間に実施 | クラス編成はおこなわない |
| | 英語演習4 | 後期定期試験期間に実施 | クラス編成はおこなわない |

外国語科目

英 語

医療薬学科（平成 26 年度以前入学生）

英語履修案内

英語教育の共通基本目標

近畿大学薬学部（教養基礎教育部門）

語学教育の基礎理念

1. 薬学部の語学教育の基本的理念は、医療従事者や医薬系研究者に必要とされる外国語の能力に加え、**論理的思考や批判的思考を身に着けた国際的な教養力**をもつ人材の養成・輩出を目指します。
2. 近畿大学の建学の精神である、**実学教育**に加え、**人格の陶冶**を目指す**教養教育**を実現することを目指します。
3. **実学が薬学、医・薬学の専門教育**であるとすれば、その**教養基礎教育**は「**人格の陶冶**」の部分を、**医療人として求められる人間理解の探求**と、それに基づいた、**外国語のみならず母語にも求められるコミュニケーション能力や問題解決能力の養成**を目指します。

語学の方法と理念

学習負荷の高い医療系基礎専門並びに専門科目を学習する薬学部の初年次、2年次学生には、**医療系の専門の導入となる教材**を使い、**医療人としての自覚を高めながら専門教育の導入教育**を担い、無駄のない語学教育プログラムを実行します。

- 1-1. 自宅学習、事前準備学習を確実に実行するために、**e-learning**など**ITコンテンツ**を活用した**語学教育**を実践します。これは「**反転授業**」的方法でもあります。
- 1-2. 海外での発表・研修・在外研修の機会が特に多い医療系学部の学生(院生)に必要な**TOEFL教育**を、**語学(英語)教育の一つの軸**とします。
TOEFL (ITP, iBT test) についての知識を持ち、TOEFL スコアを取得し、また TOEFL を通じて、従来の General English 教育ではなく、**Academic English** 教育を行います。アカデミック教育が同時に国際教養教育になるように教育指導します。学生諸君は語学(英語)教育を受けながら、英語運用能力を磨き、教養力をつけると同時に大学在学中のスコア(資格)取得も目指します。
- 1-3. 医療系あるいは理系人材として必要とされる語学能力を考慮し、**4技能のうち Reading と Writing の能力の育成を最優先**とします。
Reading (読書量、読書力) は世界の大学教育の基本であり日本人大学生に欠ける部分であることから、「**正確に読む**」「**大量に読む**」を目標に、Reading 能力育成が、英語で発信される最先端情報を早く正確に把握するための語学教育を目指します。あわせて**英語の多読教育**を推進し、また**図書館文献を活用した日本語文献の大量読書**も推奨します。
さらに世界に研究成果を発信し、異文化・異言語の人々と意見交換するための英語力の育成のために **Writing が「明瞭で正確」**にでき、また異文化・異言語環境のなかでも**臆せず「英語で考えが発信できる」**ことを目指します。したがって英語母語話者崇拜意識を捨て、見かけの流暢さ重視を否定して、**国際共通語としての英語で意見を発信**できることを目指します。
- 1-4. **チーム医療**に対応し、国際世界の現場・職場で求められるチームつまり特異な知識や能力のメンバーとなり、その中でメンバーとして活躍できるようになるため、語学教育特に英語教育クラスは習熟度別クラス編成を廃止し、プレイスメントテストに基づく、上位から下位に至る**様々な学力、能力の学生がグループを編成し、グループとして問題解決をめざし、その成果をプレゼンテーションできるアクティブラーニング型協同学習授業の実践**をします。習熟度別編成に付随する下位クラスの学習意欲の低下や成績評価の不均衡などの問題を改善した語学教育を行います。

英語科目一覧

| 科目名 | 配当 学年 | 単位 | 開講 | 備考 | |
|----------------------|----------|----|-------------------------|-----------------------|------------------|
| 英語演習 1 | 1 | 2 | 前 | 日本人教員担当科目 | 基 幹 科 目 |
| 英語演習 2 | 1 | 2 | 後 | | |
| 英語演習 3 | 2 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| 英語演習 4 | 2 | 1 | 後 | | |
| オーラルイングリッシュ 1 | 1 | 1 | 前 | ネイティブ教員担当科目 | |
| オーラルイングリッシュ 2 | 1 | 1 | 後 | | |
| オーラルイングリッシュ 3 | 2 | 1 | 前 | ネイティブ教員担当科目 | |
| オーラルイングリッシュ 4 | 2 | 1 | 後 | | |
| TOEIC 1 | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | 発 展 科 目 |
| TOEIC 2 | 2-4 | 1 | 後 | | |
| TOEIC 3 | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| TOEIC 4 | 2-4 | 1 | 後 | | |
| 留学英語 A | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| 留学英語 B | 2-4 | 1 | 後 | | |
| ライティング A | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| ライティング B | 2-4 | 1 | 後 | | |
| イングリッシュカルチャーセミナー A | 3-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| イングリッシュカルチャーセミナー B | 3-4 | 1 | 後 | | |
| イングリッシュスペシャルスタディーズ A | 3-4 | 1 | 前 | ネイティブ または日本人教員担当科目 | |
| イングリッシュスペシャルスタディーズ B | 3-4 | 1 | 後 | | |
| アドバンスト TOEIC A | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| アドバンスト TOEIC B | 2-4 | 1 | 後 | | |
| TOEFL A | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| TOEFL B | 2-4 | 1 | 後 | | |
| インターネットイングリッシュ A | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| インターネットイングリッシュ B | 2-4 | 1 | 後 | | |
| アドバンストオーラルイングリッシュ | 3-4 | 1 | 前(2コマ) または 後(2コマ) | ネイティブ教員担当科目 | |

*2 単位科目は、同一教員が週 2 回担当する。1 単位科目は週 1 回の授業科目である。

*新カリキュラムへの移行につき、不開講となる科目がある。

英語科目

<基幹科目： 科目名・概要>

英語演習1・2（一年前期・後期科目）

理系・医薬系学生としての英語に必要な4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング・速読能力の定着をはかる。比較的読み易い理系、医薬系の内容の文章を理解し、それを日本語や英語で要約できる力、さらに読み取った内容を論理的に整理し、他者に正確に伝えることができる理系・医薬系の英語基礎力を身につける。

英語演習3・4（二年前期・後期科目）

英語演習1・2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達の手段としての英語力をより一層確実なものとするを目標とする。専門的な英語（English for Specific Purposes、ESP）の入門的な文章なら、分速150語程度スピードで読み、その要点をまとめる能力を身につける。またさまざまな英語資料を集め、簡単な口頭発表の原稿が書けるようになり、発表を行える英語力の養成を目指す。

オーラルイングリッシュ1・2（一年前期・後期科目）

日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、病院・薬局などを含めさまざまな場面で、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など）を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英字新聞記事などを読み、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を英語を通じて行う。

オーラルイングリッシュ3・4（二年前期・後期科目）

特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で伝達し、自分の意見や感想をつけ加えて発表でき、またトピックについてのディスカッションを行うことによって、さらに高い会話力を身につける。また、スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、プレゼンテーション能力の向上とともに、英語のコミュニケーション能力の向上を図る。

英語科目

＜発展科目：科目名・概要＞

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

また、15回の授業に出席し、必ず定期試験を受けることとする。

* クラス編成ほか、以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

TOEIC 1・2

TOEIC 420 点以上を目安に、TOEIC 520 点以上取得するための演習を行う。TOEIC に必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

TOEIC 3・4

TOEIC 500 点以上取得している学生を対象に、TOEIC 600 点以上取得するための演習を行う。比較的長いナレーションを正確に聞き取るリスニング能力の養成を図る。

留学英語 A・B

留学を考慮・想定して、TOEFL 対策の演習を中心に、英語圏の大学、大学院生活に必要な英語力の養成を目指す。ナチュラルスピードで話される講義を聞き取れ、レポートを英語で作成できることを目指す。

ライティング A・B

日常生活で使う文章を含め、理科系の研究や仕事をする上で必要な文書の英文を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを正確な英語で表現する訓練を行う。また英語文書の論理的構造を理解できるようになる。主題文→トピックセンテンスと具体例→結論、という英文構造を理解し、接続詞を論理的につかった理科系英文を書くための基礎訓練をする。

イングリッシュカルチャーセミナー A・B

ゼミ形式で英語圏の文化に対する理解を深めながら英語を学ぶ。英語圏の国々の言語、文化、社会などの話題について読み、自分の意見をレポートにまとめ、発表し、ディスカッションすることにより、課題解決能力と高度な英語力を養成する。

イングリッシュスペシャルスタディーズ A・B

異文化にかかわる話題を聞き、読んで、ディスカッションやディベートに参加し、異文化間に潜む問題の要因や、異文化理解をさまたげるさまざまな要因について学ぶ。また、専門分野に関する記事を読んだり聞いたりして、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを行う。

アドバンスト TOEIC A・B

すでに TOEIC550 点以上を取得している学生を対象に、TOEIC 700 点以上取得を目指して、リスニング・文法・読解能力の向上を図る。さらにビジネスシーンに必要な会話表現を習得し、自然な発音・イントネーションでコミュニケーションできるように訓練する。また TOEIC に頻出の主要文法項目、語彙・表現を用いて、Eメールやビジネスレター、注文書、広告、グラフなど読解に頻出のジャンルの特徴を学び、それらの書き方も学ぶ。

TOEFL A・B

外国の大学の学部・大学院への留学を希望し、TOEIC550 点以上または TOEFL487 点(PBT)を取得している学生を対象に、TOEFL 550 点(PBT)以上を目指して、リスニング・文法・読解能力の向上を図る。さらに外国での学生生活に必要な会話表現を学び、自然な発音・イントネーションでコミュニケーションできるように訓練する。TOEFL に頻出の重要文法項目を習得し、アカデミックライティングの訓練も行う。また説明文や講義に用いられる語彙・表現の特徴を習得し、速読・速解ができるように訓練する。

インターネットイングリッシュ A・B

TOEIC550 点以上を取得していることを目安に、インターネットを活用するために必要とされる英語能力の向上を図る。情報収集や発信の方法を学び、速読・速解を行い、インターネットを活用した問題解決能力を育成する。英文のホームページの作成や調べたことのプレゼンテーションに取り組む場合もある。

アドバンストオーラルイングリッシュ (前期2コマまたは後期2コマ 週2回)

TOEIC550 点以上を取得していることを目安に、高度で説得力のある英語を話せる能力の育成を目標とする。交渉・議論・プレゼンテーションなどをより効果的に行うための理論と方法を学び、視覚資料の作成法や提示法について実践的な訓練を行う。

＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

| | クラス | Listening | Speaking | Reading | Writing | 文法・語彙 | TOEIC スコア |
|----------------------|-----|-----------------------------------|--|--|---|---|-----------------|
| 1 年 次 | | ネイティブの発音による理科系英語の内容をほぼ理解できる。 | 音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。 | 比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。 | 客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。 | 理系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。 | 400 470 |
| 2 年 次 | | ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。 | 特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。 | 専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。 | 理系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。 | 理系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。 3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。 | 450 520 |

発展科目：到達目標

* 以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

● **TOEIC 1・2**

TOEIC テストで520点以上の取得を目指す。語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、問題文の速読能力を身につける。

● **TOEIC 3・4**

TOEIC テストで600点以上の取得を目指す。TOEIC1・2で目標とした能力の一層の向上を図るとともに、ナレーションを正確に聞き取る能力、オフィスで使用される文書の速読能力を身につける。

● **留学英語A・B**

英語圏での日常生活や学生生活に必要な会話力を身につける。英語圏の大学で学ぶ際に必要となる知識を吸収し、TOFEL (PBT) 460点、TOEFL (CBT) 140点以上取得の英語力を身につける。

● **ライティングA・B**

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。理系英文、発表の英文の基礎を養う。

● **イングリッシュカルチャーセミナーA・B**

英語圏の文化に関する基礎的な情報を理解し、英語で書かれた新聞、雑誌、インターネット上の今日的話題について概要、要点を理解する能力を身につける。また、そうした情報を整理し、自分なりにまとめる能力や、自分の意見を発表したりする能力を身につける。

● **イングリッシュスペシャルスタディーズA・B**

異文化の話題に関する話を聞いたり、読んだりして、ディスカッションやディベートに参加し、口頭発表能力を身につける。また、専門分野に関する記事を読んだり、聞いたりして、その内容についてディスカッションやディベートやプレゼンテーションを行う能力を身につける。

発展科目：到達目標

* 以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

● アドバンスト TOEIC A・B

- ・ TOEIC 700 点以上を目指す。
- ・ リスニングでは、会話、説明文対策に力点をおいて学習し、内容理解のための語彙力を増強し、問題文の速読・本文の内容把握能力を身につける。
- ・ TOEIC 頻出の主要文法項目を理解し、短時間で穴埋め部分の品詞や、間違い部分を発見する能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別の文章の特徴を学び、文章中の必要な情報をすばやく把握する能力を身につける。

● TOEFL A・B

- ・ TOEFL 550 点 (PBT) 以上を目指す。
- ・ コンピューターによるテスト形式に対応できる技能を身につける。
- ・ 日常生活における会話、また大学構内や教室内でかわされる会話内容が理解できる能力を身につける。
- ・ 主要文法項目を理解し、すばやく問題に対応できる能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別・科目別の特徴を理解し、速読・速解の能力を身につける。
- ・ 文法・読解問題で学んだ知識をレポートなどアカデミックなライティングに応用できる能力を身につける

● インターネットイングリッシュ A・B

- ・ コンピューターを用いた情報収集の方法（検索機能の効果的な利用方法など）を習得する。
- ・ メール、申し込み、注文などの書き方を身につける。
- ・ 英文のホームページの作成方法を身につける。

● アドバンストオーラルイングリッシュ

- ・ 交渉、議論、さらにプレゼンテーションの効果的な進め方を身につける。
- ・ パワーポイントなどの視覚資料の作成ができるようにする。
- ・ 説得力のある話し方、身振り、自然な発音やイントネーションを身につける。

発展科目履修のガイドライン <平成19年度以前の入学生に適用>

* 以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

* 履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示すTOEIC等のスコア程度の学力が必要である。

| 科目名 | 履修条件 | 履修に必要な学力の目安 |
|--------------------------------|--|---|
| TOEIC 1・2 | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。 | TOEIC 420 点 TOEFL 443 (PBT) / 127 点 (CBT) |
| TOEIC 3・4 | TOEIC 1・2 の単位を取得済みの者または、TOEIC 1・2 の単位認定基準に必要なスコアを取得し、単位認定された者。 | TOEIC 500 点 TOEFL 470 点 (PBT) / 150 点 (CBT) |
| イングリッシュ カルチャー セミナー A・B | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みで、英語演習 3・4 も取得済みの者。 | TOEIC 470 点 TOEFL 460 点 (PBT) / 140 点 (CBT) |
| イングリッシュ スペシャル スタディーズ A・B | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みで、オーラルイングリッシュ 3・4 も取得済みの者。 | TOEIC 470 点 TOEFL 460 点 (PBT) / 140 点 (CBT) |
| 留学英語 A・B ライティング A・B | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。 | |
| アドバンスト TOEIC A・B | 履修条件 なし | TOEIC 550 点 TOEFL 487 点 (PBT) / 163 点 (CBT) 以上取得済み |
| TOEFL A・B | 履修条件 なし | TOEIC 550 点 TOEFL 487 点 (PBT) / 163 点 (CBT) 以上取得済み |
| インターネット イングリッシュ A・B | 履修条件 なし | TOEIC 550 点 TOEFL 487 点 (PBT) / 163 点 (CBT) 以上取得済み |
| アドバンストオーラル イングリッシュ | 履修条件 なし | TOEIC 550 点 TOEFL 487 点 (PBT) / 163 点 (CBT) 以上取得済み |

発展科目履修のガイドライン

〈平成20年度以降の入学生に適用〉

* 以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

* 履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示す TOEIC 等のスコア程度の学力が必要である。

| 科目名 | 履修条件 | 履修に必要な学力の目安 |
|--------------------------------|--|--|
| TOEIC 1・2 | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。 | TOEIC 420 点 TOEFL 443 (PBT) / 43 点 (iBT) |
| TOEIC 3・4 | TOEIC 1・2 の単位を取得済みの者または、TOEIC 1・2 の単位認定基準に必要なスコアを取得し、単位認定された者。 | TOEIC 500 点 TOEFL 470 点 (PBT) / 52 点 (iBT) |
| イングリッシュ カルチャー セミナー A・B | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みで、英語演習 3・4 も取得済みの者。 | TOEIC 470 点 TOEFL 460 点 (PBT) / 48 点 (iBT) |
| イングリッシュ スペシャル スタディーズ A・B | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みで、オーラルイングリッシュ 3・4 も取得済みの者。 | TOEIC 470 点 TOEFL 460 点 (PBT) / 48 点 (iBT) |
| 留学英語 A・B ライティング A・B | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。 | |
| アドバンスト TOEIC A・B | TOEIC 550 点以上取得済みの者。 | TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み |
| TOEFL A・B | TOEIC 550 点以上取得済みの者。 | TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み |
| インターネット イングリッシュ A・B | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。 | TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み |
| アドバンストオーラル イングリッシュ | 英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。 | TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み |

＜TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準＞

〈平成19年度以前の入学生に適用〉

TOEIC 等の得点

| TOEIC 得点 | TOEFL CBT 得点 (かっこ内は PBT) | 単位認定される科目 | 備考 |
|----------|-----------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
| 500-595 | 150 (470) -179 (508) | 英語演習 3・4 TOEIC 1・2 | 計 4 単位 |
| 600 以上 | 180 (510) 以上 | 英語演習 3・4 TOEIC 1・2 TOEIC 3・4 | 計 6 単位 *英語検定準一級以上合格者も同じ扱いとする。 |

*1 単位の認定を受けるためには所定の申請期間内にスコア原本・学生証を持参のうえ**薬学部事務部**に申請しなくてはならない。申請期間は、掲示で通知します。(取得後、一年以内のスコアに限る)

*2 同一科目の重複認定は行わない。

*3 入学時一年以内に取得したスコアについても準用する。

＜海外英語研修による単位認定＞

留学生センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

留学英語 A・B (計 2 単位)

＜TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準＞

〈平成20年～22年度の入学生に適用〉

TOEIC 等の得点

| TOEIC 得点 | TOEFL iBT 得点 (カッコ内は PBT) | 単位認定される科目 | 備考 |
|----------|-----------------------------|------------------------------|--------------------------------|
| 550-645 | 57 (488) -68 (520) | TOEIC 3・4 | 計2単位 |
| 650 以上 | 69 (523) 以上 | TOEIC 3・4 アドバンス TOEIC 1・2 | 計4単位 *英語検定準一級以上合格者も同じ扱いとする。 |

- *1 単位の認定を受けるためには所定の申請期間内にスコア原本・学生証を持参のうえ薬学部事務部に申請しなくてはならない。申請期間は、掲示で通知します。(取得後、一年以内のスコアに限る)
- *2 同一科目の重複認定は行わない。
- *3 入学時一年以内に取得したスコアについても準用する。

***平成23年度以降の入学生には**

TOEIC等の得点による単位認定は行わない。

＜海外英語研修による単位認定＞

留学生センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

留学英語 A・B (計2単位)

統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習1, 2, 3, 4の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習2の成績によって、英語演習3(2年時)のクラス編成をおこないます。
- 3) **統一英語試験**は、成績評価(100点満点)の内**40%**分となります。残りの**60%**は各担当教員が授業中での小テスト、課題発表等で配点され、合算した後、成績評価します。
- 4) 統一英語試験(定期試験)は、必ず受験しなければなりません。

| | | 前・後期統一試験 | クラス編成対象科目 |
|--------|-------|---------------|--------------|
| 1 年 | 英語演習1 | 前期定期試験期間中に実施→ | クラス編成はおこなわない |
| | 英語演習2 | 後期定期試験期間中に実施→ | 英語演習3 |
| 2 年 | 英語演習3 | 前期定期試験期間中に実施 | クラス編成はおこなわない |
| | 英語演習4 | 後期定期試験期間中に実施 | クラス編成はおこなわない |

外国語科目

英語

創薬科学科 (平成 26 年度以前入学生)

英語履修案内

英語教育の共通基本目標

近畿大学薬学部（教養基礎教育部門）

語学教育の基礎理念

1. 薬学部の語学教育の基本的理念は、医療従事者や医薬系研究者に必要とされる外国語の能力に加え、**論理的思考や批判的思考を身に着けた国際的な教養力**をもつ人材の養成・輩出を目指します。
2. 近畿大学の建学の精神である、**実学教育**に加え、**人格の陶冶**を目指す**教養教育**を実現することを目指します。
3. **実学が薬学、医・薬学の専門教育**であるとすれば、その**教養基礎教育**は「**人格の陶冶**」の部分を、**医療人として求められる人間理解の探求**と、それに基づいた、**外国語のみならず母語にも求められるコミュニケーション能力や問題解決能力の養成**を目指します。

語学の方法と理念

学習負荷の高い医療系基礎専門並びに専門科目を学習する薬学部の初年次、2年次学生には、**医療系の専門の導入となる教材**を使い、**医療人としての自覚を高めながら専門教育の導入教育**を担い、無駄のない語学教育プログラムを実行します。

- 1-1. 自宅学習、事前準備学習を確実に実行するために、**e-learning**など**ITコンテンツ**を活用した**語学教育**を実践します。これは「**反転授業**」的方法でもあります。
- 1-2. 海外での発表・研修・在外研修の機会が特に多い医療系学部の学生(院生)に必要な**TOEFL教育**を、**語学(英語)教育の一つの軸**とします。
TOEFL (ITP, iBT test) についての知識を持ち、TOEFL スコアを取得し、また TOEFL を通じて、従来の General English 教育ではなく、**Academic English** 教育を行います。アカデミック教育が同時に国際教養教育になるように教育指導します。学生諸君は語学 (英語) 教育を受けながら、英語運用能力を磨き、教養力をつけると同時に大学在学中のスコア (資格) 取得も目指します。
- 1-3. 医療系あるいは理系人材として必要とされる語学能力を考慮し、**4 技能のうち Reading と Writing の能力の育成を最優先**とします。
Reading (読書量、読書力) は世界の大学教育の基本であり日本人大学生に欠ける部分であることから、「**正確に読む**」「**大量に読む**」を目標に、Reading 能力育成が、英語で発信される最先端情報を早く正確に把握するための語学教育を目指します。あわせて**英語の多読教育**を推進し、また**図書館文献を活用した日本語文献の大量読書**も推奨します。
さらに世界に研究成果を発信し、異文化・異言語の人々と意見交換するための英語力の育成のために **Writing が「明瞭で正確」**にでき、また異文化・異言語環境のなかでも**臆せず「英語で考えが発信できる」**ことを目指します。したがって英語母語話者崇拜意識を捨て、見かけの流暢さ重視を否定して、**国際共通語としての英語で意見を発信**できることを目指します。
- 1-4. **チーム医療**に対応し、国際世界の現場・職場で求められるチームつまり特異な知識や能力のメンバーとなり、その中でメンバーとして活躍できるようになるため、語学教育特に英語教育クラスは習熟度別クラス編成を廃止し、プレイスメントテストに基づく、上位から下位に至る**様々な学力、能力の学生がグループを編成し、グループとして問題解決をめざし、その成果をプレゼンテーションできるアクティブラーニング型協同学習授業の実践**をします。習熟度別編成に付随する下位クラスの学習意欲の低下や成績評価の不均衡などの問題を改善した語学教育を行います。

英語科目一覧

| 科目名 | 配当 学年 | 単位 | 開講 | 備考 | |
|---------------|----------|----|----|-------------|------------------|
| 英語演習 1 | 1 | 2 | 前 | 日本人教員担当科目 | 基 幹 科 目 |
| 英語演習 2 | 1 | 2 | 後 | | |
| 英語演習 3 | 2 | 2 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| 英語演習 4 | 2 | 2 | 後 | | |
| オーラルイングリッシュ 1 | 1 | 1 | 前 | ネイティブ教員担当科目 | |
| オーラルイングリッシュ 2 | 1 | 1 | 後 | | |
| オーラルイングリッシュ 3 | 2 | 1 | 前 | ネイティブ教員担当科目 | |
| オーラルイングリッシュ 4 | 2 | 1 | 後 | | |
| TOEIC A | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | 発 展 科 目 |
| TOEIC B | 2-4 | 1 | 後 | | |
| ライティング A | 2-4 | 1 | 前 | 日本人教員担当科目 | |
| ライティング B | 2-4 | 1 | 後 | | |

特例：特に優れた語学力を持っている学生（例えば帰国子女、TOEICスコア600点以上取得者等）は、1年次から発展科目を履修できるものとします。特例は個別に対処します。

*英語演習 1, 2, 3, 4 の 2 単位科目は、原則として同一教員週 2 回担当科目、その他の 1 単位科目は週 1 回の科目です。

英語科目

＜基幹科目： 科目名・概要＞

英語演習 1・2（一年前期・後期科目）

理系・医薬系学生としての英語に必要な4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング・速読能力の定着をはかる。比較的読み易い理系、医薬系の内容の文章を理解し、それを日本語や英語で要約できる力、さらに読み取った内容を論理的に整理し、他者に正確に伝えることができる理系・医薬系の英語基礎力を身につける。

英語演習 3・4（二年前期・後期科目）

英語演習 1・2 で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達の手段としての英語力をより一層確実なものとすることを目標とする。専門的な英語（English for Specific Purposes、ESP）の入門的な文章なら、分速 150 語程度スピードで読み、その要点をまとめる能力を身につける。またさまざまな英語資料を集め、簡単な口頭発表の原稿が書けるようになり、発表を行える英語力の養成を目指す。

オーラルイングリッシュ 1・2（一年前期・後期科目）

日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、病院・薬局などを含めさまざまな場面で、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など）を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英字新聞記事を読み、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を英語を通じて行う。

オーラルイングリッシュ 3・4（二年前期・後期科目）

特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で伝達し、自分の意見や感想をつけ加えて発表でき、またトピックについてのディスカッションを行うことによって、さらに高い会話力を身につける。また、スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、プレゼンテーション能力の向上とともに、英語のコミュニケーション能力の向上を図る。

英語科目

＜発展科目：科目名・概要＞

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

また、15回の授業に出席し、必ず定期試験を受けることとする。

* 以下の内容については新カリキュラム実施の関係で不開講・変更がある場合がある。

TOEIC A・B

TOEIC 420 点以上を目安に、TOEIC 520 点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

ライティング A・B

日常生活で使う簡単な文章を含め、理科系の研究や仕事をする上で必要な文書までの英文を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを正確な英語で表現する訓練を行う。また英語文書の論理的構造を理解できるようになる。主題文→トピックセンテンスと具体例→結論を明示、という英文構造を理解し、接続詞を論理的につかった理科系英文を書くための基礎訓練をする。

＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

| | クラス | Listening | Speaking | Reading | Writing | 文法・語彙 | TOEIC スコア |
|----------------------|-----|-----------------------------------|--|--|---|---|-----------------|
| 1 年 次 | | ネイティブの発音による理系英語の内容をほぼ理解できる。 | 音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。 | 比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。 | 客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。 | 理系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。 | 400 470 |
| 2 年 次 | | ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。 | 特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。 | 専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。 | 理系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。 | 理系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。 | 450 520 |

発展科目：到達目標

● TOEIC A・B

TOEIC テストで520点以上の取得を目指す。語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、問題文の速読能力を身につける。

● ライティングA・B

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。理系英文、発表の英文の基礎を養う。

発展科目履修のガイドライン

〈平成24年度以降の創薬科学科入学生に適用〉

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示す TOEIC 等のスコア程度の学力が必要である。

| 科目名 | 履修条件 | 履修に必要な学力の目安 |
|------------|--------------------------------|---|
| TOEIC A・B | 英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。 | TOEIC420点 TOEFL443 (PBT) / 43点(iBT) |
| ライティング A・B | 英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。 | TOEIC420点 TOEFL443 (PBT) / 43点(iBT) |

<TOEIC 等の得点による在学生の単位認定は行わない>

<海外英語研修による単位認定>

国際交流センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

TOEIC A・B または ライティング A・B

のいずれか、未修得の発展科目の単位として認定する。

(計 2 単位)

統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習1, 2, 3, 4の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習2の成績によって、英語演習3(2年時)のクラス編成をおこないます。
- 3) 統一英語試験は、成績評価(100点満点)の内**40%**分となります。残りの**60%**は各担当教員が授業中での小テスト、課題発表等で配点され、合算した後、成績評価します。
- 4) 統一英語試験(定期試験)は必ず受験しなければなりません。

| | | 前・後期統一試験 | クラス編成対象科目 |
|--------|-------|--------------|--------------|
| 1 年 | 英語演習1 | 前期定期試験期間に実施→ | クラス編成はおこなわない |
| | 英語演習2 | 後期定期試験期間に実施→ | 英語演習3 |
| 2 年 | 英語演習3 | 前期定期試験期間に実施 | クラス編成はおこなわない |
| | 英語演習4 | 後期定期試験期間に実施 | クラス編成はおこなわない |

外国語科目

英語

| | | | |
|---|-----------|---------|---------|
| 科目名： 英語演習1 | | | |
| 英文名： English 1 | | | |
| 担当者： <small>シモムラ トモノリ</small> 下村 智典・ <small>クボ キミヒト</small> 久保 公人・ <small>コイタ ヒロミ</small> 小坂 裕美・ <small>マサゴ カオル</small> 眞砂 薫・ <small>タナカ ヒロアキ</small> 田中 博晃・ <small>ヒラカワ キミコ</small> 平川 公子・ <small>ヒロシゲ ナオミ</small> 廣重 尚実 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 1年次 | 開講期： 前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

英語の基本4技能（読む、聞く、書く、話す）を、科学・医療に関連した話題の英文を教材として学ぶ。また、大学生に必要な語彙力を習得するための例文集を使い、語彙力の定着を行う。授業は演習形式で、必要に応じてSmall Group Discussion, Team Based Learningやペア・ワーク、e-learningを取り入れた授業を行う。なおe-learningは自宅学習中心で行い、レポートや試験などの単位認定に重要な課題と同等として扱う。

■学習・教育目標および到達目標

医薬系学生が必要とする英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）に必要な、文法を理解しており、3000語レベルの語彙力を持ち、科学的な内容の英文を1分100語程度のスピードで読み、同程度のスピードのリスニングができ、内容を理解し、理解した内容を整理し、英語または日本語で伝達する力を持つ。この科目の修得は、薬学部定めるディプロマポリシーDP2-1, 2-2, 3-1, 3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をVELCのサイトに掲載します。

■教科書

ISBN 978-4-7919-5097-3 『Medical Front Line』 Masago 他、成美堂
『Practical English 7』 リアリーイングリッシュ

■参考文献

[ISBN]9784523251521 『英文法ビフォー &アフター 普及版』(豊永彰, 南雲堂)

■関連科目

英語演習1, 3, 4.

■成績評価方法および基準

授業中の演習実績（小テスト・レポート・プレゼンテーション・e-learning・多読）60%
定期試験 英語運用能力テストVELCを使用 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員から指示します。

■オフィスアワー

各クラス担当教員から指示します。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがある。

第1回 Eye Charity Takes Airborne Healing to World

2 前半演習

Practical English演習・確認

第2回 Eye Charity Takes Airborne Healing to World

2 後半演習

Practical English演習・確認

第3回 Nanotechnology Can Help Deliver Affordable, Clean Water

3 前半演習

Practical English演習・確認

第4回 Nanotechnology Can Help Deliver Affordable, Clean Water

3 後半演習
Practical English演習・確認

第5回 Study: Mindful Meditation Helps Manage Chronic Back Pain

4 前半演習
Practical English演習・確認

第6回 Study: Mindful Meditation Helps Manage Chronic Back Pain

3 後半演習
Practical English演習・確認

第7回 Technology Reduces Time in Dentist' s Chair

5 前半演習
Practical English演習・確認

第8回 Technology Reduces Time in Dentist' s Chair

5 後半演習
Practical English演習・確認

第9回 Study: Flu Shots Keep People Out of Hospita

6 前半演習
Practical English演習・確認

第10回 Study: Flu Shots Keep People Out of Hospita

6 後半演習
Practical English演習・確認

第11回 Simple New Test Detects Early Signs of Diabetes

7 前半演習
Practical English演習・確認

第12回 Simple New Test Detects Early Signs of Diabetes

7 後半演習
Practical English演習・確認

第13回 Technique May Eliminate Drill-and-Fill Dental Care

8 前半演習
Practical English演習・確認

第14回 Technique May Eliminate Drill-and-Fill Dental Care

8 後半演習
Practical English演習・確認

第15回 Revolutionary Cardiac Patch Could Mend a Broken Heart

9 前半演習
Practical English演習・確認

第16回 Revolutionary Cardiac Patch Could Mend a Broken Heart

9 後半演習
Practical English演習・確認

第17回 New Deadly Septic Shock Treatment Could Save Millions

10 前半演習
Practical English演習・確認

第18回 New Deadly Septic Shock Treatment Could Save Millions

10 後半演習

Practical English演習・確認

第19回 Targeted Treatment May Improve Odds for Breast Cancer Patients

11 前半演習

Practical English演習・確認

第20回 Targeted Treatment May Improve Odds for Breast Cancer Patients

11 後半演習

Practical English演習・確認

第21回 Doctors Unveil Potential New Tool to Fight Brain Cancer

12 前半演習

Practical English演習・確認

第22回 Doctors Unveil Potential New Tool to Fight Brain Cancer

12 後半演習

Practical English演習・確認

第23回 World Action Needed to Prevent Widespread Antibiotic Resistance

13 前半演習

Practical English演習・確認

第24回 World Action Needed to Prevent Widespread Antibiotic Resistance

13 後半演習

Practical English演習・確認

第25回 Activists Push to Limit Antibiotic Use in Livestock

14 前半演習

Practical English演習・確認

第26回 Activists Push to Limit Antibiotic Use in Livestock

14 後半演習

Practical English演習・確認

第27回 Oregon Case Renews Right-to-Die Debate

15 前半演習

Practical English演習・確認

第28回 Oregon Case Renews Right-to-Die Debate

15 後半演習

Practical English演習・確認

第29回 Hospice Teams Help Patients Face Death

16 前半演習

Practical English演習・確認

第30回 Hospice Teams Help Patients Face Death

16 後半演習

Practical English演習・確認

統一定期試験（VELC テスト）を行います。

英語運用能力テストVELC(リスニング含む70分テスト)を統一定期試験として行う。ここまでの授業全体の要点を復習し、不明な点が内容にすること。試験後、できなかった問題について復習を行うこと。

| | | | |
|------------------------------|-------|--------|---------|
| 科目名：英語演習1（再） | | | |
| 英文名：English 1 | | | |
| 担当者： ^{マサゴ カオル} 眞砂 薫 | | | |
| 単 位：2単位 | 開講年次： | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

医療系英語テキストを使い、医療分野の語彙、表現を習得する。
アクティブラーニングあるいは対話形式で教材演習をすすめる。クラス人数によってはグループ学習形式をとる。

■学習・教育目標および到達目標

基本的医療用語彙の修得と英語基本4技能の育成
この科目は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1、2-2、3-1、3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業中の課題ワークシート返却およびメールによる個別指導

■教科書

Medical Front Line 眞砂・田中 成美堂 2017

■参考文献

随時授業中指示する

■関連科目

英語演習1, 2, 3, 4

■成績評価方法および基準

Class work and e-learning assignments 60%
定期試験（VELCテスト）40%

■授業評価アンケート実施方法

大学・学部指定の方法による

■研究室・E-mailアドレス

39号館4階 s402研究室
masagok@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月、水、木、土の12:10～13:10 および必要に応じてメールでアポをとり、面談、指導する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

Unit1～4 生活と健康
Unit 5～11医学の進歩
Unit12～15異学進歩の裏側

第1回 Unit 1演習

遠隔医療サービス

第2回 Unit 1 リサーチ発表

遠隔地医療リサーチ

第3回 Unit2 演習

公衆衛生：ナノテク

第4回 Unit2 リサーチ発表

ナノテク医療リサーチ発表

第5回 Unit 3演習

代替医療:ヨガ

第6回 Unit 3発表

代替医療リサーチ

第7回 Unit 4演習

歯科新技術

第8回 Unit 4発表 歯科

歯科新技術リサーチ発表

第9回 Unit 5演習 インフルエンザ

インフルエンザとワクチン

第10回 Unit 5発表インフルエンザ

リサーチ結果発表

第11回 Unit 6演習 糖尿病

糖尿病検査の新技術

第12回 Unit 6発表 糖尿病

リサーチ結果発表

第13回 Unit 7演習 歯科

虫歯新治療技術

第14回 Unit 7発表 歯科

歯科最新技術リサーチ、発表

第15回 Unit 8演習心臓病

心臓病新治療

中間試験

Unit8

までの復習試験

第16回 Unit 8発表

リサーチ結果発表

第17回 Unit 9演習 敗血症

敗血症治療の最前線

第18回 Unit 9発表

敗血症リサーチ発表

第19回 Unit 10 演習 乳癌

乳癌治療と薬の選択

第20回 Unit 10発表

乳癌治療と薬剤選択 発表

第21回 Unit 11 演習 脳腫瘍

脳腫瘍と新技術

第22回 Unit 11発表 脳腫瘍

脳腫瘍最新技術 リサーチ発表

第23回 Unit12 演習 薬剤:抗生物質

抗生物質多用の弊害

第24回 Unit 12発表 薬剤

抗生物質 多用の弊害リサーチ、発表

第25回 Unit 13演習 抗生物質多用弊害2

家畜への過剰投与

第26回 Unit 13発表 抗生物質と家畜

抗生物質の家畜への過剰投与 発表

第27回 Unit 14演習 生命倫理

尊厳死 事例

第28回 Unit 14発表 生命倫理

尊厳死問題リサーチ発表

第29回 Unit 15演習 生命倫理

終末期医療

第30回 Unit 15発表 生命倫理 終末期医療

終末期医療 リサーチ発表

定期試験

VELC英語運用能力テスト

| | | | |
|---|----------|--------|---------|
| 科目名：英語演習2 | | | |
| 英文名：English 2 | | | |
| 担当者： <small>シモムラ トモノリ</small> 下村 智典・ <small>クボ キミヒト</small> 久保 公人・ <small>コイタ ヒロミ</small> 小坂 裕美・ <small>マサゴ カオル</small> 眞砂 薫・ <small>タナカ ヒロアキ</small> 田中 博晃・ <small>ヒラカワ キミコ</small> 平川 公子・ <small>ヒロシゲ ナオミ</small> 廣重 尚実 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

英語の基本4技能（読む、聞く、書く、話す）を、科学・医療に関連した話題の英文を教材として学ぶ。また、大学生に必要な語彙力を習得するための例文集を使い、語彙力の定着を行う。授業は演習形式で、必要に応じてSmall Group Discussion, Team Based Learningやペア・ワーク、e-learningを取り入れた授業を行う。なおe-learningは自宅学習中心で行い、レポートや試験などの単位認定に重要な課題と同等として扱う。

■学習・教育目標および到達目標

医薬系学生が必要とする英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）に必要な、文法を理解しており、35000語レベルの語彙力を持ち、科学的な内容の英文を1分150語程度のスピードで読み、同程度のスピードのリスニングができ、内容を理解し、理解した内容を整理し、英語または日本語で伝達する力を持つ。この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1, 2-2, 3-1, 3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をVELCのサイトに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784791955237 『メディカルエクスプローラー』 Naoko Ono 他、成美堂
『Practical English 7』 リアラーイングリッシュ

■参考文献

[ISBN]9784523251521 『英文法ビフォー & アフター 普及版』 (豊永彰, 南雲堂)

■関連科目

英語演習1, 3, 4.

■成績評価方法および基準

授業中の演習実績（小テスト・レポート・プレゼンテーション・e-learning・多読）60%
定期試験 英語運用能力テストVELCを使用 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員から指示します。

■オフィスアワー

各クラス担当教員から指示します。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがある。

第1回 Unit 2 Team Medicine (1)

2 前半演習

Practical English演習・確認

第2回 Unit 2 Team Medicine (2)

2 後半演習

Practical English演習・確認

第3回 Unit 3 Tiny bugs, big impact(1)

3 前半演習

Practical English演習・確認

第4回 Unit 3 Tiny bugs, big impact(2)

3 後半演習
Practical English演習・確認

第5回 Unit 4 Where medicine meets religion(1)

4 前半演習
Practical English演習・確認

第6回 Unit 4 Where medicine meets religion(2)

3 後半演習
Practical English演習・確認

第7回 Unit 5 Prenatal screening: decisions, decisions(1)

5 前半演習
Practical English演習・確認

第8回 Unit 5 Prenatal screening: decisions, decisions(2)

5 後半演習
Practical English演習・確認

第9回 Unit 6 How are drugs developed (1)

6 前半演習
Practical English演習・確認

第10回 Unit 6 How are drugs developed (1)

6 後半演習
Practical English演習・確認

第11回 Unit 7 Traditional medicine, rediscovered (1)

7 前半演習
Practical English演習・確認

第12回 Unit 7 Traditional medicine, rediscovered (2)

7 後半演習
Practical English演習・確認

第13回 Unit 8 The journey food takes through our body

8 前半演習
Practical English演習・確認

第14回 Unit 8 The journey food takes through our body

8 後半演習
Practical English演習・確認

第15回 Unit 9 A glance at an innovative medical device (1)

9 前半演習
Practical English演習・確認

第16回 Unit 9 A glance at an innovative medical device (2)

9 後半演習
Practical English演習・確認

第17回 Unit 10 What is "upstream" thinking? (1)

10 前半演習
Practical English演習・確認

第18回 Unit 10 What is "upstream" thinking? (2)

10 後半演習

Practical English演習・確認

第19回 Unit 11 Making peace with your scale (1)

11 前半演習

Practical English演習・確認

第20回 Unit 11 Making peace with your scale (2)

11 後半演習

Practical English演習・確認

第21回 Unit 12 Beyond the blame game (1)

12 前半演習

Practical English演習・確認

第22回 Unit 12 Beyond the blame game (2)

12 後半演習

Practical English演習・確認

第23回 Unit 13 What comes first when helping others (1)

13 前半演習

Practical English演習・確認

第24回 Unit 13 What comes first when helping others (2)

13 後半演習

Practical English演習・確認

第25回 Unit 14 How to identify reliable health information (1)

14 前半演習

Practical English演習・確認

第26回 Unit 14 How to identify reliable health information (2)

14 後半演習

Practical English演習・確認

第27回 Unit 15 Japan's health-care system is the envy of the world (1)

15 前半演習

Practical English演習・確認

第28回 Unit 15 Japan's health-care system is the envy of the world (2)

15 後半演習

Practical English演習・確認

第29回 Unit 16 Test your reading skill (1)

16 前半演習

Practical English演習・確認

第30回 Unit 16 Test your reading skill (1)

16 後半演習

Practical English演習・確認

統一定期試験 (VELC テスト) を行います。

英語運用能力テストVELC(リスニング含む70分テスト)を統一定期試験として行う。ここまでの授業全体の要点を復習し、不明な点が内容にすること。試験後、できなかった問題について復習を行うこと。

| | | | |
|---|----------|--------|---------|
| 科目名：英語演習3【Ⅱ】薬指定テキストⅡ-1 2年前期共通（医療薬学科）週1回、15回 | | | |
| 英文名：English 3 | | | |
| 担当者：久保 公人・田中 博晃・東野 ツヤ子・廣重 尚実 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

英語演習1,2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達手段としての英語力をより一層確実なものとする。科学、医薬系の話題の英文テキストによる演習を行う。またe-learningによる演習も行う。なおe-learningは自宅学習中心で行い、レポートや試験などの単位認定に重要な課題と同等として扱う。

■学習・教育目標および到達目標

専門的な医薬系英文を分速150語以上のスピードで読み、その要点を英語または日本語で整理要約し、他者にわかりやすく伝達できる。読んだ内容に関連する話題をリサーチし、1～3分の英語または日本語のプレゼンテーションができる。この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1, 2-2, 3-1, 3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をVELCサイトに掲載します。

■教科書

[ISBN]978-4-523-17807-1 『これからの健康的な社会へ - MINDFULNESS』園城寺 康子他著 南雲堂
『Practical English 7』リアリーイングリッシュ

■参考文献

薬学英语の練習帳 OTC医薬品の服薬指導に役立つ英語表現

■関連科目

英語演習1,2,4。オーラルイングリッシュ1,2,3,4。

■成績評価方法および基準

授業中の小テスト、レポート、発表、e-learningなど 60%
統一定期試験としての英語運用能力テストVELCテスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員の指示に従う。

■オフィスアワー

各クラス担当教員の指示に従う。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがある。

第1回 授業説明。Unit1演習。

Sense of Taste and Eating Habits

第2回 Unit2 演習

Lose Weight and Stay Active

第3回 Unit3 演習

Danger of Internet Addiction

第4回 Unit4 演習

Before It Is Too Late

第5回 Unit5 演習

Global Water Crisis

第6回 Unit6 演習

Global Cooperation to Prevent Dementia

第7回 Unit7 演習

Battle against the Ebola Virus

第8回 Unit8 演習

Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT

第9回 Unit9 演習

Angelina' s Decision

第10回 Unit10 演習

Ethical Implications of Prenatal Testing

第11回 Unit11 演習

ES Cells and iPS Cells

第12回 Unit12 演習

Mindfulness in Today's Multitasking Culture

第13回 Unit13 演習

Preventing Child Abuse

第14回 Unit 14 演習

Towards a More Inclusive Society

第15回 Unit 15 演習

Education for Better Health and a Better Future

統一定期試験(VELCテスト)

英語運用能力テストVELC(リスニングを含む70分テスト)による統一定期試験を行います。ここまでの授業全体の要点を復習し、不明な点が内容にすること。試験後、できなかった問題について復習を行うこと。

| | | | |
|--|----------|--------|---------|
| 科目名：英語演習3【Ⅱ】薬指定テキストⅡ-3 2年前期共通（創薬学科）週2回、30回 | | | |
| 英文名：English 3 | | | |
| 担当者：久保 公人・廣重 尚実 | | | |
| 単 位：2単位 | 開講年次：2年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

英語演習1,2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達手段としての英語力をより一層確実なものとする。科学、医薬系の話題の英文テキストによる演習を行う。なお創薬科学科は週2回の授業とし、e-learningを使った演習も行う。なおe-learningは自宅学習中心で行い、レポートや試験などの単位認定に重要な課題と同等として扱う。

■学習・教育目標および到達目標

専門的な医薬系英文を分速150語以上のスピードで読み、その要点を英語または日本語で整理要約し、他者にわかりやすく伝達できる。読んだ内容に関連する話題をリサーチし、1～3分の英語または日本語のプレゼンテーションができる。TOEFL iBTテストで60点以上、ITPテストで460点以上のスコアを目標とする。この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1, 2-2, 3-1, 3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をVELCのサイトに掲載します。

■教科書

[ISBN]978-4-523-17807-1『これからの健康的な社会へ - MINDFULNESS』園城寺 康子他著 南雲堂
『Practical English 7』リアリーイングリッシュ

■参考文献

授業中に随時、指示・紹介する。

■関連科目

英語演習1,2,4。オーラルイングリッシュ1,2,3,4。

■成績評価方法および基準

授業中の小テスト、レポート、発表、e-learningなど 60%
統一定期試験としての英語運用能力テストVELCテスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員の指示に従う。

■オフィスアワー

各クラス担当教員の指示に従う。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがある。

第1回 第1回 授業説明。Unit1演習。

Sense of Taste and Eating Habits

第2回 Unit1 後半演習、およびe-learningによる演習

Sense of Taste and Eating Habits

第3回 Unit2 演習

Lose Weight and Stay Active

第4回 Unit2 後半演習、およびe-learningによる演習

Lose Weight and Stay Active、およびe-learningによる演習

第5回 Unit3 演習

Danger of Internet Addiction

第6回 Unit3 後半演習、およびe-learningによる演習

Danger of Internet Addiction、およびe-learningによる演習

第7回 Unit 4 演習

Before It Is Too Late

第8回 Unit 4 後半演習、およびe-learningによる演習

Before It Is Too Late、およびe-learningによる演習

第9回 Unit 5 演習

Global Water Crisis

第10回 Unit 5 後半演習、およびe-learningによる演習

Global Water Crisis

第11回 Unit6 演習

Global Cooperation to Prevent Dementia

第12回 Unit 6 後半演習、およびe-learningによる演習

Global Cooperation to Prevent Dementia

第13回 Unit 7 演習

Battle against the Ebola Virus

第14回 Unit 7 後半演習、およびe-learningによる演習

Battle against the Ebola Virus

第15回 Unit 8 演習

Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT

第16回 Unit 8 後半演習、およびe-learningによる演習

Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT

第17回 Unit 9

Angelina' s Decision

第18回 Unit 9 後半演習、およびe-learningによる演習

Angelina' s Decision

第19回 Unit 10 演習

Ethical Implications of Prenatal Testing

第20回 Unit 10 後半演習、およびe-learningによる演習

B Ethical Implications of Prenatal Testing

第21回 Unit 11 演習

ES Cells and iPS Cells

第22回 Unit 11 後半演習、およびe-learningによる演習

ES Cells and iPS Cells

第23回 Unit 12 演習

Mindfulness in Today's Multitasking Culture

第24回 Unit 12 後半演習、およびe-learningによる演習

Mindfulness in Today's Multitasking Culture

第25回 Unit 13 演習

Preventing Child Abuse

第26回 Unit 13 後半演習、およびe-learningによる演習

Preventing Child Abuse

第27回 Unit 14 演習

Towards a More Inclusive Society

第28回 Unit 14 後半演習、およびe-learningによる演習

Towards a More Inclusive Society

第29回 Unit15 演習と総括

Education for Better Health and a Better Future

第30回 Unit15 後半演習と総括、およびe-learningによる演習

Education for Better Health and a Better Future

統一定期試験

英語運用能力テストVELC(リスニング含む70分テスト)を統一定期試験として行う。ここまでの授業全体の要点を復習し、不明な点が内容にすること。試験後、できなかった問題について復習を行うこと。

| | | | |
|------------------------------|-------|--------|---------|
| 科目名：英語演習2（再） | | | |
| 英文名：English 2 | | | |
| 担当者： ^{マサゴ カオル} 眞砂 薫 | | | |
| 単 位：2単位 | 開講年次： | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

医療系の話題と用語を学ぶ。あわせて英語4技能の基礎固めも行う。
学生参加型のアクティブラーニング形式での授業とし、人数によってはグループ学習の形態でも授業する。

■学習・教育目標および到達目標

医療関連の内容の英文が読め、その内容についてリサーチし、発表できる。
また英語力の目安としてTOEFL ITPテストで460以上のスコアを出せる英語力を到達目標とする。
この科目は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1、2-2、3-1、3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

フィードバックの方法は、学部指定の中間フィードバックに加え、メールによる課題や試験の確認ができるようにしてフィードバックを可能にする。

■教科書

Naoko Ono/ Makiko Ishida Dasilva 『Medical Explorer』 2016 成美堂

■参考文献

随時、授業中に指示する。

■関連科目

英語演習1, 2, 3, 4

■研究室・E-mailアドレス

39号館4階 s402眞砂研究室
masagok@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月、水、木、土曜日 12:10～13:10
および必要に応じて学生よりメールにてアポを取って面談、指導する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

テキスト 全15ユニットを1回は本文、練習問題を使った演習とし、もう1回は当該ユニットの内容を学生がリサーチし発表するとともにレポートを提出するものとする。

第1回 テキスト演習 team Medicine

チーム医療の現場、専門用語他

第2回 Team Medicine リサーチ発表

リサーチ発表と討議

第3回 Tiny Bags、Big Impact 演習

院内感染、伝染病

第4回 Tiny bags, Big Impact発表

院内感染等のリサーチ発表と討議

第5回 Where Medicine Meets Religion 医療と宗教 演習

医療と宗教、その現場の対処他

第6回 医療と宗教 発表と討議

リサーチ発表と討議

第7回 Prenatal Screening:Decision, Decisions 演習

出生前スクリーニング 最新情報と医療倫理

第8回 Prenatal Screening:Decision, Decisions 出生前スクリーニング 発表と討議

発表と討議

第9回 How Are Drugs Developed 薬剤開発 演習

薬剤開発の過程や詳細

第10回 How Are Drugs Developed 薬剤開発 発表と討議

リサーチ結果発表と討議

第11回 Traditional Medicine rediscovered 演習

伝統医療と西洋医学

第12回 Traditional Medicine rediscovered 発表と討議

伝統医療リサーチと発表

第13回 The Journey Food Takes through Our Body 演習

食餌から排泄の過程

第14回 The Journey Food Takes through Our Body リサーチの発表と討議

消化から排泄の過程のリサーチ発表、討議

第15回 A Glance at an Innovative Medical Device 演習

最新医療機器

テキスト内容中間テスト

最新医療機器までのテキスト内容中間テスト

第16回 最新医療機器 リサーチ内容発表

発表と討議

第17回 What is "Upstream" thinking?

臨床的対処か、公衆衛生 啓蒙か？

第18回 Upstream thinkingリサーチ発表

発表と討議

第19回 Making Peace with Your Scale 肥満と健康 演習

体重コントロールと健康問題と医療

第20回 Making Peace with Your Scale 肥満と健康 リサーチ発表

発表と討議

第21回 Beyond the Blame Game 医療過誤 演習

有害事象、義務怠慢他

第22回 医療過誤リサーチと発表

発表と討議

第23回 What comes Forst When Helping Others 演習

救急救命とセルフケア

第24回 救急救命とセルフケア リサーチ発表

発表と討議

第25回 How to Identify Reliable Health Information 演習

健康情報、医療情報の吟味

第26回 健康情報、医療情報の吟味 リサーチ発表

発表と討議

第27回 Japan's Healthcare System 演習

日本の健康保険制度

第28回 日本の健康保険制度 リサーチ発表

発表と討議

第29回 復習演習

全内容の復習とリサーチ課題決定

第30回 復習演習 発表と討議

発表と討議に併せて総括を行う

定期試験

VELC英語運用能力テストにて定期試験

| | | | |
|---|----------|--------|---------|
| 科目名：英語演習4【Ⅱ】薬指定テキストⅡ-2 2年後期共通（医療薬学科）週1回、15回 | | | |
| 英文名：English 4 | | | |
| 担当者：久保 公人・田中 博晃・東野 ツヤ子・廣重 尚実 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

英語演習1,2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達手段としての英語力をより一層確実なものとする。科学、医薬系の話題の英文テキストによる演習を行う。またe-learningによる演習も行う。なおe-learningは自宅学習中心で行い、レポートや試験などの単位認定に重要な課題と同等として扱う。

■学習・教育目標および到達目標

専門的な医薬系英文を分速150語以上のスピードで読み、その要点を英語または日本語で整理要約し、他者にわかりやすく伝達できる。読んだ内容に関連する話題をリサーチし、1～3分の英語または日本語のプレゼンテーションができる。この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1, 2-2, 3-1, 3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をVELCのサイトに掲載します。

■教科書

[ISBN] 9784523175568 『The wonders of medicine—医学・薬学系学生のための総合英語』Yukio Seya他著 南雲堂
『Practical English 7』リアリーイングリッシュ

■参考文献

薬学英语の練習帳 OTC医薬品の服薬指導に役立つ英語表現

■関連科目

英語演習1,2,4。オーラルイングリッシュ1,2,3,4。

■成績評価方法および基準

授業中の小テスト、レポート、発表、e-learningなど 60%
統一定期試験としての英語運用能力テストVELCテスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員の指示に従う。

■オフィスアワー

各クラス担当教員の指示に従う。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがある。

第1回 授業説明。Unit1演習。

Receptors as Drug Targets

第2回 Unit2 演習

Routes of Drug Administration

第3回 Unit3 演習

Drug Development and Approval

第4回 Unit4 演習

What Is Kampo?

第5回 Unit5 演習

Helicobacter pylori and the New Drugs for Peptic Ulcers

第6回 Unit6 演習

Heart Disease: Nitroglycerin as a Cardiovascular Drug

第7回 Unit7 演習

Respiratory Disease: The Renewed Threat of Tuberculosis

第8回 Unit8 演習

Anti-anxiety Agents

第9回 Unit9 演習

Chemotherapy: An Old Treatment with tNew Hope for the Future

第10回 Unit10 演習

AIDS: Getting a Handle on Treatment

第11回 Unit11 演習

Immunosuppressant Drugs and the Transplant Revolution

第12回 Unit12 演習

Adverse Drug Reactions

第13回 Unit13 演習

Iatrogenic CJD

第14回 Unit14 演習

Pharmacists and Society

第15回 まとめ演習

復習総括と確認

統一定期試験(VELCテスト)

英語運用能力テストVELC(リスニングを含む70分テスト)による統一定期試験を行います。ここまでの授業全体の要点を復習し、不明な点が内容にすること。試験後、できなかった問題について復習を行うこと。

| | | | |
|--|----------|--------|---------|
| 科目名：英語演習4【Ⅱ】薬指定テキストⅡ-4 2年後期共通（創薬学科）週2回、30回 | | | |
| 英文名：English 4 | | | |
| 担当者：久保 公人・廣重 尚実 | | | |
| 単 位：2単位 | 開講年次：2年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

英語演習1,2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達手段としての英語力をより一層確実なものとする。科学、医薬系の話題の英文テキストによる演習を行う。e-learningを使った演習も行う。なおe-learningは自宅学習中心で行い、レポートや試験などの単位認定に重要な課題と同等として扱う。

■学習・教育目標および到達目標

専門的な医薬系英文を分速150語以上のスピードで読み、その要点を英語または日本語で整理要約し、他者にわかりやすく伝達できる。読んだ内容に関連する話題をリサーチし、1～3分の英語または日本語のプレゼンテーションができる。この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1, 2-2, 3-1, 3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をVELCのサイトに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784523175568 『The wonders of medicine—医学・薬学系学生のための総合英語』 瀬谷 幸男他著 南雲堂
『Practical English 7』 リアラーイングリッシュ

■参考文献

授業中に随時、指示・紹介する。

■関連科目

英語演習1,2,4。オーラルイングリッシュ 1,2,3,4。

■成績評価方法および基準

授業中の小テスト、レポート、発表、e-learningなど 60%
統一定期試験としての英語運用能力テストVELCテスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各クラス担当教員の指示に従う。

■オフィスアワー

各クラス担当教員の指示に従う。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがある。

第1回 授業説明。Unit1演習。

Receptors as Drug Targets

第2回 Unit1 後半演習、およびe-learningによる演習

Receptors as Drug Targets

第3回 Unit2 演習

Routes of Drug Administration

第4回 Unit2 後半演習、およびe-learningによる演習

Routes of Drug Administration

第5回 Unit3 演習

Development and Approval

第6回 Unit3 後半演習、およびe-learningによる演習

Development and Approval

第7回 Unit4 演習

What Is Kampo?

第8回 Unit4 後半演習、およびe-learningによる演習

What Is Kampo?

第9回 Unit5 演習

Helicobacter pylori and the New Drugs for Peptic Ulcers

第10回 Unit5 後半演習、およびe-learningによる演習

Helicobacter pylori and the New Drugs for Peptic Ulcers

第11回 Unit6 演習

Heart Disease: Nitroglycerin as a Cardiovascular Drug

第12回 Unit6 後半演習、およびe-learningによる演習

Heart Disease: Nitroglycerin as a Cardiovascular Drug

第13回 Unit7 演習

Respiratory Disease: The Renewed Threat of Tuberculosis

第14回 Unit7 後半演習、およびe-learningによる演習

Respiratory Disease: The Renewed Threat of Tuberculosis

第15回 まとめと復習

まとめと復習を行います。

第16回 Unit 8 後半演習、およびe-learningによる演習

Anti-anxiety Agents

第17回 Unit 8 演習

Anti-anxiety Agents

第18回 Unit 9 後半演習、およびe-learningによる演習

Chemotherapy: An Old Treatment with tNew Hope for the Future

第19回 Unit 9 演習

Chemotherapy: An Old Treatment with tNew Hope for the Future

第20回 Unit 10 後半演習、およびe-learningによる演習

AIDS: Getting a Handle on Treatment

第21回 Unit 10 演習

AIDS: Getting a Handle on Treatment

第22回 Unit 11 後半演習、およびe-learningによる演習

Immunosuppressant Drugs and the Transplant Revolution

第23回 Unit 11 演習

Immunosuppressant Drugs and the Transplant Revolution

第24回 Unit 12 後半演習、およびe-learningによる演習

Adverse Drug Reactions

第25回 Unit 12 演習

Adverse Drug Reactions

第26回 Unit 13 後半演習、およびe-learningによる演習

iatrogenic CJD

第27回 Unit 13 演習

iatrogenic CJD

第28回 Unit 14 後半演習、およびe-learningによる演習

Pharmacists and Society

第29回 Unit 14 演習

Pharmacists and Society

第30回 Unit 15 まとめと後半演習およびe-learningの演習

まとめと復習の演習活動を行います。

統一定期試験(VELCテスト)

英語運用能力テストVELC(リスニングを含む70分テスト)による統一定期試験を行います。ここまでの授業全体の要点を復習し、不明な点が内容にすること。試験後、できなかった問題について復習を行うこと。

| | | | |
|--|-----------|---------|---------|
| 科目名： オーラルイングリッシュ 1 | | | |
| 英文名： Oral English 1 | | | |
| 担当者： クリストファー オルズイック・トマス サイモン マーク・ハテイング スティーブン・フィ ゴーニ ウィリアム・シェーン リーチ | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 1年次 | 開講期： 前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面や機能に応じた会話力の向上を目指す。

通常のオーラル・イングリッシュ1の授業に加えて、1セメスターのうち、少なくとも2回は、近畿大学英語村E³(e-cube)スタッフと様々なトピックでディスカッションを行うこと。なお、あらかじめ、英語村E³(e-cube)パスポート申請書に必要事項を記入し、英語村E³(e-cube)にて同パスポートの交付を受けること。

■学習・教育目標および到達目標

音読上の規則を理解し、5～10語前後からなる会話ができる。様々な場面に応じた表現を使うことができる。この科目は薬学部ディプロマポリシーのDP3-1の国際化適応、DP3-3のコミュニケーション能力養成に対応する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説は、授業中に学生に説明、またUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

クラスにより使用テキストが異なります。
最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

英語演習1

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%

小テスト 25%

宿題／レポート／スピーチ 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

共通テキストを使い、口頭での英語の聞き取りと表現ができるように学習する。併せて多読指導を行う。必要に応じて、小テスト、インタビューテストを行う。

第1回 授業目標と説明、挨拶

授業目標と説明、挨拶

第2回 挨拶、自己紹介、他己を紹介する、スピーチ

挨拶、自己紹介、他己を紹介する、スピーチ

第3回 情報の収集、目的の説明、郵便局での会話

情報の収集、目的の説明、郵便局での会話

第4回 情報の確認（相手に繰り返してもらおう）銀行での会話（数字、数え方など）

情報の確認（相手に繰り返してもらおう）銀行での会話（数字、数え方など）

第5回 相手の意見を求める、意見を述べる、同意する、反対する、スピーチ

相手の意見を求める、意見を述べる、同意する、反対する、スピーチ

第6回 物事を説明する、理由を述べる

物事を説明する、理由を述べる

第7回 日本文化、ホームステイでの会話、スピーチ

日本文化、ホームステイでの会話、スピーチ

第8回 好き嫌い、趣味

好き嫌い、趣味

第9回 依頼する、引き受ける、断る、スピーチ

依頼する、引き受ける、断る、スピーチ

第10回 レストランでの注文、チップの習慣など

レストランでの注文、チップの習慣など

第11回 招待する、招待を受ける、断る、スピーチ

招待する、招待を受ける、断る、スピーチ

第12回 電話での会話（予定、予約、計画など）

電話での会話（予定、予約、計画など）

第13回 許可を求める、与える、断る

許可を求める、与える、断る

第14回 申し出る、申し出を受ける、断る

申し出る、申し出を受ける、断る

第15回 総合復習

総合復習（復習小テスト他）

授業中の提出物と小テストから総合的に評価する。

| | | | |
|--|-----------|---------|---------|
| 科目名： オーラルイングリッシュ 2 | | | |
| 英文名： Oral English 2 | | | |
| 担当者： クリストファー オルズイック・トマス サイモン マーク・ハテイング スティーブン・フィ ゴーニ ウィリアム・シェーン リーチ | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 1年次 | 開講期： 後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

この科目はオーラルイングリッシュ1で学習した内容を発展させ、初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。通常のオーラル・イングリッシュ2の授業に加えて、1セメスターのうち、少なくとも2回は、近畿大学英語村E³(e-cube)スタッフと様々なトピックでディスカッションを行うこと。なお、あらかじめ、英語村E³(e-cube)パスポート申請書に必要事項を記入し、英語村E³(e-cube)にて同パスポートの交付を受けること。

■学習・教育目標および到達目標

音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。様々な場面での日常会話を伝達機能を理解した上で使いこなせる。この科目は薬学部ディプロマポリシー DP3-1国際化対応、DP3-3コミュニケーション能力養成に対応する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点は授業中に随時要点解説と説明を行う。

■教科書

クラスにより使用テキストが異なります。
最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

英語演習 1, 2
オーラルイングリッシュ 1

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%
小テスト 25%
宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

オーラルコミュニケーション訓練を、オーラルイングリッシュ1より高いレベルで行う。

第1回 過去についての会話

過去についての会話

第2回 道順を尋ねる、答える／交通（乗り物）の会話

道順を尋ねる、答える／交通（乗り物）の会話

第3回 旅行の会話、場所の描写

旅行の会話、場所の描写

第4回 人の描写（身体的特徴、性格など）

人の描写（身体的特徴、性格など）

第5回 家族についての会話

家族についての会話

第6回 洋服や身に着けるものについての会話／天候についての会話

洋服や身に着けるものについての会話／天候についての会話

第7回 買い物の会話、必要な物を求める、物の描写、比較、対照

買い物の会話、必要な物を求める、物の描写、比較、対照

第8回 感情の表現

感情の表現

第9回 病院での会話（症状と治療法）／健康維持に関する会話

病院での会話（症状と治療法）／健康維持に関する会話

第10回 提案や忠告を求める、与える

提案や忠告を求める、与える

第11回 苦情を言う、謝る／ホテルでの会話

苦情を言う、謝る／ホテルでの会話

第12回 相手を説得する

相手を説得する

第13回 ほめる、お世辞を言う、感謝する

ほめる、お世辞を言う、感謝する

第14回 将来についての会話

将来についての会話

第15回 総合復習

小テスト、レポート提出等

| | | | |
|---|-----------|---------|---------|
| 科目名： オーラルイングリッシュ 3 | | | |
| 英文名： Oral English 3 | | | |
| 担当者： マーク ジョン シェフナー・ハテイング スティーブン・フィゴーニ ウィリアム・シェーンリーチ | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2年次 | 開講期： 前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少しつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。

■学習・教育目標および到達目標

この科目は薬学部ディプロマポリシー DP3-1 国際化対応、DP3-3 コミュニケーション能力の養成、に対応する。具体的目標は、特定の話題について1分間以上のプレゼンテーションやディスカッションができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説を、順次、授業中に行う。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

オーラルイングリッシュ1, 2
英語演習1, 2

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%
小テスト 25%
宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

オーラルイングリッシュで習得した能力を更に高いレベルで学習し、修得する。

第1回 授業目標と説明

授業目標と説明

第2回 挨拶、自己紹介

挨拶、自己紹介

第3回 食べ物

食べ物

第4回 日本文化

日本文化

第5回 買い物

買い物

第6回 プレゼンテーション

プレゼンテーション

第7回 音楽

音楽

第8回 交通

交通

第9回 仕事

仕事

第10回 家族

家族

第11回 プレゼンテーション

プレゼンテーション

第12回 旅行

旅行

第13回 ヨーロッパ

ヨーロッパ

第14回 有名人

有名人

第15回 総合復習

総合復習

授業中の提出物と小テストから総合的に評価する。

| | | | |
|--|-----------|---------|---------|
| 科目名： オーラルイングリッシュ 4 | | | |
| 英文名： Oral English 4 | | | |
| 担当者： マーク ジョン シェフナー・ハテイング ステイブン・フィゴーニ ウィリアム・シェーンリーチ | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2年次 | 開講期： 後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

この科目はオーラルイングリッシュ3で学習した内容を発展させ、簡単なスピーチやディベートを通して一層進んだ会話表現力を身につけることを目指す。

■学習・教育目標および到達目標

この科目は薬学部ディプロマポリシー3-1国際化対応、DP3-3コミュニケーション能力養成、に対応する。具体的目標は、特定の話題について2分間以上のプレゼンテーションやディスカッションができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説を順次授業中に行い、最終回のみUniversal Passportに掲載する。

■教科書

最初の授業で指示する。

■参考文献

最初の授業で指示する。

■関連科目

オーラルイングリッシュ1, 2, 3
英語演習1, 2, 3

■成績評価方法および基準

口頭発表 50%
小テスト 25%
宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

オーラルコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の完成を目指す。

第1回 夏休みについての話

夏休みについての話

第2回 スポーツ

スポーツ

第3回 住まいや生活

住まいや生活

第4回 健康

健康

第5回 プレゼンテーション

プレゼンテーション

第6回 娯楽、メディア、エンターテインメントなど

娯楽、メディア、エンターテインメントなど

第7回 動物

動物

第8回 天候

天候

第9回 アメリカ

アメリカ

第10回 プレゼンテーション

プレゼンテーション

第11回 迷信（信じる／信じない）

迷信（信じる／信じない）

第12回 教育

教育

第13回 異文化

異文化

第14回 プレゼンテーション

プレゼンテーション

第15回 総合復習

小テスト、レポート等

15回の提出物と小テストから総合的に成績評価する。

| | | | |
|--------------------------------|------------|--------|---------|
| 科目名：TOEIC A | | | |
| 英文名：TOEIC A | | | |
| 担当者： ^{ヒラカワ キミコ} 平川 公子 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

英語の発展科目です。

就職活動や職業生活に必須ともいえる、英語コミュニケーション能力を図る試験TOEICについて、その試験内容ならびに問われる英語運用能力について知り、自分が設定する目標スコアに到達するにはどのように学習すべきかを学びます。具体的には、TOEICの出題形式に沿った実践的な問題演習を通じて、文法の理解を深化させ、同時に、テスト・テイキング・スキルを伸ばします。また、頻出語彙の確認も行います。リスニングについては、日本人にとって難しい、いくつかの英語音声の聞き取り能力の伸長を中心に据えますが、全体の流れの把握方法や、英語の各バラエティ（米語、豪語など）の特徴についても適宜学習していきます。

2016年度より、TOEICの出題形式が変更されたのに伴い、テストがやや難化しました。また、より実践的な英語運用力が問われるようになりました。これらの変更も視野に入れ、実際の英語使用場面やコンテキストについての説明も加えます。

(受講者人数が超過していると担当教員が判断した場合、何らかの受講者数調整処置を行います。)

■学習・教育目標および到達目標

この授業により

1. TOEIC Testの内容について知ります
 2. TOEIC Testにおいて求められる文法理解や読解力のレベルを知ります
 3. TOEIC Testにおいて求められるリスニング能力のレベルを知ります
 4. 自分の設定する目標スコアへ到達するために必要な英語運用能力の程度を理解し、そこへ至るに足る英語運用能力について、読解・聴解各々で学習します。
 5. 推奨されるTOEIC受験を通じて、自己の英語運用能力を客観的に評価できます。
 6. いわゆるテスト・テイキングの技術についても有用なものについては学習します。
- この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマ・ポリシーの6の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に課題の答案を返却します。

中間試験の解説を翌回の授業時間に行います。

定期試験の解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784791960293 『TOEIC LISTENING AND READING TESTオールパワフル演習』(石井 隆之, 成美堂 : 2017)

■関連科目

TOEIC B

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

中間試験・小テスト 30%

授業参加・受講姿勢 30%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

■オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがあります。

第1回 Unit 1 Airport

航空旅行についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に動詞について練習します。

第2回 Unit 2 Train Station

鉄道についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に準動詞について練習します。

第3回 Unit 3 Department Store

ショッピングについてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に5文型について練習します。

第4回 Unit 4 Restaurant

外出についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に関係詞と接続詞について練習します。

第5回 Unit 5 Hotel

宿泊についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に助動詞と仮定法について練習します。

第6回 Unit 6 Hospital

医療についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に前置詞と冠詞について練習します。

第7回 Unit 7 Bank

金融についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に否定と比較について練習します。

第8回 中間試験

第1回～第7回の学習内容を踏まえた、ミニ模擬試験（Listening中心）を行います

第9回 Unit 8 Workplace

職場についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に接頭辞について練習します。

第10回 Unit 9 Fitness Club

健康と運動についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に接尾辞について練習します。

第11回 Unit 10 Sightseeing

観光についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に（形容詞以外の）派生語について練習します。

第12回 Unit 11 International Conference

国際会議についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に形容詞派生語について練習します。

第13回 Unit 12 Computer Society

コンピュータについてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に類似語について強化を図ります。

第14回 Unit 13 Employment

就活・採用についてのTOEIC全パート演習。Part 5では特に同音異義語について強化を図ります。

第15回 Unit 14 Job Training

職場研修についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に綴りが似ている語について強化を図ります。

定期試験

第9回～第15回の学習内容を踏まえた、ミニ模擬試験（Reading中心）を行います

| | | | |
|-----------------------------------|------------|--------|---------|
| 科目名：TOEIC A | | | |
| 英文名：TOEIC A | | | |
| 担当者： <small>キナミ ノリコ</small> 木南 法子 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

TOEICスコア500以上を取得するための演習を行う。TOEICの試験内容を知り、自分が設定する目標スコアに到達するための学習法を学ぶ。具体的には、TOEICの形式に沿った実戦的な問題演習を通じて、TOEICに必要な語彙を強化し、重要な文法事項を再確認する。TOEICの試験形式に慣れ、TOEICスコアを向上させるためのストラテジー（攻略法）を身につける。リスニングについては、英語の音の特徴を確認し、リスニング力を向上させる方法を解説したうえで、聞き取り練習を重点的に行う。

2016年度よりTOEICの出題形式が変更され、より実践的な英語運用力が問われることになった。この変更も視野に入れ、実際の英語使用場面についても解説する。

受講者人数が超過していると担当教員が判断した場合、何らかの受講者数調整処置を行う。

■学習・教育目標および到達目標

この授業により

1. TOEIC Testの内容を知る
2. TOEIC Testの各パートを攻略するためのストラテジー（方略）を身につける
3. TOEIC Testの試験形式に慣れる
4. TOEIC Testに頻出する語彙を定着させる
5. 重要な文法事項（時制、受動態など）を確認し、演習を通して定着させる
6. 自分の設定する目標スコアへ到達するために必要な英語運用能力の程度を理解する
7. リスニング・リーディング能力を向上させる
8. 推奨されるTOEIC受験を通じて、自分の英語運用能力を客観的に評価する

この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1、2-2、3-1、3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

中間試験は翌回の授業時間に答案（写し）を返却する。ほぼ毎回提出してもらうワークシートは添削して翌回の授業時間に返却する。

■教科書

[ISBN]9784791960293 『TOEIC LISTENING AND READING TESTオールパワフル演習』（石井 隆之, 成美堂：2017）

■参考文献

必要に応じて授業時に指示する。

■関連科目

TOEIC B/2

TOEIC 3/4

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

中間試験 30%

提出物・授業参加・受講態度 30%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

nkinami@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがある。

第1回 Unit 1 Airport

シラバスの配布・説明。TOEICガイダンス。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 空港 Part 2 WH疑問文(基礎)

Part 3 フライトの予約 Part 4 旅客のマナー Part 5 動詞の形 Part 6 ビジネスEメール Part 7 フライトの案内表示

第2回 Unit 2 Train Station

TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 鉄道の駅 Part 2 WH疑問文（応用）Part 3 道を尋ねる Part 4 鉄道博物館案内 Part 5 準動詞 Part 6 乗客の安全対策 Part 7 ツアーのスケジュール表

第3回 Unit 3 Department Store

TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 デパート Part 2 一般疑問文 Part 3 客と店員の会話Part 4 ネット通販 Part 5 5文型 Part 6 セールのチラシ Part 7 デパートのセール案内

第4回 Unit 4 Restaurant

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 レストラン Part 2 選択疑問文 Part 3 食生活に関する話 Part 4 料理の歴史の話 Part 5 関係詞と接続詞 Part 6 顧客へのお知らせ Part 7 レストランのメニュー

第5回 Unit 5 Hotel

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 ホテル Part 2 否定疑問文 Part 3 フロントでの会話 Part 4 ホテルの紹介 Part 5 助動詞と仮定法 Part 6 改装のお知らせ Part 7 ホテルの予約依頼の携帯メール

第6回 Unit 6 Hospital

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 病院 Part 2 付加疑問文 Part 3 予約の変更 Part 4 医師のアドバイス Part 5 前置詞と冠詞 Part 6 外来受付時間変更 Part 7 病院での昇進に関するチャット

第7回 Unit 7 Bank

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 病院 Part 2 間接疑問文 Part 3 客と行員の会話 Part 4 ネットバンキングI Part 5 否定と比較 Part 6 ネットバンキングII Part 7 新商品の案内

第8回 中間試験

ミニ模擬試験（Listening中心）。Listening Sectionは本試験と同じ分量で約45分。Reading Sectionは約20分。

第9回 Unit 8 Workplace

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 職場 Part 2 肯定文と否定文 Part 3 上司と部下の会話 Part 4 人事異動の連絡 Part 5 接頭辞共通 Part 6 コピー機の契約 Part 7 年次会議について

第10回 Unit 9 Fitness Club

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 スポーツクラブ Part 2 提案への応答 Part 3 健康の話題 Part 4 健康プログラム Part 5 接尾辞共通 Part 6 無料体験登録 Part 7 スポーツクラブへの問い合わせ

第11回 Unit 10 Sightseeing

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 観光 Part 2 依頼への応答 Part 3 道を尋ねる Part 4 観光案内 Part 5 派生語（複数の品詞） Part 6 観光地の案内 Part 7 観光名所について

第12回 Unit 11 International Conference

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 国際会議 Part 2 勧誘への応答 Part 3 出張中の出来事Part 4 講演 Part 5 派生語（形容詞） Part 6 講演者の紹介 Part 7 国際会議のスケジュール

第13回 Unit 12 Computer Society

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 コンピュータ Part 2 感謝・謝罪への応答 Part 3 SNS広告 Part 4 スマホ vs ガラケー Part 5 類似語 Part 6 スマホの虹彩認証 Part 7 スマホの機能について

第14回 Unit 13 Employment

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 採用 Part 2 意外な応答1 Part 3 就活の話題 Part 4 就活アドバイス Part 5 同音異義語 Part 6 履歴書添状 Part 7 求人案内と応募メール

第15回 Unit 14 Job Training

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。各パートのテーマ：Part 1 研修 Part 2 意外な応答2 Part 3 新入社員の会話 Part 4 研修内容の説明 Part 5 綴りが似ている単語 Part 6 e-worker 研修 Part 7 社内研修プログラムとメール

定期試験

ミニ模擬試験（Reading中心）。Listening Sectionは約20分。Reading Sectionは約40分。

| | | | |
|--------------------------------|------------|--------|---------|
| 科目名：TOEIC B | | | |
| 英文名：TOEIC B | | | |
| 担当者： ^{ヒラカワ キミコ} 平川 公子 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

英語の発展科目です。

就職活動や職業生活に必須ともいえる、英語コミュニケーション能力を図る試験TOEICについて、その試験内容ならびに問われる英語運用能力について知り、自分が設定する目標スコアに到達するにはどのように学習すべきかを学びます。具体的には、TOEICの出題形式に沿った実践的な問題演習を通じて、文法の理解を深化させ、同時に、テスト・テイキング・スキルを伸ばします。また、頻出語彙の確認も行います。リスニングについては、日本人にとって難しい、いくつかの英語音声の聞き取り能力の伸長を中心に据えますが、全体の流れの把握方法や、英語の各バラエティ（米語、豪語など）の特徴についても適宜学習していきます。

2016年度より、TOEICの出題形式が変更されたのに伴い、テストがやや難化しました。また、より実践的な英語運用力が問われるようになりました。これらの変更も視野に入れ、実際の英語使用場面やコンテキストについての説明も加えます。

(受講者人数が超過していると担当教員が判断した場合、何らかの受講者数調整処置を行います。)

■学習・教育目標および到達目標

この授業により

1. TOEIC Testの内容について知ります
 2. TOEIC Testにおいて求められる文法理解や読解力のレベルを知ります
 3. TOEIC Testにおいて求められるリスニング能力のレベルを知ります
 4. 自分の設定する目標スコアへ到達するために必要な英語運用能力の程度を理解し、そこへ至るに足る英語運用能力について、読解・聴解各々で学習します。
 5. 推奨されるTOEIC受験を通じて、自己の英語運用能力を客観的に評価できます。
 6. いわゆるテスト・テイキングの技術についても有用なものについては学習します。
- この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマ・ポリシーの6の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に課題の答案を返却します。

中間試験の解説を翌回の授業時間に行います。

定期試験の解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784255155951『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST』(北尾泰幸 西田晴美 林 姿穂 Brian Covert, 朝日出版社：2017)

■関連科目

TOEIC A

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

中間試験・小テスト 30%

授業参加・受講姿勢 30%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

■オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがあります。

第1回 Unit 1 Eating Out

外食のトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に動詞について練習します。

第2回 Unit 2 Travel

旅行のトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に動詞について練習します。

第3回 Unit 3 Amusement

娯楽のトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に品詞について練習します。

第4回 Unit 4 Meetings

会合のトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に分詞について練習します。

第5回 Unit 5 Personnel

人事のトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に不定詞と動名詞について練習します。

第6回 Unit 6 Shopping

買い物のトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に不定詞と動名詞について練習します。

第7回 Unit 7 Advertisement

広告のトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に仮定法について練習します。

第8回 中間試験

第1回～第7回の学習内容を踏まえた、ミニ模擬試験（Listening中心）を行います

第9回 Unit 8 Daily Life

日常生活のトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に受動態について練習します。

第10回 Unit 9 Office Work

職場での仕事についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に代名詞について練習します。

第11回 Unit 10 Business

ビジネスのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に数量詞と比較について練習します。

第12回 Unit 11 Traffic

交通のトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に接続詞について練習します。

第13回 Unit 12 Finance and Banking

金融とバンキングについてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に前置詞について練習します。

第14回 Unit 13 Media

メディアのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。Part 5では特に語彙について強化を図ります。

第15回 Unit 14 Health and Welfare

健康と福祉についてのトピックに基づく、TOEIC全パート演習。総まとめを行います。

定期試験

第9回～第15回の学習内容を踏まえた、ミニ模擬試験（Reading中心）を行います

| | | | |
|-------------------------------|------------|--------|---------|
| 科目名：TOEIC B | | | |
| 英文名：TOEIC B | | | |
| 担当者： ^{キナミ ノリコ} 木南 法子 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

TOEICスコア500以上を取得するための演習を行う。TOEICの試験内容を知り、自分が設定する目標スコアに到達するための学習法を学ぶ。具体的には、TOEICの形式に沿った実戦的な問題演習を通じて、TOEICに必要な語彙を強化し、重要な文法事項を再確認する。TOEICの試験形式に慣れ、TOEICスコアを向上させるためのストラテジー（攻略法）を身につける。リスニングについては、英語の音の特徴を確認し、リスニング力を向上させる方法を解説したうえで、聞き取り練習を重点的に行う。

2016年度よりTOEICの出題形式が変更され、より実践的な英語運用力が問われることになった。この変更も視野に入れ、実際の英語使用場面についても解説する。

受講者人数が超過していると担当教員が判断した場合、何らかの受講者数調整処置を行う。

■学習・教育目標および到達目標

この授業により

1. TOEIC Testの内容を知る
2. TOEIC Testの各パートを攻略するためのストラテジー（方略）を身につける
3. TOEIC Testの試験形式に慣れる
4. TOEIC Testに頻出する語彙を定着させる
5. 重要な文法事項（時制、受動態など）を確認し、演習を通して定着させる
6. 自分の設定する目標スコアへ到達するために必要な英語運用能力の程度を理解する
7. リスニング・リーディング能力を向上させる
8. 推奨されるTOEIC受験を通じて、自分の英語運用能力を客観的に評価する

この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1、2-2、3-1、3-3の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

中間試験は翌回の授業時間に答案（写し）を返却する。ほぼ毎回提出してもらうワークシートは添削して翌回の授業時間に返却する。

■教科書

[ISBN]9784255155951『一步上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2 - Intermediate』（北尾泰幸 西田晴美 林 姿穂 Brian Covert, 朝日出版社：2017）

■参考文献

必要に応じて授業時に指示する。

■関連科目

TOEIC B/2

TOEIC 3/4

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

中間試験 30%

提出物・授業参加・受講態度 30%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

nkinami@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがある。

第1回 Unit 1 Eating Out

シラバス配布・説明。TOEICガイダンス。TOEIC全パート演習。文法：動詞（1）

第2回 Unit 2 Travel

TOEIC全パート演習。文法：動詞（2）

第3回 Unit 3 Amusement

TOEIC全パート演習。文法：品詞

第4回 Unit 4 Meetings

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。文法：分詞

第5回 Unit 5 Personnel

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。文法：不定詞と動名詞（1）

第6回 Unit 6 Shopping

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。文法：不定詞と動名詞（2）

第7回 Unit 7 Advertisement

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。文法：仮定法

第8回 中間試験

ミニ模擬試験（Listening中心）。Listening Sectionは本試験と同じ分量で約45分。Reading Sectionは約20分。

第9回 Unit 8 Daily Life

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。文法：受動態

第10回 Unit 9 Office Work

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。文法：代名詞

第11回 Unit 10 Business

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。文法：数量詞・比較

第12回 Unit 11 Traffic

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。文法：接続詞

第13回 Unit 12 Finance and Banking

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。文法：前置詞

第14回 Unit 13 Media

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。文法：語彙

第15回 Unit 14 Health and Welfare

ワークシートを使用してタスクを行う。TOEIC全パート演習。総まとめ。

定期試験

ミニ模擬試験（Reading中心）。Listening Sectionは約20分。Reading Sectionは約40分。

| | | | |
|------------------------------------|-------------|---------|--------------|
| 科目名： TOEFL A | | | |
| 英文名： TOEFL A | | | |
| 担当者： <small>タナカ ヒロアキ</small> 田中 博晃 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2～4年次 | 開講期： 前期 | 必修選択の別： 選択科目 |

■授業概要・方法等

英語圏の大学への留学に必要なTOEFLテストの基礎的知識を習得し、TOEFL ITP対策のリスニングとリーディングを中心とした問題演習を行います。受講者人数が超過していると担当教員が判断した場合、何らかの受講者数調整処置を行う。またTOEFL ITP試験の受験も積極的に推奨し評価する。

■学習・教育目標および到達目標

- ・ TOEFL (ITP) で460以上、(iBT) で80以上取得の英語力を身につける。
- ・ TOEFL問題演習を通じて、Academic EnglishあるいはCampus Englishを学び、グローバル化に対応するための学習をする。
- ・ この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー 3-1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

配布教材を使用

■成績評価方法および基準

授業への取り組みと小テスト 60%
定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に基づいて行う。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員の指示に従うこと。

■オフィスアワー

水曜日 2時間目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがある。

第1回 オリエンテーション

授業の説明を行います。

第2回 Science(1)

Science(1)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第3回 Science(2)

Science(2)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第4回 Science(3)

Science(3)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第5回 Science(4)

Science(4)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第6回 Science(5)

Science(5)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第7回 Biology (1)

Biology(1) に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第8回 Biology (2)

Biology(2) に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第9回 Biology (3)

Biology(3) に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第10回 Biology (4)

Biology(4) に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第11回 Biology (5)

Biology(5) に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第12回 Health & Willness(1)

Health & Willness(1)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第13回 Health & Willness(2)

Health & Willness(2)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第14回 Health & Willness(3)

Health & Willness(13)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

第15回 Health & Willness(4)

Health & Willness(4)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの問題演習を行う。

期末テストを実施します。

ここまでの授業全体の要点を復習し、不明な点が内容にすること。試験後、できなかった問題について復習を行うこと。

| | | | |
|---------------------------------------|-------------|---------|--------------|
| 科目名： TOEFL B | | | |
| 英文名： TOEFL B | | | |
| 担当者： <small>タナカ ヒロアキ</small> 田中 博晃 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2～4年次 | 開講期： 後期 | 必修選択の別： 選択科目 |

■授業概要・方法等

英語圏の大学への留学に必要なTOEFLテストの基礎的知識を習得し、TOEFL iBT対策のリスニングとリーディングを中心とした問題演習を行います。受講者人数が超過していると担当教員が判断した場合、何らかの受講者数調整処置を行う。またTOEFL ITP試験の受験も積極的に推奨し評価する。

■学習・教育目標および到達目標

- ・ TOEFL (ITP) で460以上、(iBT) で80以上取得の英語力を身につける。
- ・ TOEFL問題演習を通じて、Academic EnglishあるいはCampus Englishを学び、グローバル化に対応するための学習をする。
- ・ この科目の修得は、薬学科の定めるディプロマポリシー 3-1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

配布教材を使用

■成績評価方法および基準

授業への取り組みと小テスト 60%
定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規定に基づいて行う。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員の指示に従うこと。

■オフィスアワー

水曜日 2時間目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

なお各クラス担当教員の指示により、シラバスの内容については調整・変更することがある。

第1回 オリエンテーション

授業の説明を行います。

第2回 Science(1)

Science(1)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第3回 Science(2)

Science(2)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第4回 Science(3)

Science(3)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第5回 Science(4)

Science(4)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第6回 Science(5)

Science(5)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第7回 Biology (1)

Biology(1) に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第8回 Biology (2)

Biology(2) に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第9回 Biology (3)

Biology(3) に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第10回 Biology (4)

Biology(4) に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第11回 Biology (5)

Biology(5) に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第12回 Health & Willness(1)

Health & Willness(1)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第13回 Health & Willness(2)

Health & Willness(2)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第14回 Health & Willness(3)

Health & Willness(13)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

第15回 Health & Willness(4)

Health & Willness(4)に関連するTOEFLのリーディングおよびリスニングの発展的な問題演習を行う。

期末テスト

期末テストを実施します。

ここまでの授業全体の要点を復習し、不明な点が内容にすること。試験後、できなかった問題について復習を行うこと。

| | | | |
|-------------------------------|------------|--------|---------|
| 科目名：ライティングA | | | |
| 英文名：Writing A | | | |
| 担当者： ^{ヤスダ サチコ} 安田 幸子 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

この授業では英文の基本的な論理展開に必要な考え方、表現、文法などをリスニングや音読練習を通して確認し、身につけながら、パラグラフライティングへと進んでいきます。また、随時小テストを行い理解度と定着度を確認します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者はこの授業を受講することによって

- 1) 英語の語彙力、文法力を向上させ
 - 2) 修得した語彙、表現を活用してさまざまな英文を書くことができ
 - 3) 自分の考えや伝えたい内容を、うまく文章にまとめることができるようになる。
- この科目の修得は薬学部のプロマポリシー 3-1、3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784791960323 『Smart Writing-Active Approach to Paragraph Writing』(仲谷都、成美堂:2017)

■参考文献

必要に応じて授業時に指示する。

■関連科目

ライティングB

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

平常点（小テスト、課題提出、口頭発表）60%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

21号館講師控室

■オフィスアワー

月・水曜日 12:30～13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

この授業では英文の基本的な論理展開に必要な考え方、表現、文法などをリスニングや音読練習を通して確認し、身につけながらパラグラフライティングへと進みます。また、随時小テストで内容の理解度、定着度を確認します。

第1回 イン트로ダクション

授業の進め方、留意点について説明。
「パラグラフとは何か」について読む。

第2回 Chapter 1 What Is a Paragraph?

パラグラフの基本構造を理解する

第3回 Chapter 2 Narration

出来事を時間の流れに沿って説明する

第4回 Chapter 3 Process

手順、手続きを説明する

第5回 Chapter 4 Description of Feelings

思ったこと、感じたことを描写する

第6回 Chapter 5 Description of People

人物について描写する

第7回 Chapter 6 Description of Places & Locations

場所について描写する

第8回 Chapter 7 Definition

物事の定義をする

第9回 Chapter 8 Comparison & Contrast

2つの物事の類似点、相違点を述べる

第10回 Chapter 9 Cause & Effect

原因とその結果について書く

第11回 Chapter 10 Problems & Solution

問題を指摘し、その解決策を説明する

第12回 Chapter 11 Your Opinion — Agree

賛成の立場で意見を述べる

第13回 Chapter 12 Your Opinion -- Disagree

反対の立場で意見を述べる

第14回 Chapter 13 Data Analysis

データを分析し、わかりやすく説明する

第15回 Chapter 14 Email Writing

英文Eメール、手紙を書く

定期試験

| | | | |
|-------------------------------|------------|--------|---------|
| 科目名：ライティングA | | | |
| 英文名：Writing A | | | |
| 担当者： ^{コイタ ヒロミ} 小坂 裕美 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

まずは様々なテーマに関して書かれたモデル・エッセイを読み、エッセイの構造・重要表現・文法事項を確認します。そこで学んだ事項を使い、基礎から応用まで段階を踏んだ英文作成の練習をします。その上で、プレゼンテーションに対応する力をつけるために、少し長めの文章を執筆する練習も行います。

■学習・教育目標および到達目標

医薬系の研究や仕事をする上で必要な、論理的かつ正確な英文を作成する能力を養成することを目標とします。受講生はこの授業を履修することにより、

1) 研究や仕事上のやり取りにおいて自分の伝えたいことを正確な英語で表現するための、基本的な文法事項や語彙を身につけます。

2) トピックセンテンスの概念やパラグラフの構造を知り、エッセイやプレゼンテーション原稿を作成する際に論理的な文章を構成できるようになります。

この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1、2-2、3-1、3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

後日に適宜模範答案（印刷物）を配布したり、授業時間内に時間を取って解説をするなどして対応します。

■教科書

[ISBN]9784764739390『文法を活かす英文ライティング入門—Writing Points!』（奥田 隆一，金星堂：2012）

■関連科目

ライティングB

■成績評価方法および基準

授業中の演習実績（小テスト・口頭発表・レポート課題など）60%

定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

■オフィスアワー

月曜12:30-13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 インTRODクシヨン

授業の進め方や成績評価に関する総合的な説明／基礎的な英作文練習

第2回 Unit 1: Overcoming Disasters（英語の主語の種類）

日本人の気質に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第3回 Unit 2: Going Digital（There is 構文）

電子書籍に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第4回 Unit 3: Judging Others（動詞(1) 自動詞と他動詞）

裁判員制度に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第5回 Unit 4: Ping-pong Hero（動詞(2) 文型）

卓球スポーツ外交に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第6回 Unit 5: Marry Me, Robot (look, appear, seem, smell, taste, feel)

ロボットに関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第7回 Unit 6: Remember Not to Forget! (動詞+動名詞、動詞+to 不定詞)

記憶力に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第8回 Review: 確認テスト(1)

これまでの学習事項が身についているかを確認するテストを行う。

第9回 Unit 7: Alienated on Earth (形容詞の文型)

現代社会と人々の繋がりに関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第10回 Unit 8: Daylight Savings (疑問文とその語順)

サマータイムに関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第11回 Unit 9: Society Service (助動詞 (1))

社会貢献に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第12回 Unit 10: The First Lady (助動詞 (1))

大統領夫人に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第13回 Unit 11: Homesick for Earth (進行形／状態動詞と動作動詞)

移住に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第14回 Review: 確認テスト (2)

第9回授業以降の学習事項が身についているかどうかを確認するテストを行う。

第15回 Unit 12: 'Anime' is English! (完了形)

アニメに関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

定期試験

授業での学習内容に基づいて出題します。

| | | | |
|-------------------------------|------------|--------|---------|
| 科目名：ライティングB | | | |
| 英文名：Writing B | | | |
| 担当者： ^{ヤスダ サチコ} 安田 幸子 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

この授業ではまず英文（手紙文、Eメール）を読み、英文作成上の基礎的な文法事項を整理し、短文単位でのライティングを練習します。その後にパラグラフおよびエッセイを書くために必要な知識の定着を目指します。また、随時小テストで内容の理解度、定着度を確認します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者はこの授業を履修することによって

- 1) 英語の語彙力、文法の知識を向上させ
- 2) 修得した語彙と表現を活用してさまざまな英文を書くことができ、
- 3) 自分の考えや伝えたい事柄をうまく文章にまとめることができるようになる。

この科目の修得は薬学部定めるディプロマポリシー 3-1、3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784523177302 『New Friends-On the Way to Writing Fluency-』 (大園弘、南雲堂:2013)

■参考文献

授業時に必要に応じて指示する

■関連科目

ライティングA

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

平常点（小テスト、課題提出、口頭発表）60%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行う

■研究室・E-mailアドレス

21号館講師控室

■オフィスアワー

月・水曜日 12:30～13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

1単位の修得には15回の授業以外に、1回の授業について90分の事前、事後学習が必要です。

第1回 Unit 1 Masashi's Letter (1) <Present Tense>

故郷を紹介する文

第2回 Unit 2 Jack's Letter (1) <Past Tense>

高校時代のことを書く

第3回 Unit 3 Masashi's Letter (2) <Future Tense>

日本固有の風物について説明する

第4回 Unit 4 Jack's Letter (2) <Continuous Tense>

夏休みの計画について書く

第5回 Unit 5 Masashi's Letter (3) <Perfect Tense>

賛成、反対の立場で意見を述べる

第6回 Unit 6 Jack's Letter (3) <Modal Auxiliaries>

日本の祭りを取り上げ、紹介する文を書く

第7回 Unit 7 Masashi's Letter (4) <Verbs, Nouns, Pronouns>

好きなスポーツについて述べる

第8回 Unit 8 Jack's Letter (4) <Adjectives, Adverbs, Prepositions>

週末の予定について書く

第9回 Unit 9 E-mail Exchange (1) <Conjunctions 1>

トピックセンテンスについて読み、理解する

第10回 Unit 10 E-mail Exchange (2) <Conjunctions 2>

支持文の役割と留意点について読み、理解する

第11回 Unit 11 E-mail Exchange (3) <Relative Pronouns & Relative Adverbs>

複数の支持文を含むパラグラフを書く

第12回 Unit 12 E-mail Exchange (4) <Interjections>

パラグラフとエッセイの共通点について

第13回 Unit 13 E-mail Exchange (5) <Comparative, Superlative>

エッセイのための導入パラグラフを書く

第14回 Unit 14 E-mail Exchange (6) <Conditional>

結びのパラグラフを理解しエッセイを完成させる

第15回 Unit 15 総復習

パラグラフとエッセイの構造上の関係を復習する

定期試験

| | | | |
|-------------------------------|------------|--------|-------------|
| 科目名：ライティングB | | | |
| 英文名：Writing B | | | |
| 担当者： ^{コイタ ヒロミ} 小坂 裕美 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別：必修科目 |

■授業概要・方法等

まずは様々なテーマに関して書かれたモデル・エッセイを読み、エッセイの構造・重要表現・文法事項を確認します。そこで学んだ事項を使い、基礎から応用まで段階を踏んだ英文作成の練習をします。その上で、プレゼンテーションに対応する力をつけるために、少し長めの文章を執筆する練習も行います。

■学習・教育目標および到達目標

医薬系の研究や仕事をする上で必要な、論理的かつ正確な英文を作成する能力を養成することを目標とします。受講生はこの授業を履修することにより、

1) 研究や仕事上のやり取りにおいて自分の伝えたいことを正確な英語で表現するための、基本的な文法事項や語彙を身につけます。

2) トピックセンテンスの概念やパラグラフの構造を知り、エッセイやプレゼンテーション原稿を作成する際に論理的な文章を構成できるようになります。

この科目の修得は、薬学部の定めるディプロマポリシー DP2-1、2-2、3-1、3-3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

後日に適宜模範答案（印刷物）を配布したり、授業時間内に時間を取って解説をするなどして対応します。

■教科書

[ISBN]9784764739390『文法を活かす英文ライティング入門—Writing Points!』（奥田 隆一，金星堂：2012）

■関連科目

ライティングA

■成績評価方法および基準

授業中の演習実績（小テスト・口頭発表・レポート課題など）60%

定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

■オフィスアワー

月曜12:30-13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 インTRODクシヨン

授業の進め方や成績評価に関する総合的な説明／基礎的な英作文練習。

第2回 Unit 13: Money & Taxes（形容詞の用法）

税金に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第3回 Unit 14: Individual Appeal（副詞と副詞句）

魅力の表し方に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第4回 Unit 15: Exercise against Stress!（名詞）

ストレス解消法に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第5回 Unit 16: Social Networking（前置詞の使い分け）

SNSに関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第6回 Unit 17: Bob and Annie (現在分詞と過去分詞)

ステレオタイプに関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第7回 Unit 18: Paying with Plastic (限定詞)

支払い方法の変化に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第8回 Review: 確認テスト(1)

これまでの学習事項が身についているかを確認するテストを行う。

第9回 Unit 19: CCTV (受け身)

防犯カメラに関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第10回 Unit 20: Galapagos Syndrome (命令文)

携帯電話に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第11回 Unit 21: Finding and Finishing Employment (接続詞)

就職に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第12回 Unit 22: Censorship (関係詞)

検閲に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第13回 Unit 23: Impatience! (比較)

平均余命の長期化に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

第14回 Review: 確認テスト(2)

第9回授業以降の学習事項が身についているかどうかを確認するテストを行う。

第15回 Unit 24: An Important Patient (仮定法)

環境保護に関するエッセイ読解による文法・語彙・文章構成の学習／英作文練習

定期試験

授業での学習内容に基づいて出題します。

外国語科目

第二外国語

第二外国語教育の共通基本目標

From

中学・高校を通じて英語を勉強したが、英語以外の外国語も今から身につけておきたい。



To

- ① 外国人と臆することなくコミュニケーションができる。
- ② 国際感覚と広い視野が身につく。



“From ⇔ To”を実現する手段としての「近畿大学の第二外国語教育」

— 今しかない、ゼロから始める楽しい第二外国語 —

共通基本目標

1. 独仏中韓を基軸とした英語以外の言語も学習し、これらの外国語の学習を通して多元的な世界の見方ができる力を培う。
2. 一人一人のレベルに応じて到達目標を設定し、その達成度を確認しつつ段階的に外国語の運用能力を向上させる。
3. 多様化する国際社会において相互に尊重し信頼し合う上で必要な知識を習得し、異文化への理解を深め、国際的な感覚を高める。

具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

1. 希望する第二外国語を選択し履修できるクラス編成。新しく学ぶ外国語の基本要素が確実に身につく基幹科目。知識を実用レベルにまで高める発展科目。
2. 自己評価により現在のレベルを確認し、次の目標を設定して自律的に学習できるシステム。教員によるきめ細かい学習支援。
3. 「ことばと文化」「国際化と異文化理解」などの教養講座と語学教育との連携。ことばを通して文化に接し、文化を学ぶことによって国際的視野と深い教養が身につく授業。
4. 授業外活動による学生の学習意欲の向上。語学センター講座（検定対策講座を含む）、留学生との交歓会、スピーチコンテストなど学内における交流。留学及び海外研修の支援。
5. 学生一人一人の意欲とニーズに応える学習指導体制。教員による学生個人を対象とする学習相談。
6. 学部専門教育との連携・橋渡し。各学部の特色を最大限に生かした第二外国語教育。専門教育と多様な外国語をリンクさせる発展科目の整備・充実。

第二外国語について

なぜ大学で第二外国語を学ぶのでしょうか？

あなたは、第二外国語を学びたいと思いますか？ 本学では、多くの学部において第二外国語は必修科目ではなく、選択科目のひとつです。しかし、実際はほとんどの学生が第二外国語を履修しています。みなさんの先輩にその動機を尋ねると、「英語以外の外国語を話せるようになりたい」、「英語の単位だけでは足りないから」といった答えが返ってきます。

どうして大学で第二外国語を学ぶのでしょうか？ 地球規模でのネットワーク化が進行している今日にあって、国際社会におけるコミュニケーション言語として、英語が重要なことは言うまでもありません。しかし一方で、世界は、新たな多文化・多言語社会へと向かっています。中国や韓国をはじめとするアジアの国々との交流だけでなく、EU諸国との関係も日本にとって重要です。現代の日本を作り上げてきた歴史や文化は、英語圏以外の多様な国々からの影響も受けているのです。第二外国語を学ぶことは、自分の知見や価値観を広げ、またそのことばを母語とする人々について、深く学ぶ機会であり、国際社会において不可欠な教養を得る機会と言えるでしょう。

しかし、一部の学部を除いて、一年次に履修可能な第二外国語の授業は週一回の90分しかありません。ただ受動的に授業を聴いているだけでは、流暢に話せるようにはなりません。それでは意味がないと思う人もいるでしょう。しかし、実際に、第二外国語の授業を楽しみにしている人たちがたくさんいるのです。それはなぜか、答えは単純です。第二外国語を学ぶことには「新しいことを知る喜び」があるからです。

そもそも、大学での外国語学習は、流暢に話せるようになることだけを目的としてはいません。話すことはあくまで手段の一つなのです。大学では、そのことばを形成してきた文化的背景や、ことばの構造から日本とは異なる文化を知ることが目的としています。そこに「知る喜び」を感じて、そのことばを積極的に学べば学ぶほど、語学もまた自然と上達していきます。事実、毎年、語学検定試験の高難度の級に合格し、語学力と多様な価値観を身につけて、世界に羽ばたいてゆく先輩も少なくありません。

日本にも外国の方がたくさんいます。かれらが一生懸命日本語で話しかけてくれると、自分たちの文化を認めてもらえたような気がして、うれしくはありませんか？ 多様なことばを知ることが、多様な文化を認め、そこに住む人々と文化的に近づくことでもあるのです。それは旅行や留学、将来の海外赴任にも活かされることでしょう。たとえ流暢でなくとも、さまざまなことばを話そうとする人は多くの友人や思い出を得られるものです。

本学では、多様化する国際社会の要請に応じて、諸外国の言語を学び、その文化に固有の伝統や考え方を理解することを第二外国語教育の最重要目標としています。世界を見渡す視点を日本や英語圏からずらしてみるとまた違った世界が見えてきます。視点は多ければ多いほど、世界は広がりをもつはずで、ことばを学ぶことによって開かれる世界は、無限なのです。

いまこそ、第二外国語を学んでみませんか？

ドイツ語について

「ドイツ語」と聞くと、何だか堅苦しくて難しそう、というイメージを抱く人が多いかもしれません。本当にそうでしょうか。ドイツ語は英語と同じ西ゲルマン語という仲間に属し、英語とかなり近い関係にあるので、単語や文法体系に共通点が多く、しかも発音は英語よりずっと簡単です。語順などもむしろ日本語に似ているところがあり、私たち日本人にとっては特に学びやすい外国語だと言えます。

ではドイツ語はどこで、どのくらい多くの人々が話しているのでしょうか。ドイツ語圏にはドイツ（人口約 8200 万人）を始め、オーストリア（約 800 万人）、スイス（ドイツ語人口は約 500 万人）、そしてリヒテンシュタイン（約 3 万人）が含まれます。この他ルクセンブルクでもドイツ語が公用語のひとつとなっており、またドイツと国境を接する地域や東欧でもドイツ語を話す人たちがおり、世界のドイツ語話者人口はほぼ 1 億人、EU（ヨーロッパ連合）の中でドイツ語は最も多く話されている言葉となっています。

さて皆さんは、ドイツ語やドイツ語圏について、何を知っているのでしょうか。最近ではゲームを通じてドイツ語やドイツ文化（ゲルマン神話を含む）にふれる機会が増えているようですが、子供の時にグリム童話を読んだという人、モーツァルトやベートーヴェン、あるいはクラフトワークに代表されるテクノ・ミュージシャンの音楽が好きだという人も少なくないでしょう。オーストリアの首都ウィーンで花開いた世紀末の文化は今もなお私たちに惹きつけて離しません。また、環境先進国・福祉先進国として有名なドイツから、日本が多くのことを学んでいることはよく知られています。ドイツと言えばやはりベンツやBMWに代表されるクルマがあり、一度はアウトバーンを走ってみたいと思っている人、サッカーのブンデスリーガに興味を持っている人もいるでしょう。最近ではドイツ語圏の映画が日本公開される機会も増えました。そうした関心や興味を手がかりにして、ドイツ語の勉強を始めてみましょう。現在はインターネットを使ってドイツ語圏の情報が瞬時に手に入り、英語圏のソースとは異なったものの見方、考え方に触れることもできます。また、ドイツ語圏での旅行や語学研修も簡単に行える時代です。たとえ片言でもドイツ語を使って買い物や現地の人との会話ができたなら、旅の楽しみが増し、印象も全然違ったものになるでしょう。ドイツ語を学ぶことを通して、自分の世界を広げていきましょう。

<辞書と参考書>

語学を学ぶには辞書が必要です。初級の段階では、なるべく紙の辞書を使うようにしましょう。用例が見やすく、書き込みも容易だからです。参考書は必需品ではありませんが、必要に応じて自主学習に役立てましょう。どちらも先生の説明を聞いて自分に合ったものを選び、早く使い慣れてください。

おすすめ辞書 『クラウン独和辞典』（三省堂） 『新アクセス独和辞典』（三修社）
『新アポロン独和辞典』（同学社） 『エクセル独和辞典』（郁文堂） 他
おすすめ参考書 『ドイツ語のしくみ（CDつき）』（白水社） 他

フランス語について

フランスというと、皆さんは何を思い浮かべますか？ フランス料理やワインなど、グルメの国。スイーツ大国。最近ではミシュランガイドの名前がテレビで聞かれることも多くなりました。また世界のファッションをリードする国でもあります。スポーツでも、サッカーや柔道やフィギュアスケートなどさまざまな種目で、フランス語圏の選手たちがめざましい活躍をしていますね。それにロワールの古城やモン・サン・ミシェルに代表される数多くの世界遺産を有する国でもあります。でもそれだけではなく、フランスはヨーロッパで一番のマンガ大国という意外な一面も持っているのです！ そんな多様で豊かな文化への入口として「フランス語」を勉強してみませんか？

フランス語は英語と同じアルファベットを使い、英語と共通する単語も多いので、とても簡単に学ぶことができます。しかも国連やオリンピックでも英語と並んで使われる「第二の国際語」です。それにフランス語はフランス本国だけでなく、ヨーロッパのベルギーやスイス、アフリカ諸国、カナダのケベック州やアメリカの一部、中南米諸国やアジア、オセアニア、中東など、世界中で広く使われています。世界でフランス語を話す人は、何とフランスの人口の4倍もいるのです！ 世界で2億6千万人が話している言語、それがフランス語です。

グローバル化がしきりに言われる現代にあって、国際言語としてのフランス語の重要性はいっそう高まっています。フランス語を知ることによって、日本やアメリカとは違った視点から世界を眺めることができるようになるでしょう。英語だけではなく、さらにフランス語の知識を身につけることは、皆さんにとっても貴重な知的財産の一つとなるはずです。また検定試験に挑戦したい、留学したい、フランス語圏の国々に旅行に行きたいという人も積極的にサポートします。フランス語は明晰さと論理性に富む言語であると言われてますが、フランス語の学習が論理的な思考力の育成と、新しい視点からの異文化理解に役立つことを願っています。さあ、一緒に楽しくフランス語を学びましょう！

<辞書と参考書>

辞書 外国語を勉強する上で一番基本となる参考書は、何と言っても辞書に他なりません。最初からいきなり語彙数の多い大型辞書を買うよりも、次に挙げるような「学習仏和辞典」で勉強を始めるのがいいでしょう。

「ディコ仏和辞典」(白水社) 「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)

「クラウン仏和辞典」(三省堂) など

参考書 講義の中でも文法は分かりやすく詳しく説明しますが、自分で分からないところを確認し、知識をさらに深めるのには、次のような文法参考書をおすすめします。

「新・リュミエール フランス文法参考書」(駿河台出版社)

「大学で始めるフランス語」(駿河台出版社) など

中国語について

「中国」と聞いてみなさんはどんなことを連想しますか？ 反日デモ、PM2.5、「爆買い」……。最近の中国をめぐる報道を見て、中国に対してよいイメージを持っていない人もいることでしょう。中国は広大な国土を抱え、13億を超えるさまざまな人々が暮らしています。中国人13億人すべてが「反日」？ そんなことはないはずです。

中国は、改革開放以来、急速な経済発展を遂げてきました。今や日本にとって最大の貿易相手国であり、生産地としても市場としても、日本経済の重要な鍵を握っています。また、日中の距離は、飛行機でわずか2時間程度。ビジネスや観光をはじめ、人々の交流も活発です。みなさんも、街中で中国語を耳にしたり、アルバイト先で中国の人と知り合う機会も多いのではないのでしょうか。

日本と中国、お互いの理解を深めるために私たちができることは何でしょうか？ その答えの一つは、「中国語」を学ぶことです。広大な中国には、お互いの意思疎通が不可能なほど多様な方言が存在しますが、私たちが学ぶ中国語は、「普通話」と呼ばれる標準語であり、中国全土だけでなく、台湾や香港、シンガポール、世界中にあるチャイナタウンでも使える、中華圏の共通語です。また、日本は中国と同じく、漢字文化圏に属します。中国では「簡体字」という簡略化された漢字、台湾や香港では「繁体字」という旧来の漢字を用いていますが、いずれにせよ漢字。日本人は中国語を学ぶのに極めて有利です。漢字に助けられつつ、中国語を学べば、広い中華圏への扉を開くことができるのです。

百聞は一見にしかず、在学中にぜひ一度、中国や台湾へ、旅行や留学をしてみたいかがでしょうか。本学では、短期語学研修（台湾3週間、北京4週間）を提供しています。研修に参加し、異なる文化や価値観に触れることで、大きな刺激を得られることでしょう。

また、実用的な中国語を資格として身に付け、就職活動に備えるのもいいでしょう。本学のカリキュラムは、「中国語検定試験」にも対応して構成されています。語学センター（11月ホール2階）では、会話や検定対策など、豊富な講座を無料で提供しています。

日中両国の関係がぎくしゃくしている時代だからこそ、確かで豊かな知識と広い視野を備えた国際人が求められています。今こそ、中国語を学びませんか？

<辞書と参考書>

辞書 旅行や留学へ持参し、コミュニケーションツールとして活用することを考えると、最初は携帯用で、日中と併せて一冊のものを購入するのがいいでしょう。

『デイリーコンサイス中日・日中辞典』（三省堂）

『ポケットプログレッシブ中日・日中辞典』（小学館）

『中日辞典 第二版』（小学館）

『中日辞典 第三版』（講談社）

『東方中国語辞典』（東方書店）

『中国語辞典』（白水社）

参考書 授業と並行して、気軽な入門書を読んでみてはどうでしょう。

『はじめての中国語』（講談社現代新書） 『中国語はじめの一步』（ちくま新書）

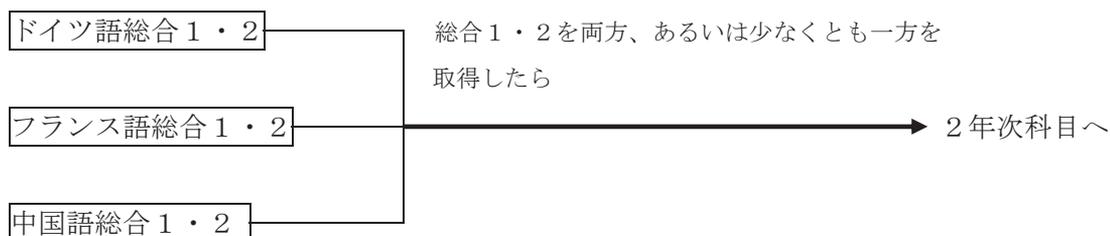
『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社） 『よくわかる中国語文法』（白帝社）

第二外国語科目一覧

| 科目名 | 配当学年 | 単位 | 学期 | 備考 | |
|-----------------|------|----|----|---------------------------|------|
| ドイツ語総合1 | 1 | 1 | 前 | 日本人または ネイティブ教 員担当科目 | 基幹科目 |
| ドイツ語総合2 | 1 | 1 | 後 | | |
| フランス語総合1 | 1 | 1 | 前 | | |
| フランス語総合2 | 1 | 1 | 後 | | |
| 中国語総合1 | 1 | 1 | 前 | | |
| 中国語総合2 | 1 | 1 | 後 | | |
| ドイツ語総合3 | 2 | 1 | 前 | | |
| ドイツ語総合4 | 2 | 1 | 後 | | |
| フランス語総合3 | 2 | 1 | 前 | 日本人または ネイティブ教 員担当科目 | 基幹科目 |
| フランス語総合4 | 2 | 1 | 後 | | |
| 中国語総合3 | 2 | 1 | 前 | | |
| 中国語総合4 | 2 | 1 | 後 | | |
| ドイツ語コミュニケーション1 | 2-4 | 1 | 前 | ネイティブま たは日本人教 員担当科目 | 発展科目 |
| ドイツ語コミュニケーション2 | 2-4 | 1 | 後 | | |
| フランス語コミュニケーション1 | 2-4 | 1 | 前 | | |
| フランス語コミュニケーション2 | 2-4 | 1 | 後 | | |
| 中国語コミュニケーション1 | 2-4 | 1 | 前 | | |
| 中国語コミュニケーション2 | 2-4 | 1 | 後 | | |

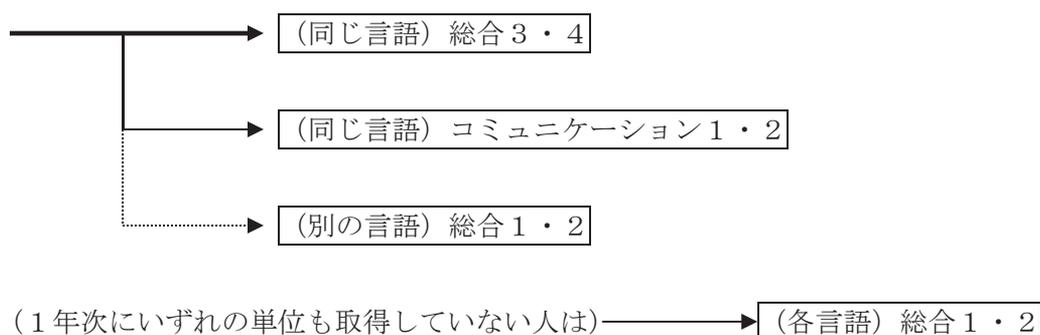
第二外国語履修フローチャート

1年次



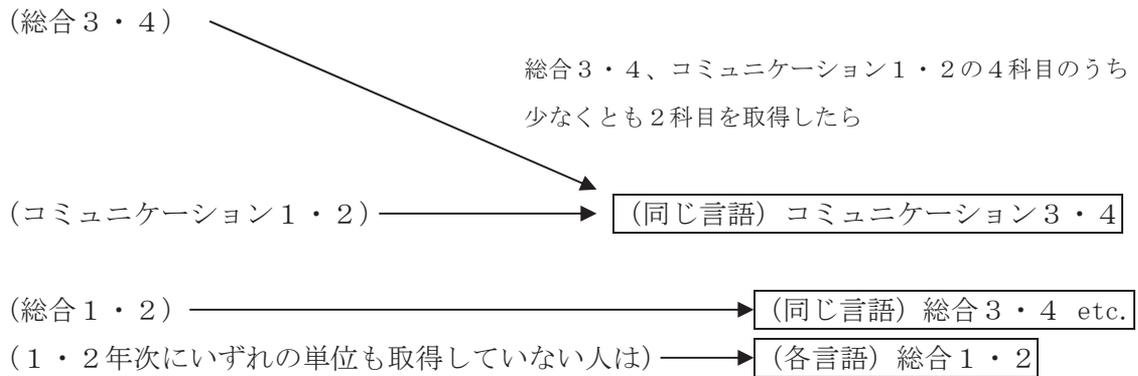
- ・「総合 1」は前期科目、「総合 2」は後期科目。同一言語を 1・2 継続して履修登録すること。

2年次



- ・ 1 と 3 は前期科目、2 と 4 は後期科目。1・2 および 3・4 は継続して履修登録すること。
- ・ 「総合 1・2」と「総合 3・4」は基幹科目。「コミュニケーション 1・2」は発展科目。
- ・ 「総合 3・4」と「コミュニケーション 1・2」は並行して履修することができる。これらの科目は必ず 1 年次と同じ言語で履修すること。

3・4年次



- ・「コミュニケーション3」は前期科目、「同4」は後期科目。3・4は同一言語を継続して履修登録すること。
- ・これらの科目は必ず2年次と同じ言語で履修すること。

第二外国語科目＜科目名・概要＞

＜ドイツ語・フランス語・中国語 総合1・2＞

（一年選択科目、1は前期、2は後期）（基幹科目）（同一言語を1・2継続して履修する）

新しい外国語に慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようにする。文字、発音、基本語彙と表現、文構造など、聞き、話し、読み、書くというバランスの取れた言語運用に不可欠な基礎的知識を習得する。週1回の授業。

＜ドイツ語・フランス語・中国語 総合3・4＞

（二年選択科目、3は前期、4は後期）（基幹科目）（総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする）

総合1・2で学んだ知識をもとに、その言語のさらにスムーズな運用ができるようにする。比較的長い表現を聞き取って、自分でも言えるように練習する。また平易な文章を読みこなし、手紙や簡単な文章を書ける能力も養う。週1回の授業。

＜ドイツ語・フランス語・中国語 コミュニケーション1・2＞

（二年選択科目、1は前期、2は後期）（発展科目）（総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする）

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置く。外国旅行で必ず出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、必要な情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。週1回の授業。

＜ドイツ語・フランス語・中国語 コミュニケーション3・4＞

（3年次選択科目、3は前期、4は後期）（発展科目）（総合3・4、コミュニケーション1・2の4科目のうちいずれか2科目修得を先修条件とする）

主に日常会話中心に口頭による言語運用能力の基礎を完成させる。より詳細な表現を聞き取って、自分でも正確に言えるように口頭練習し、様々な場面でさらに詳しい情報交換ができるようにする。週1回の授業。

第二外国語履修のガイドライン

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。

| 科目名 | | 履修条件 |
|----------------------|--------------|--|
| ドイツ語 フランス語 中国語 | 総合1・2 | 同一言語を1・2継続して履修登録すること 履修する言語において、「総合1」を履修せずに、それぞれの「総合2」を履修することはできない |
| ドイツ語 フランス語 中国語 | 総合3・4 | 同一言語を3・4継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少なくとも一方の単位を取得していることを条件とする |
| ドイツ語 フランス語 中国語 | コミュニケーション1・2 | 同一言語を1・2継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少なくとも一方の単位を取得していることを条件とする |
| ドイツ語 フランス語 中国語 | コミュニケーション3・4 | 同一言語を3・4継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合3・4、コミュニケーション1・2のうち、少なくとも2科目の単位を取得していることを条件とする（組み合わせは問わない） |

| | | | |
|---|-----------|---------|---------|
| 科目名： ドイツ語総合1 | | | |
| 英文名： Basic German 1 | | | |
| 担当者： <small>キノサダ マリエ ヨシダ ユミコ ミヤケ ヒロコ ナカムラ ムツオ</small> 紀之定 真理恵・吉田 由美子・三宅 博子・中村 睦夫 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 1年次 | 開講期： 前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話を中心とするテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、ドイツ語検定で言えば5級に相当する語彙と基本フレーズを習得することを通じて、実際に使える初歩的なドイツ語力の獲得を目指します。また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784261012583『ドイツ語一步一步』(山本 洋一, 郁文堂: 2015)

■参考文献

授業で紹介します。「ドイツ語について」の項を参照。

■関連科目

ドイツ語総合2, 3, 4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ドイツ語はこんな音

発音の基本／数字 (1～20)

第2回 Lektion1.私はハンス・ベッカーです。ドイツ語教師です。

主語によってかたちを変える動詞・疑問文／20以上の数字／位置を表すことば (副詞)

第3回 Lektion1.私はハンス・ベッカーです。ドイツ語教師です。

主語によってかたちを変える動詞・疑問文／20以上の数字／位置を表すことば (副詞)

第4回 Lektion2 これは何？

名詞には性別がある／形容詞

第5回 Lektion2 これは何？

名詞には性別がある／形容詞

第6回 まとめと復習：小テスト

まとめと復習・小テスト

第7回 Lektion 3 何を買うの？

名詞の4つの格とその使い方

第8回 Lektion 3 何を買うの？

名詞の4つの格とその使い方

第9回 Lektion 4 手伝ってあげて！

現在人称変化で語幹まで形を変える動詞／命令法

第10回 Lektion 4 手伝ってあげて！

現在人称変化で語幹まで形を変える動詞／命令法

第11回 Lektion 5 ぼくと一緒に来る気はある？

前置詞／zu不定詞／時間の表現／曜日・月・季節

第12回 Lektion 5 ぼくと一緒に来る気はある？

前置詞／zu不定詞／時間の表現／曜日・月・季節

第13回 Lektion 6 赤い車それとも白い車、どちらの車？

名詞の性・数・格を示すさまざまな方法

第14回 Lektion 6 赤い車それとも白い車、どちらの車？

名詞の性・数・格を示すさまざまな方法

第15回 まとめと復習・補足・小テスト

まとめと復習・補足・小テスト

定期試験

| | | | |
|-----------------------------------|----------|--------|---------|
| 科目名：ドイツ語総合1（2年生以上） | | | |
| 英文名：Basic German 1 | | | |
| 担当者： <small>コンドウ サトル</small> 近藤 悟 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話体のテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、実際に使えるドイツ語を目指し、ドイツ語検定5級に相当する語彙と表現を習得し、初歩的なドイツ語を理解する力をつけます。また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784255253992『ドイツ語アルファ』（朝日出版社：2017）

■参考文献

授業で紹介します。

「ドイツ語について」の項を参照

■関連科目

ドイツ語総合2・3・4

ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4

ドイツ語カルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題提出 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ドイツ語のアルファベットと発音

アルファベット、発音、アクセント

第2回 ドイツ語のアルファベットと発音

アルファベット、発音、アクセント

第3回 Lektion1 Woher kommst du?

動詞の現在人称変化、基本的な文の語順

第4回 Lektion1 Woher kommst du?

動詞の現在人称変化、基本的な文の語順

第5回 Lektion2 Sprichst du Deutsch?

動詞の人称変化、sein、haben、不規則変化動詞。

第6回 Lektion2 Sprichst du Deutsch?

動詞の人称変化、sein、haben、不規則変化動詞。

第7回 中間テスト

中間テスト

第8回 Lektion3 Was isst du zum Frühstück?

不規則変化動詞essen、不定冠詞・否定冠詞の1、4格。

第9回 Lektion3 Was isst du zum Frühstück?

不規則変化動詞essen、不定冠詞・否定冠詞の1、4格。

第10回 Lektion4 Spielst du gern Tennis?

不規則変化動詞fahren, lesen, sehen、話法の助動詞können, möchte

第11回 Lektion4 Spielst du gern Tennis?

不規則変化動詞fahren, lesen, sehen、話法の助動詞können, möchte

第12回 Lektion5 Was ist dein Vater von Beruf?

所有冠詞、話法の助動詞wollen。

第13回 Lektion5 Was ist dein Vater von Beruf?

所有冠詞、話法の助動詞wollen。

第14回 Lektion6 Wo ist das Café Mozart?

定冠詞付きの名詞の1格と4格。

第15回 これまでの学習内容の総復習

これまでの学習内容の総復習

定期テスト

| | | | |
|---|-----------|---------|---------|
| 科目名： ドイツ語総合2 | | | |
| 英文名： Basic German 2 | | | |
| 担当者： <small>キノサダ マリエ ヨシダ ユミコ ミヤケ ヒロコ ナカムラ ムツオ</small> 紀之定 真理恵・吉田 由美子・三宅 博子・中村 睦夫 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 1年次 | 開講期： 後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話体のテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、実際に使えるドイツ語を目指し、ドイツ語検定4級に相当する語彙と表現を習得し、基礎的なドイツ語を理解する力をつけます。また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784261012583『ドイツ語一步一步』(山本 洋一, 郁文堂: 2015)

■参考文献

授業で紹介します。

「ドイツ語について」の項を参照

■関連科目

ドイツ語総合1・3・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 前期の復習

前期の復習

第2回 Lektion 7 別な列車に乗り換えなければならない。

複合動詞（分離動詞・非分離動詞）／助動詞で豊かな表現

第3回 Lektion 7 別な列車に乗り換えなければならない。

複合動詞（分離動詞・非分離動詞）／助動詞で豊かな表現

第4回 Lektion 8 携帯の電源を切らなければならなかった

動詞の三基本形／過去人称変化／従属接続詞／副文

第5回 Lektion 8 携帯の電源を切らなければならなかった

動詞の三基本形／過去人称変化／従属接続詞／副文

第6回 まとめと復習

まとめと復習

第7回 Lektion9先週末ミュンヘンに行ってきた

助動詞と過去分詞で作る完了形と受動態

第8回 Lektion9先週末ミュンヘンに行ってきた

助動詞と過去分詞で作る完了形と受動態

第9回 Lektion10旧友との再会が待ちどおしい

再帰代名詞・再帰動詞／非人称主語es／比較表現

第10回 Lektion10旧友との再会が待ちどおしい

再帰代名詞・再帰動詞／非人称主語es／比較表現

第11回 Lektion11貸した本は気に入った？

関係代名詞・関係副詞

第12回 Lektion11貸した本は気に入った？

関係代名詞・関係副詞

第13回 補足と復習

話法の助動詞と完了形／使役動詞・知覚動詞／接続法

第14回 補足と復習

話法の助動詞と完了形／使役動詞・知覚動詞／接続法

第15回 まとめと復習・補足・小テスト

まとめと復習・補足・小テスト

定期試験

| | | | |
|-----------------------------------|----------|--------|---------|
| 科目名：ドイツ語総合2（2年生以上） | | | |
| 英文名：Basic German 2 | | | |
| 担当者： <small>コンドウ サトル</small> 近藤 悟 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話体のテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、実際に使えるドイツ語を目指し、ドイツ語検定4級に相当する語彙と表現を習得し、基礎的なドイツ語を理解する力をつけます。また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784255253992『ドイツ語アルファ』（朝日出版社：2017）

■参考文献

授業で紹介します。

「ドイツ語について」の項を参照

■関連科目

ドイツ語総合1・3・4

ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4

ドイツ語カルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ドイツ語総合1の復習

Lektion1からLektion6までの復習

第2回 Lektion6 Wo ist das Café Mozart?

定冠詞付きの名詞の1格と4格。

第3回 Lektion7 Habt ihr ein Handy dabei?

不定冠詞類、指示代名詞・不定代名詞、人称代名詞1・4格。

第4回 Lektion7 Habt ihr ein Handy dabei?

不定冠詞類、指示代名詞・不定代名詞、人称代名詞1・4格。

第5回 Lektion8 Gefällt dir diese Krawatte?

人称代名詞3格、3格をとる動詞、3格と4格をとる動詞、定冠詞類 (dieser, welcher)

第6回 Lektion8 Gefällt dir diese Krawatte?

人称代名詞3格、3格をとる動詞、3格と4格をとる動詞、定冠詞類 (dieser, welcher)

第7回 中間テスト

中間テスト

第8回 Lektion9 Gehst du jetzt zur Uni?

3格をとる前置詞、冠詞類の3、4格。

第9回 Lektion9 Gehst du jetzt zur Uni?

3格をとる前置詞、冠詞類の3、4格。

第10回 Lektion10 Wann stehst du auf?

分離動詞、助動詞müssen, dürfen

第11回 Lektion10 Wann stehst du auf?

分離動詞、助動詞müssen, dürfen

第12回 Lektion11 Was hast du gestern gemacht?

現在完了形

第13回 Lektion11 Was hast du gestern gemacht?

現在完了形

第14回 Lektion12 Was willst du in den Ferien machen?

sollen, werdenの用法

第15回 これまでの学習内容の総まとめ

これまでの学習内容の総まとめ

定期試験

| | | | |
|----------------------------------|-----------|---------|---------|
| 科目名： ドイツ語総合3 | | | |
| 英文名： Basic German 3 | | | |
| 担当者： <small>サカイ ユリ</small> 酒井 友里 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2年次 | 開講期： 前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

これまで学んだドイツ語の文法や基本構造をもう一度確認しながら、語彙や表現の聴き取り、口頭練習、ドイツ語作文の練習などにより、ドイツの日常生活で使うことができ、またいろいろな場面で簡単に応用できる表現を習得します。随時、プリントなどの補助教材を使うことがあります。

■学習・教育目標および到達目標

「総合1・2」で学んだドイツ語の知識をもとに、さらにドイツ語の表現力や応用力を養い、簡単な会話や文章が理解できる力をつけましょう。
また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784560064146 『パノラマ初級ドイツ語ゼミナール』(上野 成利, 白水社: 2015)

■参考文献

授業で紹介します。

■関連科目

ドイツ語総合1・2・4
ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4
ドイツ語カルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion0 Aussprache 発音

アルファベット／挨拶／発音の原則／母音・子音の発音

第2回 Lektion1 Was lernst du? Ich lerne Japanisch (出会いと自己紹介)

動詞の現在人称変化／定動詞第2位の原則／seinの現在人称変化

第3回 Lektion1 Was lernst du? Ich lerne Japanisch (出会いと自己紹介)

動詞の現在人称変化／定動詞第2位の原則／seinの現在人称変化

第4回 Lektion2 Hast du Geschwister?-Ja, ich habe einen Bruder. (家族について尋ねる／名詞の性・冠詞の格変化)

名詞の性と数／定冠詞・不定冠詞の格変化／habenの現在人称変化

第5回 Lektion2 Hast du Geschwister?-Ja, ich habe einen Bruder. (家族について尋ねる／名詞の性・冠詞の格変化)

名詞の性と数／定冠詞・不定冠詞の格変化／habenの現在人称変化

第6回 Lektion3 Wann fährst du nach München?- Morgen früh. (明日の予定を尋ねる／不規則変化動詞・命令形)

不規則な現在人称変化：①a→型 ②e→i/e→ie型／命令形

第7回 Lektion3 Wann fährst du nach München?- Morgen früh. (明日の予定を尋ねる／不規則変化動詞・命令形)

不規則な現在人称変化：①a→型 ②e→i/e→ie型／命令形

第8回 Lektion4 Welche Uhr kaufst du? -Ich kaufe diese Uhr. (買い物に行く・1／定冠詞類・不定冠詞類)

定冠詞類の格変化／不定冠詞類の格変化／所有冠詞

第9回 Lektion4 Welche Uhr kaufst du? -Ich kaufe diese Uhr. (買い物に行く・1／定冠詞類・不定冠詞類)

定冠詞類の格変化／不定冠詞類の格変化／所有冠詞

第10回 Lektion5 Kaufst du diese Bücher?- Ja, ich kaufe sie. (買い物に行く・2／複数形・人称代名詞)

名詞の複数形／人称代名詞の格変化／3格・4格の語順

第11回 Lektion5 Kaufst du diese Bücher?- Ja, ich kaufe sie. (買い物に行く・2／複数形・人称代名詞)

名詞の複数形／人称代名詞の格変化／3格・4格の語順

第12回 Lektion6 Was machst du an diesem Wochenende? - Ich gehe ins Kino. (週末の予定を尋ねる／前置詞の格支配)

2格・3格・4格支配／3・4格支配／前置詞と定冠詞の融合形

第13回 Lektion6 Was machst du an diesem Wochenende? - Ich gehe ins Kino. (週末の予定を尋ねる／前置詞の格支配)

2格・3格・4格支配／3・4格支配／前置詞と定冠詞の融合形

第14回 Lektion7 Was liest du gern? - Ich lese gern japanische Mangas. (趣味について尋ねる／形容詞の格変化)

無冠詞型／定冠詞(類) + 形容詞型／不定冠詞(類) + 形容詞型

第15回 Lektion7 Was liest du gern? - Ich lese gern japanische Mangas. (趣味について尋ねる／形容詞の格変化)

無冠詞型／定冠詞(類) + 形容詞型／不定冠詞(類) + 形容詞型

定期試験

| | | | |
|----------------------------------|-----------|---------|---------|
| 科目名： ドイツ語総合4 | | | |
| 英文名： Basic German 4 | | | |
| 担当者： <small>サカイ ユリ</small> 酒井 友里 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2年次 | 開講期： 後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

これまで学んだドイツ語の文法や基本構造をもう一度確認しながら、語彙や表現の聴き取り、口頭練習、ドイツ語作文の練習などにより、ドイツの日常生活で使うことができ、またいろいろな場面で簡単に応用できる表現を習得します。随時、プリントなどの補助教材を使うことがあります。

■学習・教育目標および到達目標

「総合1・2」で学んだドイツ語の知識をもとに、さらにドイツ語の表現力や応用力を養い、簡単な会話や文章が理解できる力をつけましょう。
また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784560064146 『パノラマ初級ドイツ語ゼミナール』(上野 成利, 白水社: 2015)

■参考文献

授業で紹介します。

■関連科目

関連科目

ドイツ語総合1・2・3

ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4

ドイツ語カルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion8. Wohin willst du gehen?- Ich will ins Restaurant gehen. (昼食を食べに行く／話法の助動詞・未来形)

話法の助動詞／ werdenの現在人称変化／未来形

第2回 Lektion8. Wohin willst du gehen?- Ich will ins Restaurant gehen. (昼食を食べに行く／話法の助動詞・未来形)

話法の助動詞／ werdenの現在人称変化／未来形

第3回 Lektion 9. Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt. - Er fährt um 9 Uhr ab. (駅の窓口で尋ねる／分離動詞・接続詞と副文)

分離動詞／非分離動詞／分離動詞の構文／従属接続詞と副文

第4回 Lektion 9. Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt. - Er fährt um 9 Uhr ab. (駅の窓口で尋ねる／分離動詞・接続詞と副文)

分離動詞／非分離動詞／分離動詞の構文／従属接続詞と副文

第5回 Lektion 10. Hast du vor, München zu besuchen? - Ich freue mich darauf. (休暇の計画を尋ねる／zu不定詞・再帰代名詞)

zu不定詞／再帰代名詞／再帰動詞

第6回 Lektion 10. Hast du vor, München zu besuchen? - Ich freue mich darauf. (休暇の計画を尋ねる／zu不定詞・再帰代名詞)

zu不定詞／再帰代名詞／再帰動詞

第7回 Lektion 11. Als ich das Museum besuchte, fand eine Ausstellung statt. (旅の経験を語る・1／動詞の3基本形・過去形)

動詞の3基本形／過去形の人称変化／分離動詞の3基本形・過去形

第8回 Lektion 11. Als ich das Museum besuchte, fand eine Ausstellung statt. (旅の経験を語る・1／動詞の3基本形・過去形)

動詞の3基本形／過去形の人称変化／分離動詞の3基本形・過去形

第9回 Lektion 12. Hast du Weimar besucht? - Ja. Es gefällt mir in Weimar. (旅の経験を語る・2／現在完了形・非人称表現)

現在完了形／他動詞と自動詞／非人称表現

第10回 Lektion 12. Hast du Weimar besucht? - Ja. Es gefällt mir in Weimar. (旅の経験を語る・2／現在完了形・非人称表現)

現在完了形／他動詞と自動詞／非人称表現

第11回 Lektion 13. Es wird gesagt, dass Tokio die teuerste Stadt ist. (意見を交換する・1／受動態・比較表現)

受動態／形容詞の比較級・最上級／副詞の比較級・最上級

第12回 Lektion 13. Es wird gesagt, dass Tokio die teuerste Stadt ist. (意見を交換する・1／受動態・比較表現)

受動態／形容詞の比較級・最上級／副詞の比較級・最上級

第13回 Lektion 14. Ich will gern Menschen helfen, die Hilfe brauchen. (意見を交換する・2／関係代名詞・関係副詞)

定関係代名詞／不定関係代名詞／関係副詞

第14回 Lektion 14. Ich will gern Menschen helfen, die Hilfe brauchen. (意見を交換する・2／関係代名詞・関係副詞)

定関係代名詞／不定関係代名詞／関係副詞

第15回 Lektion 15 (補足). Wenn ich Geld hätte, würde ich auch nach Japan gehen. (別れと再会の約束／接続法)

第I式：間接話法／第II式：非現実話法／願望・婉曲表現

定期試験

| | | | |
|----------------------------|------------|--------|---------|
| 科目名：ドイツ語コミュニケーション1 | | | |
| 英文名：German Communication 1 | | | |
| 担当者：トーマス シュピンレル | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

Diese Veranstaltung verfolgt zwei Ziele:

1. die Grundlage für eine flüssige, grammatisch richtige deutschsprachige Kommunikation zu schaffen und bereits vorhandene Kenntnisse zu vertiefen und
2. über das aktuelle Leben im deutschsprachigen Raum zu informieren.

この授業は2つのことを目標としています。

1. 流暢で文法的に正しいドイツ語を用いてのコミュニケーションのための基盤を得ること、また、すでに習ったドイツ語の知識をより深めること
2. ドイツ語圏での日常生活がどうなっているかの情報を得ること

■学習・教育目標および到達目標

Im Mittelpunkt des Kurses stehen aktive Sprechübungen, die ausgehend von einem bewusst stark limitierten Ausgangsvokabular zunächst einfache grammatische Grundstrukturen einführen und dann gegen Ende des Kurses immer komplexer werdende Satzstrukturen einüben. Im Hauptteil bereiten die Übungen auf das Niveau der deutschen Alltagssprache in normaler Sprechgeschwindigkeit vor. Ergänzend werden Filmsszenen und geeignete Textmaterialien eingesetzt.

このコースが中心とするポイントは、流暢にドイツを喋ることを目的としたアクティブなパターン練習で、そのために意識的にかなり限られた数の単語だけを使い、初めのうちは簡単な文を練習して、徐々に混合的になってくる文をトレーニングします。講義の本編では、練習することでネイティブレベルのスピードでの日常会話をするための準備をします。補完的に、DVDとテーマに合わせたテキスト資料を使います。

この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■成績評価方法および基準

出席 (30%) 30%

小テスト 30%

まとめテスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

01 Einführung in Ziel und Methodik des Kurses und Zusammenfassung der Grundlagen

このコースの目標及び授業方針の説明と前期で習った内容のまとめ

02 Einführung des neuen Vokabulars, Übungen mit „brauchen“; Imperativ!

新しい単語、brauchenを使った練習、命令文！

03 Modalverben: wollen, müssen, können

助動詞: wollen, müssen, können

04 Lerndidaktische Hinweise und Übungen

学習方法とその練習

05 Die Zeiten: Perfekt mit „haben“, Imperfekt, Futur mit „werden“

時制: habenでの現在完了形の基礎、過去形、werdenを使った未来形

06 Nebensatzstrukturen mit weil, denn und um zu

副文構造(weil, denn, um ~ zu ~を使って)

07 Der Relativsatz 1

関係代名詞その1

08 Der Relativsatz 2

関係代名詞その2

09 1. Sprachprüfung (Überprüfung des gelernten Stoffs)

第1回オーラルテスト(既に習ったことの確認と復習)

10 Komplexe Satzstrukturen 1

複合的な文その1

11 Komplexe Satzstrukturen 2

複合的な文その2

12 Ausdrucksstelle & Eindrucksstelle, Funktionen der Satzstellung

- 語順の役割
- 13 Anwendungen
応用
- 14 Fragestunde, Zusammenschau des Kurses
質問時間、コースのまとめ
- 15 2. Sprachprüfung
第2回オーラルテスト

授業時間外学習

Intensive Wiederholung des im Unterricht gelernten Stoffes und tägliches aktives Üben bis die erforderliche Sprechgeschwindigkeit erreicht wird.

話すスピードがネイティブレベルに到達するまで、授業中に習ったことができるように家でしっかり復習と練習をすること。(習った語彙や表現法の復習はまずその日のうちにすることが望まれる。以後、次の授業まで毎日10分でも良いので復習を続けること。また習った語彙や表現法を自分の日常生活や興味のあること、趣味などに当てはめて、自分なりに語れるように文章を作ることは特にお勧めします。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- 1) 各人で教材の単語カードを作る。
- 2) 毎日少しでも復習する。(電車の中などで)
- 3) クラスに早めに来たら、前回のフィードバックをする。
- 4) 授業の準備をし、活発に参加する。これは自身の学習に大変役立つ。
- 5) 授業以外で自分が関心のあるものを見つける。(映画、本など)
- 6) ソーシャルメディアを通してドイツ語で交流してみてください。
- 7) 海外留学、ワーキングホリデーなど若干大きい目標を計画する。
- 8) 自分自身に毎週/毎月のゴールを課し、それに到達したかチェックする。
- 9) キャンパスとそれ以外の場所で外国人学生と友達になる。
- 10) 健康に食べて、十分に眠り、多少なりとも運動してください。

| | | | |
|--|------------|--------|---------|
| 科目名：ドイツ語コミュニケーション1 | | | |
| 英文名：German Communication 1 | | | |
| 担当者： ^{オダ} 小田 ^{ナオフミ} 直史・ ^{ミナミタニ} 南谷 ^{マキ} 真紀 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進めます。外国旅行でよく出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習します。また、ドイツ語圏の文化や歴史についての知識も深めます。週1回の授業です。

■学習・教育目標および到達目標

旅行や日常生活で困らない程度のドイツ語力を身につけましょう。春・秋に実施されるドイツ語検定試験4, 5級に合格する実力を身につけるという目標にも対応しています。
また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784255253909『ドイツ語の時間<ときめきミュンヘン>コミュニケーション版』(清野智昭, 朝日出版社: 2016)

■参考文献

授業で紹介します。

■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3, 4
ドイツ語コミュニケーション2 (B), 3, 4
ドイツ語カルチャーセミナーA, B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion 1 自己紹介

動詞の人称変化／動詞seinとhabenの変化／動詞の位置

第2回 Lektion 1 自己紹介

動詞の人称変化／動詞seinとhabenの変化／動詞の位置

第3回 Lektion 2 私の家族

名詞の性／名詞の1格・4格／所有冠詞

第4回 Lektion 2 私の家族

名詞の性／名詞の1格・4格／所有冠詞

第5回 Lektion 3 私の趣味

不規則動詞の現在人称変化／名詞の複数形

第6回 Lektion3 私の趣味

不規則動詞の現在人称変化／名詞の複数形

第7回 中間テスト

中間テスト

第8回 Lektion4 キームゼーへ

名詞の3格／前置詞と名詞の格

第9回 Lektion4 キームゼーへ

名詞の3格／前置詞と名詞の格

第10回 Lektion5 健康

人称代名詞の3格・4格／分離動詞／非分離動詞

第11回 Lektion5 健康

人称代名詞の3格・4格／分離動詞／非分離動詞

第12回 Lektion6 買い物

話法の助動詞／命令形

第13回 Lektion6 買い物

話法の助動詞／命令形

第14回 前期学習内容のまとめと復習

前期学習内容のまとめと復習

第15回 総復習

総復習

定期試験

| | | | |
|-------------------------------|------------|--------|---------|
| 科目名：ドイツ語コミュニケーション2 | | | |
| 英文名：German Communication 2 | | | |
| 担当者： ^{コウノ エイジ} 河野 英二 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進めます。外国旅行でよく出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習します。また、ドイツ語圏の文化や生活についての知識も深めます。

■学習・教育目標および到達目標

旅行や日常生活で困らない程度のドイツ語力を身につけましょう。春・秋に実施されるドイツ語検定試験4, 5級に合格する実力を身につけるという目標にも対応しています。また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784255253909『ドイツ語の時間<ときめきミュンヘン>コミュニケーション版』(清野智昭, 朝日出版社: 2016)

■参考文献

授業で紹介します。

■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3, 4
ドイツ語コミュニケーション1, (A), 3, 4
ドイツ語カルチャーセミナーA, B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion 7 ミュンヘン

3・4格支配の前置詞／並列接続詞

第2回 Lektion 7 ミュンヘン

3・4格支配の前置詞／並列接続詞

第3回 Lektion 8 休暇の後

現在完了形／過去形

第4回 Lektion 8 休暇の後

現在完了形／過去形

第5回 Lektion 9 食事

定冠詞類／副文

第6回 Lektion9 食事

定冠詞類／副文

第7回 中間テスト

中間テスト

第8回 Lektion10 クリスマス

比較級と最上級／再帰代名詞と再帰動詞

第9回 Lektion10 クリスマス

比較級と最上級／再帰代名詞と再帰動詞

第10回 Lektion11 ファッション

形容詞の格変化／非人称表現（esの用法）

第11回 Lektion11 ファッション

形容詞の格変化／非人称表現（esの用法）

第12回 Lektion12 私の夢

接続法第2式／zu不定詞句

第13回 Lektion12 私の夢

接続法第2式／zu不定詞句

第14回 後期学習内容のまとめと復習

後期学習内容のまとめと復習

第15回 総復習

総復習

定期試験

科目名： **フランス語総合1**

英文名： Basic French 1

担当者： クダワラ ヤスコ
久田原 泰子

単 位： 1単位

開講年次： 1年次

開講期： 前期

必修選択の別：

■授業概要・方法等

フランスと聞いて、何を思い浮かべますか？ フランス料理とスイーツの国、世界のファッションをリードする国、モン・サン・ミッシェルなどの世界遺産を有する国。またフランスはヨーロッパで一番のマンガ大国でもあります！ フランス語は世界第二の国際語であり、世界の人々が英語の次に学ぶ言語です。しかも英語と共通する単語も多いので、簡単に学ぶことができます。そんなフランス語を学んでみませんか？

この講義では、フランス語を聞き、話し、読み、書くためのバランスの取れた能力の育成を目指します。基本的な文法を、日常的な会話文をもとに楽しく学びます。一人一人の積極的な参加を望みます！

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになります。またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことができます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関連しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784255352602 『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』(松村博史、バンドロム・エディ著：朝日出版社)

【留意事項】 第1回目の授業で購入先等の説明をします。教員の指示があるまで購入しないこと。

■参考文献

[ISBN]9784560000380 『ディコ仏和辞典』(白水社)

[ISBN]9784385119342 『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂：2015)

[ISBN]9784411005328 『新・リュミエールフランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫, 駿河台出版社)

【留意事項】 辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部の実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

担当教員に確認してください。

■オフィスアワー

担当教員に確認してください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 アルファベ 簡単なあいさつを覚えよう！

第3回 Leçon 1：あいさつの表現 「こんにちは！」

第4回 Leçon 1 続き：お礼・おわびの表現 1から20までの数字

第5回 Leçon 2：男性名詞と女性名詞 「コーヒーとサンドイッチをお願いします」

第6回 Leçon 2 続き：冠詞 身の回りのもの

第7回 Leçon 3：-er形の規則動詞 「音楽は好き？」

第8回 Leçon 3 続き：否定文の作り方

第9回 Leçon 4：動詞 être (～である)と avoir (持っている) 「このカバンはすてきですね！」

第10回 Leçon 4 続き：指示形容詞 (この、あの～) 20から60までの数字

第11回 Leçon 5：形容詞の使い方 「彼女はとてもスポーツ好きです」

第12回 Leçon 5 続き：時間の言い方 国名と国籍

第13回 Leçon 6：動詞 aller (行く) と venir (来る) 「プレゼントをかうつもりです」

第14回 Leçon 6 続き：近い未来と近い過去 曜日と月の名前

第15回 前期のまとめと復習

定期試験 (定期試験期間中に行います)

| | | | |
|--|-----------|---------|---------|
| 科目名： フランス語総合1 (2年生以上) | | | |
| 英文名： Basic French 1 | | | |
| 担当者： <small>キタノ フミヒデ</small> 北野 文英 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2年次 | 開講期： 前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

フランスと聞いて、何を思い浮かべますか？ フランス料理とスイーツの国、世界のファッションをリードする国、モン・サン・ミッシェルなどの世界遺産を有する国。またフランスはヨーロッパで一番のマンガ大国でもあります！ フランス語は世界第二の国際語であり、世界の人々が英語の次に学ぶ言語です。しかも英語と共通する単語も多いので、簡単に学ぶことができます。そんなフランス語を学んでみませんか？

この講義では、フランス語を聞き、話し、読み、書くためのバランスの取れた能力の育成を目指します。基本的な文法を、日常的な会話文をもとに楽しく学びます。一人一人の積極的な参加を望みます！

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになります。またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことができます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関連しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784255352602 『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』(松村博史、バンドロム・エディ著：朝日出版社)

【留意事項】 第1回目の授業で購入先等の説明をします。教員の指示があるまで購入しないこと。

■参考文献

[ISBN]9784560000380 『ディコ仏和辞典』(白水社)

[ISBN]9784385119342 『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂：2015)

[ISBN]9784411005328 『新・リュミエールフランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫, 駿河台出版社)

【留意事項】 辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部の実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

担当教員に確認してください。

■オフィスアワー

担当教員に確認してください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 アルファベ 簡単なあいさつを覚えよう！

第3回 Leçon 1：あいさつの表現 「こんにちは！」

第4回 Leçon 1 続き：お礼・おわびの表現 1から20までの数字

第5回 Leçon 2：男性名詞と女性名詞 「コーヒーとサンドイッチをお願いします」

第6回 Leçon 2 続き：冠詞 身の回りのもの

第7回 Leçon 3：-er形の規則動詞 「音楽は好き？」

第8回 Leçon 3 続き：否定文の作り方

第9回 Leçon 4：動詞 être (～である)と avoir (持っている) 「このカバンはすてきですね！」

第10回 Leçon 4 続き：指示形容詞 (この、あの～) 20から60までの数字

第11回 Leçon 5：形容詞の使い方 「彼女はとてもスポーツ好きです」

第12回 Leçon 5 続き：時間の言い方 国名と国籍

第13回 Leçon 6：動詞 aller (行く) と venir (来る) 「プレゼントをかうつもりです」

第14回 Leçon 6 続き：近い未来と近い過去 曜日と月の名前

第15回 前期のまとめと復習

定期試験 (定期試験期間中に行います)

| | | | |
|--|-----------|---------|---------|
| 科目名： フランス語総合2 | | | |
| 英文名： Basic French 2 | | | |
| 担当者： <small>クダワラ ヤスコ</small> 久田原 泰子 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 1年次 | 開講期： 後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

「フランス語総合1」に引き続き、日常会話を楽しく学びながら、フランス語をさらに自由に使えるように知識を深めていきます。「フランス語総合2」では、さまざまな動詞を使いこなし、語彙も身に付けながら、会話でいろいろな内容を表現できるようにします。また文法では過去形も学び、簡単な文章も読めるレベルまで進んでいきます。前期と同様、毎回休まずに出席し、授業には積極的に参加しましょう！

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになります。またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことができます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関連しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784255352602 『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』(松村博史、バンドロム・エディ著：朝日出版社)
【留意事項】 第1回目の授業で購入先等の説明をします。教員の指示があるまで購入しないこと。

■参考文献

[ISBN]9784560000380 『ディコ仏和辞典』(白水社)
[ISBN]9784385119342 『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂：2015)
[ISBN]97844111005328 『新・リュミエールフランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫, 駿河台出版社)

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部の実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

担当教員に確認してください。

■オフィスアワー

担当教員に確認してください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 前期に学んだことの復習

第3回 Leçon 7：さまざまな疑問文 「荷物はありますか？」

第4回 Leçon 7 続き：所有形容詞 (私の～ etc.)

第5回 Leçon 8：-ir形のさまざまな動詞 「十分に寝る時間がないんだよ！」

第6回 Leçon 8 続き：命令形の使い方 道順の説明

第7回 Leçon 9 : 疑問詞① 「どうしてフランス語を勉強してるの？」

第8回 Leçon 9 続き : 動詞 faire (する・作る) と prendre (取る)

第9回 Leçon 10 : 過去形の使い方 「映画を観に行きました」

第10回 Leçon 10 続き : 過去形の続き 先週・今週・来週などの言い方

第11回 Leçon 11 : 疑問詞② 疑問形容詞 quel 「電車を乗り換えなくてはいいませんか？」

第12回 Leçon 11 続き : 動詞 vouloir (～したい)、pouvoir (～できる)、devoir (～ねばならない)

第13回 Leçon 12 : 比較級と最上級 「大阪の人はよりあたたかいです」

第14回 Leçon 12 続き : 比較級と最上級の続き 旅行に関する語彙

第15回 後期のまとめと復習

定期試験 (定期試験期間中に行います)

| | | | |
|------------------------------------|-----------|---------|---------|
| 科目名： フランス語総合2 (2年生以上) | | | |
| 英文名： Basic French 2 | | | |
| 担当者： <small>キタノ フミヒデ</small> 北野 文英 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2年次 | 開講期： 後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

「フランス語総合1」に引き続き、日常会話を楽しく学びながら、フランス語をさらに自由に使えるように知識を深めていきます。「フランス語総合2」では、さまざまな動詞を使いこなし、語彙も身に付けながら、会話でいろいろな内容を表現できるようにします。また文法では過去形も学び、簡単な文章も読めるレベルまで進んでいきます。前期と同様、毎回休まずに出席し、授業には積極的に参加しましょう！

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになります。またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことができます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関連しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784255352602 『クロワッサン 基礎からわかるフランス語』(松村博史、バンドロム・エディ著：朝日出版社)
【留意事項】 第1回目の授業で購入先等の説明をします。教員の指示があるまで購入しないこと。

■参考文献

[ISBN]9784560000380 『ディコ仏和辞典』(白水社)
[ISBN]9784385119342 『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂：2015)
[ISBN]9784411005328 『新・リュミエールフランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫, 駿河台出版社)

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部の実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

担当教員に確認してください。

■オフィスアワー

担当教員に確認してください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 前期に学んだことの復習

第3回 Leçon 7：さまざまな疑問文 「荷物はありますか？」

第4回 Leçon 7 続き：所有形容詞 (私の～ etc.)

第5回 Leçon 8：-ir形のさまざまな動詞 「十分に寝る時間がないんだよ！」

第6回 Leçon 8 続き：命令形の使い方 道順の説明

第7回 Leçon 9 : 疑問詞① 「どうしてフランス語を勉強してるの？」

第8回 Leçon 9 続き : 動詞 faire (する・作る) と prendre (取る)

第9回 Leçon 10 : 過去形の使い方 「映画を観に行きました」

第10回 Leçon 10 続き : 過去形の続き 先週・今週・来週などの言い方

第11回 Leçon 11 : 疑問詞② 疑問形容詞 quel 「電車を乗り換えなくてはいいませんか？」

第12回 Leçon 11 続き : 動詞 vouloir (～したい)、pouvoir (～できる)、devoir (～ねばならない)

第13回 Leçon 12 : 比較級と最上級 「大阪の人はよりあたたかいです」

第14回 Leçon 12 続き : 比較級と最上級の続き 旅行に関する語彙

第15回 後期のまとめと復習

定期試験 (定期試験期間中に行います)

| | | | |
|--------------------------------------|-----------|---------|---------|
| 科目名： フランス語総合3 | | | |
| 英文名： Basic French 3 | | | |
| 担当者： <small>チュウジョ セイイチ</small> 中所 聖一 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2年次 | 開講期： 前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

すでに「フランス語総合1,2」を履修した学生を対象とします。
 新しい文法の知識を増やしながら日常的な会話を楽しく学び、文化的背景についても理解を深めながら、フランス語を使いこなすための能力の完成を目指します。フランス語ネイティブと基本的な会話をしたり、旅行に行ってフランス語を話したり、検定の4級を受験できるレベルのフランス語が身につけられるでしょう。
 授業は知識を積み重ねていくことが必要ですので、休まず出席しましょう。予習と復習を欠かさないようにして、知識をしっかりと身に付けるようにしてください。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語の文法知識を深めながら、フランス語を使っていろいろな表現ができるようになる。また身の回りの直接的なことからについて、フランス語で理解し説明したりできる能力を身に付けることができる。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関連しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]978425535277 『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』(松村博史/バンドロム・エディ,朝日出版社:2017)

【留意事項】 第1回目の授業で購入先等の説明をします。教員の指示があるまでテキストは購入しないこと。

■参考文献

[ISBN]9784560000380 『ディコ仏和辞典』(白水社)

[ISBN]9784385119342 『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂:2015)

[ISBN]9784411005328 『新・リュミエールフランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫、駿河台出版社)

【留意事項】 辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

担当教員に確認してください。

■オフィスアワー

担当教員に確認してください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、これまで学んだ内容の復習と活用

第2回 Leçon 1 (1) 「名前は何て言うの?」: 動詞の現在形と複合過去の復習

第3回 Leçon 1 (2) 動詞の現在形と複合過去の復習(続き)、「頻度」に関する表現

第4回 Leçon 2 (1) 「彼女を紹介します」: 直接・間接目的語と強勢形の代名詞

第5回 Leçon 2 (2) 直接・間接目的語と強勢形の代名詞(続き)、「コミュニケーション」に関する表現

- 第6回 Leçon 3 (1) 「6時半頃に起きます」：代名動詞の使い方
- 第7回 Leçon 3 (2) 代名動詞の使い方 (続き)、一日の行動に関する表現
- 第8回 Leçon 3 までの復習と活用
- 第9回 Leçon 4 (1) 「一つ貸してあげるよ」：中性代名詞と指示代名詞
- 第10回 Leçon 4 (2) 「一つ貸してあげるよ」(続き)、「程度」に関する表現
- 第11回 Leçon 5 (1) 「バカンスの間何をするつもりなの?」：単純未来
- 第12回 Leçon 5 (2) 単純未来 (続き)、「～と言う・思う」などの表現
- 第13回 Leçon 6 (1) 読解文1 「日本マニアのフランス人」
- 第14回 Leçon 6 (2) 読解文1 「日本マニアのフランス人」(続き)
- 第15回 前期のまとめと復習
- 定期試験 (定期試験期間中に行う)

| | | | |
|--------------------------------------|-----------|---------|---------|
| 科目名： フランス語総合4 | | | |
| 英文名： Basic French 4 | | | |
| 担当者： <small>チュウジョ セイイチ</small> 中所 聖一 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2年次 | 開講期： 後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

これまでに習得した知識にさらに磨きをかけながら、フランス語の文法を完成に近づけます。日常のさまざまな場面で会話文を楽しく学びながら、それらの表現を自分でも使えるように練習し、より幅広い分野の語彙も身につけて、簡単な文章なども読みこなせるようにします。そうすることによって、フランス語圏の文化についてもより深く知ることができるようでしょう。

前期と同様、休まず出席しましょう。また予習や復習もして知識をしっかりと身に付けてください。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語の文法知識を深めながら、フランス語を使っているいろいろな表現ができるようになる。また身の回りの直接的なことからについて、フランス語で理解し説明したりできる能力を身に付けることができる。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関連しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]978425535277 『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』(松村博史/バンドロム・エディ, 朝日出版社: 2017)

■参考文献

[ISBN]9784560000380 『デココ仏和辞典』(白水社)

[ISBN]9784385119342 『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂: 2015)

[ISBN]9784411005328 『新・リュミエールフランス文法参考書 増補改訂版』(森本 英夫、駿河台出版社)

【留意事項】 辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

担当教員に確認してください。

■オフィスアワー

担当教員に確認してください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション (前期の復習)

第2回 Leçon 7 (1): 「祖父母の家に行っていました」: 半過去

第3回 Leçon 7 (2) 半過去 (続き)、「活動」に関する表現

第4回 Leçon 8 (1) 「合格したければ、一生懸命勉強しなくてはいけないね」: 時・理由・条件を表す接続詞

第5回 Leçon 8 (2) 時・理由・条件を表す接続詞 (続き)、「大学生活」に関する表現

第6回 Leçon 9 (1) 「私だったら、ティラミスにするな」：条件法

第7回 Leçon 9 (2) 条件法 (続き)、「レストラン」に関する表現

第8回 Leçon 9 までの復習と活用

第9回 Leçon 10 (1) 「それは街を見おろす場所です」：関係代名詞

第10回 Leçon 10 (2) 関係代名詞 (続き)、「観光地」に関する表現

第11回 Leçon 11 (1) 「何をしたらいいですか」：接続法

第12回 Leçon 11 (2) 接続法 (続き)、いろいろなあいづち

第13回 Leçon 12 (1) 読解文2 「ワッフルとムール・フリットの国ベルギー」

第14回 Leçon 12 (2) 読解文2 「ワッフルとムール・フリットの国ベルギー」(続き)

第15回 これまで学んだ内容の復習と活用

定期試験 (定期試験期間中に行う)

科目名： フランス語コミュニケーション1

英文名： French Communication 1

担当者： マツムラ ヒロシ
松村 博史

単 位： 1単位

開講年次： 2～4年次

開講期： 前期

必修選択の別：

■授業概要・方法等

すでに「フランス語総合1・2」を履修した人を対象にします。「総合1・2」で学んだ知識を実際を使って、フランス語でいろいろな会話ができるように練習します。
簡単な内容から始まるテキストを使用して、ビデオを使ったダイアログで自分で受け答えをしたり、基本的な表現をもとに、少しずつ幅広い内容を言ってみる練習をします。またフランス語圏の文化を紹介する資料やビデオも用いて、臨場感をもって会話の練習ができるようにいろいろと工夫します。
楽しみながら、フランス語を今すぐ話したくなる授業を一緒に作っていきましょう！

■学習・教育目標および到達目標

受講者はこれまでに学んだ知識を実際に運用して、フランス語で会話ができるようになる。またフランス語で自分を表現し、相手の立場を理解してコミュニケーションを図ることに意欲的に取り組むことができる。この科目の修得は、大学の定めるディプロマポリシー4の達成に関連しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784411011145 『新・東京-パリ、初飛行』(藤田 裕二, 駿河台出版社: 2011)

【留意事項】 第1回目の授業で購入先等の説明をします。教員の指示があるまで購入しないこと。

■参考文献

[ISBN]9784560000427 『パスポート仏和・和仏小辞典 第2版』(白水社: 2012)

[ISBN]9784385119342 『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂: 2015)

【留意事項】 辞書・参考書については、教員の指示を聞いて参考にすること。

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

研究室： A館6階 e-mail： hmatsu@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 日常のあいさつと自己紹介

第3回 「あなたは学生ですか？」 動詞êtreを使いこなす

第4回 「兄が1人と妹が2人います」 動詞avoirを使いこなす

第5回 「私は自然が大好きです」 -er動詞を使いこなす(1)

第6回 「日曜日には森を散歩します」 -er動詞を使いこなす(2)

第7回 「これは私の自動車ではありません」 所有形容詞の使い方

第8回 「彼女はとてもエレガントです」 形容詞を使いこなす(1)

第9回 「彼女は小さな赤い帽子をかぶっています」 形容詞を使いこなす(2)

第10回 「どうやって家に帰るのですか？」 疑問代名詞・疑問副詞の使い方

第11回 「この週末は何をするつもりですか？」 動詞allerとvenirを使いこなす

第12回 「毎日雨が降ります」 天候や時刻の表現を身につける

第13回 「ビスコットは何枚食べますか？」 数量を説明する

第14回 「君に友達のソフィーを紹介するよ」 目的語の代名詞を使いこなす

第15回 前期の復習と会話練習

定期試験（定期試験期間中に行う）

| | | | |
|------------------------------------|-------------|---------|---------|
| 科目名： フランス語コミュニケーション2 | | | |
| 英文名： French Communication 2 | | | |
| 担当者： <small>マツムラ ヒロシ</small> 松村 博史 | | | |
| 単 位： 1単位 | 開講年次： 2～4年次 | 開講期： 後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

前期に続いて、フランス語の会話能力が身に付くような実践的な授業を目指します。すでに学んだ表現にもさらに磨きをかけながら、より複雑な内容も説明できるようにフランス語の会話力を高めていきましょう。新しい文法内容も出てきますが、それも会話の中で使いこなせるようになっていきましょう。後期にもフランス語圏の文化をところどころで紹介し、臨場感のある会話練習をします。フランス語圏の国々に行って話してみたい授業を一緒に作っていきましょう！

■学習・教育目標および到達目標

受講者はこれまでに学んだ知識を実際に運用して、フランス語で会話ができるようになる。またフランス語で自分を表現し、相手の立場を理解してコミュニケーションを図ることに意欲的に取り組むことができる。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関連しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784411011145『新・東京-パリ、初飛行』(藤田 裕二, 駿河台出版社:2011)

■参考文献

[ISBN]9784560000427『パスポート仏和・和仏小辞典 第2版』(白水社:2012)

[ISBN]9784385119342『クラウン仏和辞典 第7版 小型版』(三省堂:2015)

■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

研究室： A館6階 e-mail： hmatsu@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 「私は9時に起きます」 一日の行動を説明してみよう

第3回 「よく電話で話をします」 代名動詞を使いこなす

第4回 「ときどきお手紙くださいね」 命令文を使ってみよう

第5回 「2年後には卒業します」 未来のことを語る(1)

第6回 「来週フランスに出発します」 未来のことを語る(2)

第7回 「いいヴァカンスを過ごしましたか」 過去のことを語る(1)

第8回 「私はずっとパリにいました」 過去のことを語る(2)

第9回 「私たちはリヨン大学の学生でした」 過去のことを語る(3)

第10回 「それは昨日私が買った本です」 関係代名詞を使ってみよう(1)

第11回 「これは今話題になっている映画です」 関係代名詞を使ってみよう(2)

第12回 「ベルナールはミシェルより優しいです」 比較の表現を使いこなそう

第13回 「もし私が金持ちだったら、世界一周するでしょう」 仮定表現を使う(1)

第14回 「私の家に来ていたら、アンヌに会えただろうに」 仮定表現を使う(2)

第15回 前期の復習と会話練習

定期試験（定期試験期間中に行う）

| | | | |
|---|----------|--------|---------|
| 科目名：中国語総合1 | | | |
| 英文名：Basic Chinese 1 | | | |
| 担当者： <small>ハラダ マコト ハタ シノブ</small> 原田 信・畑 忍 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

中国語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的な中国語を用いてコミュニケーションが図れるようにします。「総合1」では、中国語の音節構造を理解し、発音表記（ピンイン）に習熟することが第一の目標となりますが、簡単な自己紹介や日常会話ができるよう、文法の基礎もしっかりと学んでいきます。

■学習・教育目標および到達目標

「総合2」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784255452371 『日中いぶこみ広場・簡明版』（相原茂・陳淑梅・飯田敦子 朝日出版社）

■参考文献

辞書：

[ISBN]9784385121703 『デイリーコンサイズ中日・日中辞典 第3版, 中型版』（杉本達夫, 三省堂）

[ISBN]9784095156958 『中日辞典 第2版, 大活字版』（北京・商務印書館, 小学館）

参考書：

[ISBN]9784061489875 『はじめての中国語（講談社現代新書 987）』（相原茂, 講談社）

[ISBN]9784480056665 『中国語はじめの一步（ちくま新書 066）』（木村英樹, 筑摩書房）

■関連科目

中国語総合2, 中国語総合3・4（建築を除く）

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 発音1 声調・単母音・複母音・練習問題

第2回 発音2 声母表・無気音と有気音・そり舌音・消えるoとe・同じiでも違う音・練習問題

第3回 発音3 鼻音を伴う母音・またしても消えるe・eのヴァリエーション・練習問題

第4回 発音4 第3声の連続・「不」の声調変化・「一」の声調変化・轻声・声調の組み合わせ・隔音マーク・r化・練習問題

第5回 第1課 動詞「是」・名前の言い方・挨拶ことば・人称代名詞・練習

第6回 第2課 助詞「的」・疑問詞・語気助詞・練習

第7回 第1課～第2課の復習

第8回 第3課 動詞述語文・副詞「也」・連動文・場所を表すことば・指示代名詞・練習

第9回 第4課 助動詞「想」・反復疑問文・形容詞述語文・指示代名詞・練習

第10回 第3課～第4課の復習

第11回 第5課 年齢の言い方・動詞「有」・比較の言い方・数詞その1・練習

第12回 第6課 経験の表し方・動詞「～が好きだ」・助動詞の「要」・数詞その2・練習

第13回 第5課～第6課の復習

第14回 第7課 年月日、曜日、時刻の言い方・前置詞その1・文末の了・練習

第15回 総合1の総復習

定期試験

| | | | |
|--------------------------------|----------|--------|---------|
| 科目名：中国語総合1（2年生以上） | | | |
| 英文名：Basic Chinese 1 | | | |
| 担当者： ^{イイツカ キミホ} 飯塚 君穂 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

中国語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的な中国語を用いてコミュニケーションが図れるようにします。「総合1」では、中国語の音節構造を理解し、発音表記（ピンイン）に習熟することが第一の目標となりますが、簡単な自己紹介や日常会話ができるよう、文法の基礎もしっかりと学んでいきます。

■学習・教育目標および到達目標

「総合2」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784255452371 『日中いぶこみ広場・簡明版』（相原茂・陳淑梅・飯田敦子 朝日出版社）

■参考文献

辞書：

[ISBN]9784385121703 『デイリーコンサイズ中日・日中辞典 第3版, 中型版』（杉本達夫, 三省堂）

[ISBN]9784095156958 『中日辞典 第2版, 大活字版』（北京・商務印書館, 小学館）

参考書：

[ISBN]9784061489875 『はじめての中国語（講談社現代新書 987）』（相原茂, 講談社）

[ISBN]9784480056665 『中国語はじめの一步（ちくま新書 066）』（木村英樹, 筑摩書房）

■関連科目

中国語総合2, 中国語総合3・4（建築を除く）

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 発音1 声調・単母音・複母音・練習問題

第2回 発音2 声母表・無気音と有気音・そり舌音・消えるoとe・同じiでも違う音・練習問題

第3回 発音3 鼻音を伴う母音・またしても消えるe・eのヴァリエーション・練習問題

第4回 発音4 第3声の連続・「不」の声調変化・「一」の声調変化・轻声・声調の組み合わせ・隔音マーク・r化・練習問題

第5回 第1課 動詞「是」・名前の言い方・挨拶ことば・人称代名詞・練習

第6回 第2課 助詞「的」・疑問詞・語気助詞・練習

第7回 第1課～第2課の復習

第8回 第3課 動詞述語文・副詞「也」・連動文・場所を表すことば・指示代名詞・練習

第9回 第4課 助動詞「想」・反復疑問文・形容詞述語文・指示代名詞・練習

第10回 第3課～第4課の復習

第11回 第5課 年齢の言い方・動詞「有」・比較の言い方・数詞その1・練習

第12回 第6課 経験の表し方・動詞「～が好きだ」・助動詞の「要」・数詞その2・練習

第13回 第5課～第6課の復習

第14回 第7課 年月日、曜日、時刻の言い方・前置詞その1・文末の了・練習

第15回 総合1の総復習

定期試験

| | | | |
|--|----------|--------|---------|
| 科目名：中国語総合2 | | | |
| 英文名：Basic Chinese 2 | | | |
| 担当者： <small>ハラダ マコト ハタ シノブ</small> 原田 信・畑 忍 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

「総合2」では、「総合1」で習熟したピンインを見て、一字一句正確に発音できることを目指します。また平易な文章を聞き、話すことができるよう中国語の基礎的知識を身につけ、初級レベルのコミュニケーションが図れるようにします。

■学習・教育目標および到達目標

「総合1」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784255452371『日中いぶこみ広場・簡明版』(相原茂・陳淑梅・飯田敦子,朝日出版社)

■参考文献

辞書：

[ISBN]9784385121703『デイリーコンサイズ中日・日中辞典 第3版, 中型版』(杉本達夫, 三省堂)

[ISBN]9784095156958『中日辞典 第2版, 大活字版』(北京・商務印書館, 小学館)

参考書：

[ISBN]9784061489875『はじめての中国語 (講談社現代新書 987)』(相原茂, 講談社)

[ISBN]9784480056665『中国語はじめの一步 (ちくま新書 066)』(木村英樹, 筑摩書房)

■関連科目

中国語総合1, 中国語総合3・4 (建築を除く)

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 総合1の復習

第2回 第8課 前置詞その2・動詞につく「了」・時間量の言い方・量詞・練習

第3回 第9課 動詞の「在」・是～的構文・進行の表し方・場所を著すことば・方位詞・練習

第4回 第8課～第9課の復習

第5回 第10課 主述述語文・助動詞「能」・結果補語・練習

第6回 第11課 助動詞「会」・二重目的語をとる動詞・様態補語・自然現象の表し方・練習

第7回 第10課～第11課の復習

第8回 第12課 方向補語・動詞の重ね型・助動詞「可以」・練習

第9回 第13課 疑問詞の不定用法・要是～・助動詞「得」・助動詞のまとめ・練習

第10回 第12課～第13課の復習

第11回 第14課 可能補語・把構文・お金の言い方・練習

第12回 第15課 選択疑問文・形容詞の重ね型・使役の表現・練習

第13回 第14課～第15課の復習

第14回 第16課 未来の表現・受け身の表現・禁止の表現・前置詞のまとめ・練習

第15回 総合2の総復習

定期試験

| | | | |
|-----------------------------------|----------|--------|---------|
| 科目名：中国語総合2（2年生以上） | | | |
| 英文名：Basic Chinese 2 | | | |
| 担当者： <small>イツカ キミホ</small> 飯塚 君穂 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：1年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別： |

■授業概要・方法等

「総合2」では、「総合1」で習熟したピンインを見て、一字一句正確に発音できることを目指します。また平易な文章を聞き、話すことができるよう中国語の基礎的知識を身につけ、初級レベルのコミュニケーションが図れるようにします。

■学習・教育目標および到達目標

「総合1」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に關与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784255452371『日中いぶこみ広場・簡明版』（相原茂・陳淑梅・飯田敦子,朝日出版社）

■参考文献

辞書：

[ISBN]9784385121703『デイリーコンサイズ中日・日中辞典 第3版, 中型版』（杉本達夫, 三省堂）

[ISBN]9784095156958『中日辞典 第2版, 大活字版』（北京・商務印書館, 小学館）

参考書：

[ISBN]9784061489875『はじめての中国語（講談社現代新書 987）』（相原茂, 講談社）

[ISBN]9784480056665『中国語はじめの一步（ちくま新書 066）』（木村英樹, 筑摩書房）

■関連科目

中国語総合1, 中国語総合3・4（建築を除く）

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 総合1の復習

第2回 第8課 前置詞その2・動詞につく「了」・時間量の言い方・量詞・練習

第3回 第9課 動詞の「在」・是～的構文・進行の表し方・場所を著すことば・方位詞・練習

第4回 第8課～第9課の復習

第5回 第10課 主述述語文・助動詞「能」・結果補語・練習

第6回 第11課 助動詞「会」・二重目的語をとる動詞・様態補語・自然現象の表し方・練習

第7回 第10課～第11課の復習

第8回 第12課 方向補語・動詞の重ね型・助動詞「可以」・練習

第9回 第13課 疑問詞の不定用法・要是～・助動詞「得」・助動詞のまとめ・練習

第10回 第12課～第13課の復習

第11回 第14課 可能補語・把構文・お金の言い方・練習

第12回 第15課 選択疑問文・形容詞の重ね型・使役の表現・練習

第13回 第14課～第15課の復習

第14回 第16課 未来の表現・受け身の表現・禁止の表現・前置詞のまとめ・練習

第15回 総合2の総復習

定期試験

| | | | |
|----------------------------------|----------|--------|-------------|
| 科目名：中国語総合3 | | | |
| 英文名：Basic Chinese 3 | | | |
| 担当者： <small>コイデ アツシ</small> 小出 敦 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2年次 | 開講期：前期 | 必修選択の別：選択科目 |

■授業概要・方法等

中国語総合1, 2を履修し、基礎的事項を習得した学生を対象とする科目です。
中国語総合1, 2で学習した単語や文法事項を復習しながら、単語量と文法的な知識を増やし、自分の言葉で表現できる力を養います。「総合3」では、主に「読む」と「書く」に重点を置き、中国語運用能力の基礎を身につけます。中国語を読んで理解し、自分の言いたいことが書けること、また情報や自分の考えを場面や目的に応じて適切に伝えられることを目指します。

■学習・教育目標および到達目標

総合4とあわせて、中国語検定4級程度の常用語彙と文法力を身につけます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に關与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784560069233『中国語つぎへの一步(解答なし)』(尹 景春,白水社)

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1, 2, 4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

中国語総合1, 2を履修し、基礎的事項を習得した学生を対象とする科目です。
中国語総合1, 2で学習した単語や文法事項を復習しながら、単語量と文法的な知識を増やし、自分の言葉で表現できる力を養います。「総合3」では、主に「読む」と「書く」に重点を置き、中国語運用能力の基礎を身につけます。中国語を読んで理解し、自分の言いたいことが書けること、また情報や自分の考えを場面や目的に応じて適切に伝えられることを目指します。

第1回 中国語発音の復習

基本動詞・形容詞をチェックしよう 復習2 基本文型をチェックしよう

第2回 第1課 中国に行こう！

助動詞「可以」「要」・主述述語文

第3回 第1課 中国に行こう！

目的語が主述句のとき

第4回 第2課 ジャスミン茶を飲もう！

「的」の用法・原因理由の表現

第5回 第2課 ジャスミン茶を飲もう！

文末の助詞

第6回 第3課 友だちをつくろう！

連動文

第7回 第3課 友だちをつくろう！

「是～的」の文・疑問詞「怎么」

第8回 第1課～第3課の復習

第9回 第4課 長城に登ろう！

「了」の三つの用法

第10回 第4課 長城に登ろう！

副詞「就」

第11回 第5課 卓球を楽しもう！

様態補語

第12回 第5課 卓球を楽しもう！

可能性の予測をあらわす「会」・「假定」をあらわす「要是」

第13回 第6課 漢字を覚えよう！

結果補語（1）

第14回 第6課 漢字を覚えよう！

副詞 有点儿

第15回 「総合3」の復習

定期試験

| | | | |
|------------------------------|----------|--------|-------------|
| 科目名：中国語総合4 | | | |
| 英文名：Basic Chinese 4 | | | |
| 担当者： ^{ムラタ ヒロシ} 村田 浩 | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別：選択科目 |

■授業概要・方法等

「中国語総合3」に引き続き、語彙と文法的な知識を増やし、自分の言葉で表現できる力を養い、総合的な中国語運用能力を伸ばしてゆきます。

■学習・教育目標および到達目標

総合3と併せて、中国語検定4級程度の常用語彙と文法力を身につけます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784560069233『中国語つぎへの一歩(解答なし)』(尹 景春,白水社)

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1, 2, 3

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 「総合3」の復習

第2回 第7課 街を歩こう！

存現文

第3回 第7課 街を歩こう！

主語がフレーズするとき・「～了～了」の用法

第4回 第8課 中国映画を見よう！

「状態の持続」をあらわす「着」

第5回 第8課 中国映画を見よう！

副詞「再」・疑問詞の不定用法

第6回 第9課 チャイナドレスを買おう！

方向補語

第7回 第9課 チャイナドレスを買おう！

使役の文

第8回 第7課～第9課の復習

第9回 第10課 中華を食べよう！

可能補語

第10回 第10課 中華を食べよう！

強調表現

第11回 第11課 西遊記を読もう！

結果補語 (2)

第12回 第11課 西遊記を読もう！

受け身の文

第13回 第12課 春節を祝おう！

近い未来の表現

第14回 第12課 春節を祝おう！

処置式の文

第15回 「総合4」の総復習

定期試験

科目名：中国語コミュニケーション1

英文名：Chinese Communication 1

担当者：畑^{ハタ}忍^{シノブ}

単 位：1単位

開講年次：2～4年次

開講期：前期

必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

中国語総合1, 2を履修し、基礎的事項をマスターした学生を対象とする科目です。中国語総合1, 2で学習した単語や文法事項を復習しながら、日常の身近な話題をテーマに、自分の言葉で表現できる力を養います。「コミュニケーション1」では、主に「聞く」と「話す」に重点を置き、中国語による会話能力の基礎を身につけます。中国語を聞いて適切に反応し、質問のやりとりができること、また情報や自分の考えを場面や目的に応じて適切に伝えることを学びます。この科目を受講する人は、「中国語総合3」と併せて受講されることをお勧めします。

■学習・教育目標および到達目標

日常生活の具体的な場面で、最低限必要とされる語彙や慣用表現を身につけます。簡単な文を聞き取って、基本的な言い回しを用いて自己表現できるようにします。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]4863981414『プラクティカル中国語』(張素芳・許麗・張小鋼, 白帝社: 2013)

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1, 2, 3, 4

中国語コミュニケーション2, 3, 4

中国語カルチャーセミナーA, B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 中国語の発音と文法の復習

第2回 第1課 "是"の文・単純疑問文・疑問詞疑問文

お名前は何といいますか

第3回 第2課 数字・年齢のいい方・助詞"的" (1)

あなたは今年おいくつですか

第4回 第3課 動詞述語文・形容詞述語文

あなたは何を勉強していますか

第5回 第4課 指示代名詞・助詞"的" (2)

これは何ですか

第6回 第5課 副詞"都""也"・動詞"有"

これらのペンは全部あなたのですか

第7回 第6課 場所代名詞・前置詞"在"

あなたのペンはどこで買ったのですか

第8回 第1課～第6課の復習

第9回 第7課 時刻の言い方と聞き方

あなたは毎日朝何時に起きますか

第10回 第8課 量詞・時点／時量の表現

学校は何時に授業が始まりますか

第11回 第9課 助詞"的" (3)・補語 (1) 数量補語

学校が終わった後、あなたは何をしますか

第12回 第10課 動詞"在"・動詞"有" (2)

あなたの家はどこにありますか

第13回 第11課 省略疑問文・親族名称

あなたの家は何人家族ですか

第14回 第12課 反復疑問文・語気助詞

あなたの家にはペットがいますか

第15回 第7課～第12課の復習

定期試験

| | | | |
|--------------------------------------|------------|--------|-------------|
| 科目名：中国語コミュニケーション2 | | | |
| 英文名：Chinese Communication 2 | | | |
| 担当者：畑 ^{ハタ} 忍 ^{シノブ} | | | |
| 単 位：1単位 | 開講年次：2～4年次 | 開講期：後期 | 必修選択の別：選択科目 |

■授業概要・方法等

「コミュニケーション1」に引き続き、日常の身近な話題や生活習慣をテーマに、中国語による自己表現力を高めていきます。語彙を増やすとともに文法力や表現力も強化し、中国語による会話能力をいっそう高めていきます。この科目を受講する人は、「中国語総合4」と併せて受講されることをお勧めします。

■学習・教育目標および到達目標

日常生活の具体的な場面で、最低限必要とされる語彙や慣用表現を身につけます。簡単な文を聞き取って、基本的な言い回しを用いて自己表現できるようにします。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]4863981414『プラクティカル中国語』(張素芳・許麗・張小鋼, 白帝社: 2013)

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1, 2, 3, 4
中国語コミュニケーション1, 3, 4
中国語カルチャーセミナーA, B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 20%
口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 「コミュニケーション1」の復習

第2回 第13課 助動詞"想"・連動文

あなたの趣味は何ですか

第3回 第14課 進行表現"在"・助動詞"会"・"能"

あなたは中国語を話すことができますか

第4回 第15課 前置詞"除了"・助動詞"打算"

中国語のほかに、あなたは何を勉強したいですか

第5回 第16課 助詞"了"(1)(2)

夏休みにあなたはどこに行きましたか

第6回 第17課 方向補語

あなたたちはどれくらい遊びましたか

第7回 第18課 様態補語・お金の数え方

あなたはどんなプレゼントを買いましたか

第8回 第13課～第18課の復習

第9回 第19課 動詞の重ね型・他の助詞

あなたは中国の映画を見たことがありますか

第10回 第20課 助動詞"要"・"在～上"

この映画はどんな内容ですか

第11回 第21課 "好係"・"受身文"被～"

この映画はどこで撮ったのですか

第12回 第22課 選択疑問文・"快～了"・"和～一起"

新年にあなたは何をする予定ですか

第13回 第23課 比較表現・程度補語

北海道は名古屋より寒いでしょう

第14回 第24課 "越来越～"

あなたたちはどのように新年を過ごしていますか

第15回 第19課～第24課の復習

定期試験

薬学部 授業計画 (2017)

2017.4 印刷発行

発行者 近畿大学薬学部

編集 近畿大学薬学部 教務委員会

所在地 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1

電話番号 (06) 4307-3058

インターネット版シラバス

下記のアドレスでもシラバスを公開しています。

<http://syllabus.itp.kindai.ac.jp/customer/Form/sy01000.aspx>

※インターネット版シラバスでは、学科名以外にも、キーワードや、開講年次、単位、開講期、科目区分、必修・選択の別などの科目属性からシラバスを検索することができます。